平成元年度　神戸市埋蔵文化財年報

1992

神戸市教育委員会

平成元年度　神戸市埋蔵文化財年報

1992

神戸市教育委員会

序

神戸市教育委員会では、本年度も文化財の保護・啓発・調査事業を意欲的に進めてまいりました。

埋蔵文化財関係では近年、都市再開発事業や、交通網の整備などの開発、民間の共同住宅建設の増加に伴う、緊急発掘調査の件数が年々急増し、それによる新たな遺跡の発見が相次いでいます。このような状況に対し、今年度は学芸員を２名増員し、教育委員会と財団法人神戸市スポーツ教育公社が調査を担当するという体制で調査をおこなっております。

また、平成３年９月には、西区糀台西神中央公園内に神戸市埋蔵文化財センターが開館しました。当センターは、市内出土の埋蔵文化財の整理・収蔵・展示・調査研究・啓発の拠点として一般公開しております。今後、市民の皆様に広く利用していただければ、幸いに存じます。

本書は、平成元年度に実施した発掘調査の概要を記したもので、市内で発見された「祖先の遺産」の記録です。市内の遺跡や、その出土遺物を通じて、神戸の歴史を知っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、御協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝をいたします。

平成４年３月

神戸市教育長　福　尾　重　信

例　　言

1．本書は、神戸市教育委員会が平成元年度に実施した埋蔵文化財事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財専門委員の指導を得て下記の調査組織によって行った。

調査関係者組織表

神戸市文化財専門委員（埋蔵文化財部会委員）

檀上　重光	神戸新聞社監査役	神戸市立博物館副館長
宮本長二郎	奈良国立文化財研究所	
和田　晴吾	立命館大学文学部教授	

教育委員会事務局

教育長	緒方　学
〃	福尾　重信
社会教育部長	岡村　二郎
文化財課長	西川　知佑
埋蔵文化財係長	奥田　哲通
文化財課主査	中村　善則・渡辺　伸行
事務担当学芸員	西岡　巧次
調査担当学芸員	丸山　潔
〃	丹治　康明
〃	千種　浩（保存処理担当）
〃	黒田　恭正
〃	西岡　誠司
〃	山本　雅和
〃	安田　滋
〃	須藤　宏
〃	佐伯　二郎
〃	山口　英正
〃	東　喜代秀
〃	斎木　巌
〃	松林　宏典
〃	阿部　敬生

㈶神戸市スポーツ教育公社

理事長	宮岡　寿雄
〃	赤坂　典昭
〃	緒方　学
副理事長	緒方　学
〃	福尾　重信
専務理事	垂井　圭司
常務理事	白石　仁志
総務部長	藤井　浩
総務課長	静観　圭一
文化財調査係長（文化財課主査兼務）	中村　善則
事務担当	鷲尾　稔一
調査担当学芸員	菅本　宏明
〃	口野　博史
〃	谷　正俊
〃	前田　佳久
〃	富山　直人
〃	池田　毅
〃	内藤　俊哉
〃	橋詰　清孝
〃	浅谷　誠吾

2．本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究会社会科研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の５万分の１神戸市全図を、また各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の１地形図を使用した。

3．本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆して作成し、谷　正俊が編集を行った。

4．表紙写真は、本山遺跡出土銅鐸（表表紙・Ａ面）、（裏表紙・Ｂ面）である。

目　　次

序
例　言
Ⅰ．平成元年度事業概要……1
平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表……5
平成元年度神戸市埋蔵文化財調査地位置図……12

Ⅱ．平成元年度の発掘調査……19
1．神出遺跡……19
2．和田遺跡……33
3．栄遺跡……43
4．養田遺跡……61
5．鍋谷池遺跡……65
6．大畑遺跡……69
7．玉津田中遺跡（平野地区）……75
8．印路遺跡……97
9．出合遺跡……111
10．西神ニュータウン内遺跡（西神No.65地点遺跡）……117
11．長谷遺跡……123
12．栃木遺跡……133
13．狩口台遺跡……139
14．五色塚古墳……143
15．戎町遺跡（第4次調査）……147
16．戎町遺跡（第5次調査）……157
17．長田神社境内遺跡……163
18．三番町遺跡……169
19．上沢遺跡……173
20．大開遺跡……189
21．楠・荒田町遺跡……195
22．熊内遺跡……201
23．日暮遺跡……205
24．西求女塚古墳……213
25．郡家遺跡(大蔵地区)……217
26．住吉宮町遺跡……225

27．魚崎中町遺跡 ……235
28．本山遺跡 ……239
29．森北町遺跡 ……249
30．淡河中村遺跡 ……261
31．宅原遺跡（有井地区）……265
32．宅原遺跡（豊浦地区）……275
33．下上津遺跡(神子田地区),宅原・上津条里遺構……295
34．宅原遺跡（内垣地区）……303
35．北神ニュータウン内遺跡（宅原・上天神地区）……309
36、上小名田遺跡 ……313
37．下二郎遺跡 ……327

III．平成元年度の保存科学処理 ……335

挿　図　目　次

fig.　1　調査地位置図 ……19
fig.　2　第１トレンチＳＢ01・02・03平面図 ……20
fig.　3　第１トレンチ平面図 ……21
fig.　4　第２トレンチ南半（北から）〔写真〕……22
fig.　5　第２トレンチ平面図 ……22
fig.　6　第４トレンチ平面図 ……23
fig.　7　第４トレンチＳＢ01平面図 ……23
fig.　8　第５トレンチ全景（西から）〔写真〕……24
fig.　9　第５トレンチ平面図 ……24
fig.　10　第６トレンチ全景（南から）〔写真〕……25
fig.　11　第６トレンチＳＢ01平面図 ……25
fig.　12　第６トレンチ平面図 ……26
fig.　13　第６トレンチ窯状遺構土器出土状況図・平面図・断面図 ……27
fig.　14　第６トレンチ窯状遺構検出状況（南から）〔写真〕 ……28
fig.　15　第８・９トレンチ平面図 ……29
fig.　16　調査区遠景（北から）〔写真〕……30
fig.　17　神出遺跡出土瓦 ……31
fig.　18　神出遺跡出土土器・硯 ……32
fig.　19　調査地位置図 ……33
fig.　20　第１トレンチ全景（南から）〔写真〕……34
fig.　21　第１トレンチ平面図 ……34
fig.　22　第１トレンチ遺物出土状況図・断面図 …35
fig.　23　第１トレンチＳＤ01遺物出土状況〔写真〕…36
fig.　24　同上細部（西から）〔写真〕 ……36
fig.　25　第１トレンチＳＤ01出土土器 ……37
fig.　26　第１トレンチ出土土器 ……38
fig.　27　第１トレンチＳＰ01土器出土状況〔写真〕 ……39
fig.　28　第１トレンチＳＰ01土器出土状況図 ……39
fig.　29　第２・第３トレンチ平面図 ……40
fig.　30　第２トレンチ全景（北西から）〔写真〕…40
fig.　31　第３トレンチ全景（北から）〔写真〕……41
fig.　32　第２・第３トレンチ出土遺物 ……42
fig.　33　調査地位置図 ……43
fig.　34　試掘坑１出土土器 ……44
fig.　35　第１地区第１遺構面（北東から）〔写真〕 ……45
fig.　36　第１地区第１・第２遺構面平面図 ……45
fig.　37　第１地区第２遺構面ＳＫ04・06土器・河原石出土状況図 ……46
fig.　38　第１地区第２遺構面ＳＫ04土器・河原石出土状況〔写真〕 ……46
fig.　39　第１地区第２遺構面ＳＫ07土器・河原石出土状況（南から）〔写真〕 ……47
fig.　40　第１地区第２遺構面ＳＫ07底面の河原石検出状況（北から）〔写真〕 ……47
fig.　41　第１地区ＳＫ07遺物・河原石出土状況図 ……48

fig. 42 第１地区土坑出土土器 ……49
fig. 43 第１地区古墳時代の自然流路平面図・土器出土状況図 ……50
fig. 44 第１地区自然流路内土器出土状況〔写真〕 ……51
fig. 45 第１地区自然流路内出土土器 ……51
fig. 46 第４トレンチＳＤ01土器・河原石・焼土出土状況（西から） ……52
fig. 47 第３・第４トレンチ平面図 ……53
fig. 48 第４トレンチＳＤ01・ＳＫ01遺物出土状況図 ……53
fig. 49 第４トレンチ出土遺物 ……54
fig. 50 第５トレンチＳＫ01出土土器 ……54
fig. 51 第５トレンチ平面図 ……55
fig. 52 第５トレンチＳＫ02河原石・土器出土状況（西から）〔写真〕 ……56
fig. 53 第５トレンチＳＫ03河原石・土器出土状況（東から）〔写真〕 ……56
fig. 54 第５トレンチＳＫ02・03土器・河原石出土状況図 ……57
fig. 55 第５トレンチＳＫ02・03出土遺物 ……58
fig. 56 第５トレンチＳＢ01全景（南から）〔写真〕 ……59
fig. 57 第５トレンチＳＫ02検出作業状況〔写真〕 ……60
fig. 58 調査地位置図 ……61
fig. 59 調査区平面図および断面模式図 ……62
fig. 60 Ⅲ区ＳＤ03平面・断面図 ……63
fig. 61 養田遺跡出土土器 ……64
fig. 62 調査地全景（北西から）〔写真〕 ……64
fig. 63 調査地位置図 ……65
fig. 64 Ａ地区平面図 ……66
fig. 65 地山整形遺構検出状況（東から）〔写真〕 ……67
fig. 66 地山整形遺構平面・断面図 ……67
fig. 67 Ｂ地区平面図 ……67
fig. 68 鍋谷池遺跡出土遺物 ……68
fig. 69 調査地位置図 ……69
fig. 70 １トレンチ中世遺構面（南から）〔写真〕 ……70
fig. 71 ２トレンチ中世遺構面（北から）〔写真〕 ……70
fig. 72 ３トレンチ中世遺構面（南から）〔写真〕 ……71
fig. 73 １トレンチ・２トレンチ平面図 ……71
fig. 74 ２トレンチＨ・Ｉ区断面図 ……72
fig. 75 ２トレンチＨ・Ｉ区土器出土状況図 ……72
fig. 76 大畑遺跡出土土器 ……73
fig. 77 ２トレンチＢ・Ｃ区土器出土状況（北から）〔写真〕 ……74
fig. 78 ２トレンチＥ区土器出土状況（東から）〔写真〕 ……74
fig. 79 調査地位置図 ……75
fig. 80 １トレンチ遺構配置図 ……76
fig. 81 １トレンチ北側（北から）〔写真〕 ……77
fig. 82 １トレンチ全景（南から）〔写真〕 ……77
fig. 83 ＳＢ301平面・断面図 ……78
fig. 84 ＳＢ302平面・断面図 ……79
fig. 85 ＳＢ302炭化材出土状況（東から）〔写真〕 ……79
fig. 86 ＳＢ302完掘状況（東から）〔写真〕 ……79
fig. 87 ＳＢ303平面・断面図 ……80
fig. 88 ＳＢ303全景（西から）〔写真〕 ……80
fig. 89 ＳＢ304平面・断面図 ……81
fig. 90 ＳＢ304床面土器出土状況〔写真〕 ……82
fig. 91 ＳＢ304全景（北から）〔写真〕 ……82
fig. 92 ＳＤ101全景（東から）〔写真〕 ……83
fig. 93 ２トレンチ第２遺構面全景（西から）〔写真〕 ……84
fig. 94 ２トレンチ第１遺構面遺構配置図 ……85
fig. 95 ２トレンチ第２・第３遺構面遺構配置図 ……85
fig. 96 ２トレンチＳＢ201・202平面・断面図 …86
fig. 97 ２トレンチＳＢ201全景（西から）〔写真〕 ……87
fig. 98 ＳＤ209遺物出土状況図 ……87
fig. 99 ＳＤ209上層遺物出土状況〔写真〕 ……87
fig. 100 ＳＤ209下層遺物出土状況（南から）〔写真〕 ……88
fig. 101 ３トレンチ遺構配置図 ……89
fig. 102 第１次調査出土土器 ……90
fig. 103 ４～７トレンチ遺構配置図 ……91
fig. 104 ＳＤ401遺物出土状況（西から）〔写真〕 ……92
fig. 105 ７トレンチ出土馬形土製品 ……93
fig. 106 ＳＢ701平面図 ……94
fig. 107 ＳＢ701炭化材出土状況（南東から）〔写真〕 ……94
fig. 108 ＳＢ701床面完掘状況（南東から）〔写真〕 ……94
fig. 109 ＳＢ701上面土器出土状況（南から）〔写真〕 ……94

fig. 110　7トレンチ全景（東から）〔写真〕……95
fig. 111　第2次調査出土土器……95
fig. 112　調査地遠景〔写真〕……96
fig. 113　調査地位置図……97
fig. 114　Ⅰトレンチ平面図……98
fig. 115　Ⅰトレンチ第2遺構面全景（西から）〔写真〕……99
fig. 116　ＳＤ14上層断面図……99
fig. 117　ⅠトレンチＳＤ14出土土器……100
fig. 118　Ⅰトレンチ出土土器……101
fig. 119　Ⅰトレンチ出土石器……101
fig. 120　Ⅱトレンチ第3遺構面（北から）〔写真〕……102
fig. 121　Ⅱトレンチ平面図……102
fig. 122　ⅡトレンチＳＫ21遺物出土状況（西から）〔写真〕……103
fig. 123　ⅡトレンチＳＫ21出土縄文土器……103
fig. 124　Ⅳトレンチ第2遺構面全景（南西から）〔写真〕……104
fig. 125　Ⅳトレンチ平面図……104
fig. 126　Ⅲ～Ⅴトレンチ出土土器……105
fig. 127　Ⅶ・Ⅷトレンチ平面図……106
fig. 128　Ⅶ・Ⅷトレンチ出土土器・土錘……107
fig. 129　Ⅸ・Ⅹトレンチ平面図……108
fig. 130　Ⅸ・Ⅹトレンチ出土土器……109
fig. 131　調査地位置図……111
fig. 132　南地区基本土層模式図……112
fig. 133　水田遺構平面図……113
fig. 134　南地区水田遺構（北から）〔写真〕……113
fig. 135　北地区柱穴群（南から）〔写真〕……113
fig. 136　北地区柱穴群平面図……114
fig. 137　南地区柱穴群平面図……114
fig. 138　出合遺跡出土土器……115
fig. 139　出合遺跡出土遺物……116
fig. 140　調査地位置図……117
fig. 141　調査地周辺航空写真〔写真〕……118
fig. 142　調査地全景（南から）〔写真〕……118
fig. 143　調査地平面図……119
fig. 144　調査区北斜面全景（南から）〔写真〕…120
fig. 145　地山整形遺構平面・断面図……121
fig. 146　ＳＸ09全景（北から）〔写真〕……122
fig. 147　調査地位置図……123
fig. 148　Ａ・Ｂトレンチ遺構配置図……124
fig. 149　Ａトレンチ全景（南から）〔写真〕……125
fig. 150　Ｂトレンチ全景（東から）〔写真〕……125
fig. 151　Ｃトレンチ遺構配置図……126
fig. 152　Ｃトレンチ全景（東から）〔写真〕……127
fig. 153　Ｂ・Ｃトレンチ出土遺物……128
fig. 154　Ｄトレンチ第1遺構面平面図……129
fig. 155　Ｄトレンチ第1遺構面西半全景（東から）〔写真〕……130
fig. 156　Ｄトレンチ第1遺構面東半全景（東から）〔写真〕……130
fig. 157　Ｄトレンチ第2遺構面全景（東から）〔写真〕……131
fig. 158　Ｄトレンチ第2遺構面平面図……131
fig. 159　Ｄトレンチ出土遺物……132
fig. 160　調査地遠景〔写真〕……132
fig. 161　調査地位置図……133
fig. 162　第1地区平面・断面図……134
fig. 163　第1地区遺構面全景（南から）〔写真〕……135
fig. 164　第1トレンチ平面図……136
fig. 165　第1トレンチ断面図……136
fig. 166　第1トレンチＳＫ02平面・断面図……137
fig. 167　第1トレンチ遺構検出状況（北から）〔写真〕……137
fig. 168　第1トレンチＳＫ02検出状況（南東から）〔写真〕……137
fig. 169　第1トレンチ遺構検出状況（東から）〔写真〕……137
fig. 170　第1トレンチＳＫ02セクション（南から）〔写真〕……137
fig. 171　栃木遺跡出土土器……138
fig. 172　調査地位置図……139
fig. 173　第2地区遺構平面図……140
fig. 174　第2地区全景〔写真〕……141
fig. 175　狩口台遺跡から淡路島を臨む〔写真〕…142
fig. 176　調査地位置図……143
fig. 177　調査トレンチ平面図……143
fig. 178　五色塚古墳とトレンチの配置〔写真〕…144
fig. 179　1トレンチ全景（東から）〔写真〕……145
fig. 180　2トレンチ全景（東から）〔写真〕……145
fig. 181　2トレンチ西端埴輪出土状況（東から）〔写真〕……145
fig. 182　2トレンチ東端周溝部分（南から）〔写真〕……145
fig. 183　各調査トレンチ北壁断面図……145
fig. 184　五色塚古墳出土遺物……146
fig. 185　調査地位置図……147
fig. 186　第6遺構面河道2断面〔写真〕……148
fig. 187　第6・第7遺構面平面図……148

fig. 188　第５遺構面全景（東から）〔写真〕 ……149
fig. 189　第５遺構面平面図 ……149
fig. 190　第５遺構面河道下層上面杭列遺構（南から）〔写真〕 ……150
fig. 191　第５遺構面河道上層杭列遺構・出土遺物平面図 ……150
fig. 192　第４遺構面平面図 ……152
fig. 193　第４遺構面ＳＢ03全景（北東から）〔写真〕 ……153
fig. 194　第４遺構面ＳＢ04全景（南東から）〔写真〕 ……153
fig. 195　第３遺構面平面図 ……154
fig. 196　第１・第２遺構面平面図 ……154
fig. 197　第３遺構面全景（北西から）〔写真〕 …155
fig. 198　第２遺構面近景（北西から）〔写真〕 …155
fig. 199　調査地位置図 ……157
fig. 200　第１遺構面土器出土状況図 ……158
fig. 201　第１遺構面平面図 ……158
fig. 202　第２遺構面平面図 ……159
fig. 203　第３遺構面平面図 ……160
fig. 204　第１遺構面全景（西から）〔写真〕 ……161
fig. 205　第２遺構面全景（北から）〔写真〕 ……161
fig. 206　第２遺構面全景（西から）〔写真〕 ……161
fig. 207　第３遺構面落ち込み出土土器〔写真〕…162
fig. 208　調査地位置図 ……163
fig. 209　第１遺構面南側全景（南西から）〔写真〕 ……164
fig. 210　第１遺構面北側全景（北西から）〔写真〕 ……164
fig. 211　第１遺構面南端全景（西から）〔写真〕 ……164
fig. 212　第１遺構面平面図 ……164
fig. 213　第３遺構面北側全景（西から）〔写真〕 ……165
fig. 214　第４遺構面竪穴住居址１（西から）〔写真〕 ……166
fig. 215　自然河道土器出土状況(1)　〔写真〕……166
fig. 216　自然河道土器出土状況(2)　〔写真〕……167
fig. 217　自然河道土器出土状況(3)　〔写真〕……167
fig. 218　自然河道出土土器 ……168
fig. 219　調査地位置図 ……169
fig. 220　ＳＤ01出土土器 ……170
fig. 221　遺構平面・断面図 ……171
fig. 222　遺構面全景（南西から）〔写真〕 ……172
fig. 223　調査地位置図 ……173
fig. 224　調査地地区割図 ……174
fig. 225　Ⅰ区北半第１遺構面遺構配置図 ……175
fig. 226　Ⅱ区全景（北から）〔写真〕 ……175
fig. 227　Ⅱ区第１遺構面遺構配置図 ……175
fig. 228　Ⅰ区北半ＳＤ02出土土器 ……176
fig. 229　Ⅰ区南半全景（北から）〔写真〕 ……176
fig. 230　Ⅰ区南半遺構平面図 ……176
fig. 231　Ⅲ区仮歩道部分平面図 ……177
fig. 232　Ⅰ区北半・Ⅱ区下層流路 ……178
fig. 233　Ⅱ区北半全景（南から）〔写真〕 ……179
fig. 234　Ⅲ区第１・第２遺構面平面図 ……180
fig. 235　Ⅲ区第１遺構面全景（南から）〔写真〕 ……181
fig. 236　Ⅲ区第１遺構面ＳＫ01第４層土器出土状況（北から）〔写真〕 ……181
fig. 237　Ⅲ区ＳＫ01出土土器 ……182
fig. 238　Ⅲ区第２遺構面全景（南から）〔写真〕 ……183
fig. 239　Ⅱ・Ⅲ区第２遺構面流路１全景（西から）〔写真〕 ……183
fig. 240　Ⅳ区第１遺構面平面図 ……184
fig. 241　Ⅳ区第１遺構面全景（南から）〔写真〕 ……184
fig. 242　Ⅳ区第１遺構面ＳＤ01土器出土状況〔写真〕 ……185
fig. 243　Ⅳ区第２遺構面平面図 ……186
fig. 244　Ⅳ区第２遺構面全景（南から）〔写真〕 ……186
fig. 245　Ⅴ区試掘坑断面（南から）〔写真〕 ……186
fig. 246　調査地位置図 ……189
fig. 247　環濠完掘状況（東から）〔写真〕 ……190
fig. 248　遺構配置図 ……191
fig. 249　ＳＢ401全景（南から）〔写真〕 ……192
fig. 250　ＳＢ404全景（北から）〔写真〕 ……192
fig. 251　大開遺跡環濠出土土器〔写真〕 ……193
fig. 252　大開遺跡出土壷形土器〔写真〕 ……194
fig. 253　調査地位置図 ……195
fig. 254　遺構平面図 ……196
fig. 255　ＳＫ01・02　ＳＰ01・02完掘状況（西から）〔写真〕 ……197
fig. 256　ＳＤ01完掘状況（西から）〔写真〕 ……198
fig. 257　ＳＤ01内張出部平面・断面図 ……199
fig. 258　楠・荒田町遺跡出土土器 ……200
fig. 259　調査地位置図 ……201
fig. 260　遺構平面図 ……202
fig. 261　ＳＢ01全景（南から）〔写真〕 ……203
fig. 262　ＳＢ02全景（南から）〔写真〕 ……203

fig. 263　調査区全景（南から）〔写真〕……204
fig. 264　熊内遺跡出土土器……204
fig. 265　調査地位置図……205
fig. 266　第１遺構面平面図……206
fig. 267　石組井戸検出状況〔写真〕……207
fig. 268　第２遺構面全景（東から）〔写真〕……208
fig. 269　柱穴内出土土器（ＳＰ01）〔写真〕……208
fig. 270　最終遺構面検出状況（東から）〔写真〕……209
fig. 271　掘立柱建物址ＳＢ01（北から）〔写真〕……209
fig. 272　ＳＢ01平面・断面図……210
fig. 273　第２・第３遺構面平面図……210
fig. 274　日暮遺跡出土土器……211
fig. 275　日暮遺跡出土土錘・土製品……212
fig. 276　調査地位置図……213
fig. 277　調査区東壁断面図……214
fig. 278　第１遺構面平面図……215
fig. 279　第２遺構面平面図……215
fig. 280　周隍状遺構と古墳との位置関係……215
fig. 281　周隍完掘状況（南から）〔写真〕……216
fig. 282　西求女塚古墳出土遺物……216
fig. 283　調査地位置図……217
fig. 284　Ａ～Ｃ－１区北壁・Ｂ－１～５区西壁断面図……218
fig. 285　調査地区配置図……219
fig. 286　調査地区平面図（Ａ・Ｂ・Ｃ－１～５第１遺構面）……219
fig. 287　Ｃ－２区第１遺構面（北から）〔写真〕……220
fig. 288　Ａ－３区第１遺構面（東から）〔写真〕……220
fig. 289　Ａ－４・５区第１遺構面（南から）〔写真〕……220
fig. 290　第１遺構面出土土器……221
fig. 291　第２遺構面自然流路上層土器出土状況〔写真〕……221
fig. 292　Ｂ－１区第２遺構面（東から）〔写真〕……222
fig. 293　Ｃ－１区第２遺構面（南から）〔写真〕……222
fig. 294　調査地区平面・断面図（Ａ・Ｂ・Ｃ－５・６・７）……222
fig. 295　第２遺構面出土土器（弥生時代中期後半）……223
fig. 296　第２遺構面出土土器（弥生時代後期後半）……224
fig. 297　調査地位置図……225
fig. 298　第９次調査との位置関係……226
fig. 299　北地区グリッド－１完掘状況（北から）〔写真〕……226
fig. 300　北地区遺構平面図……227
fig. 301　４号墳及び下層検出溝断面図……227
fig. 302　平安時代・奈良時代遺構面（第１遺構面）平面図……228
fig. 303　第１遺構面出土遺物……228
fig. 304　南地区第１遺構面掘立柱建物址（西から）〔写真〕……229
fig. 305　南地区第１遺構面遺構群（南西から）〔写真〕……229
fig. 306　古墳時代遺構面（第２遺構面）平面図……230
fig. 307　南地区第２遺構面１号墳全景（西から）〔写真〕……230
fig. 308　南地区１号墳丘上遺物出土状況（南から）〔写真〕……230
fig. 309　南地区第２遺構面２号墳全景（南から）〔写真〕……231
fig. 310　南地区２号墳葺石検出状況（南から）〔写真〕……231
fig. 311　ＳＢ04全景（東から）〔写真〕……232
fig. 312　ＳＢ04平面図……232
fig. 313　第２遺構面掘立柱建物址（北から）〔写真〕……233
fig. 314　古墳時代遺構面（第２遺構面）出土土器……234
fig. 315　調査地位置図……235
fig. 316　調査地平面図……236
fig. 317　ＳＢ01平面図……236
fig. 318　SB01全景（北から）〔写真〕……237
fig. 319　SB01（西から）〔写真〕……237
fig. 320　柱根検出状況〔写真〕……237
fig. 321　調査区全景（南から）〔写真〕……237
fig. 322　魚崎中町遺跡出土遺物……238
fig. 323　調査地位置図……239
fig. 324　トレンチ配置図……240
fig. 325　トレンチ１第１遺構面水田断ち割り状況（東から）〔写真〕……241
fig. 326　トレンチ４第２遺構面平面図……242
fig. 327　トレンチ２流路６石器出土状況（南東から）〔写真〕……243
fig. 328　トレンチ２流路６石器出土状況（北から）〔写真〕……243
fig. 329　第４遺構面平面図……244
fig. 330　トレンチ１第４遺構面土器ブロック西（北から）〔写真〕……245
fig. 331　トレンチ１第４遺構面土器ブロック東（南から）〔写真〕……245
fig. 332　銅鐸出土状況図……246
fig. 333　トレンチ１第４遺構面銅鐸出土状況（南から）〔写真〕……247

fig．334　トレンチ１出土銅鐸〔写真〕 ……247
fig．335　調査地位置図 ……249
fig．336　調査地遠景(南西から)〔写真〕……250
fig．337　第１遺構面平面図・第１遺構面水田耕土出土須恵器 ……250
fig．338　ＳＢ10全景(南から)〔写真〕……251
fig．339　第１遺構面水田・流路１平面図 ……251
fig．340　第２遺構面平面図 ……252
fig．341　流路10・12完掘状況(南から)〔写真〕……252
fig．342　第３遺構面平面図 ……253
fig．343　第３遺構面流路２出土土師器 ……254
fig．344　第４遺構面平面図 ……254
fig．345　ＳＢ04遺物出土状況(南から)〔写真〕……255
fig．346　ＳＢ04完掘状況(南から)〔写真〕……255
fig．347　ＳＢ06完掘状況(南から)〔写真〕……256
fig．348　ＳＢ03・04完掘状況(南から)〔写真〕……256
fig．349　ＳＢ11全景(西から)〔写真〕……257
fig．350　ＳＢ12全景(南東から)〔写真〕……257
fig．351　第４遺構面流路13出土土器 ……258
fig．352　第４遺構面河道13南部遺物出土状況(北から)〔写真〕……259
fig．353　第４遺構面河道13北部遺物出土状況(南から)〔写真〕……259
fig．354　森北町遺跡出土初期須恵器・韓式土器……260
fig．355　調査地位置図 ……261
fig．356　遺構平面図・土層断面図 ……262
fig．357　ＳＰ02土器出土状況(西から)〔写真〕……262
fig．358　調査区全景(南東から)〔写真〕……262
fig．359　ＳＫ01土器・河原石出土状況(南から)〔写真〕……263
fig．360　ＳＫ01断面図 ……263
fig．361　淡河中村遺跡出土土器 ……263
fig．362　調査地遠景(南から)〔写真〕……264
fig．363　調査区作業状況(南東から)〔写真〕……264
fig．364　調査地位置図 ……265
fig．365　調査区全体図 ……266
fig．366　調査地全景(南から)〔写真〕……267
fig．367　ＳＢ01・02・05全景(南から)〔写真〕……267
fig．368　ＳＢ01・02・03・04平面・立面図 ……268
fig．369　ＳＢ03・04・06全景(北東から)〔写真〕…269
fig．370　竪穴住居址出土土器 ……269
fig．371　ＳＢ05平面図 ……270
fig．372　ＳＢ05全景(北から)〔写真〕……270
fig．373　ＳＢ05出土土器 ……270
fig．374　ＳＢ06平面・立面図 ……271
fig．375　ＳＢ06炭化材検出状況(南西から)〔写真〕……272
fig．376　ＳＢ06出土土器 ……272
fig．377　土坑出土土器 ……273
fig．378　河道の状況(西から)〔写真〕……273
fig．379　河道出土土器・管玉 ……274
fig．380　調査地位置図 ……275
fig．381　第１トレンチＳＫ02～04(南から)〔写真〕…276
fig．382　第１トレンチ第１遺構面平面図 ……276
fig．383　第１トレンチ第２遺構面南半（西から）〔写真〕……277
fig．384　第１トレンチ第２遺構面平面図 ……277
fig．385　第１トレンチＳＫ14出土遺物 ……278
fig．386　第１トレンチ礫群05・ＳＫ07出土遺物 …279
fig．387　第２トレンチＳＢ02完掘状況(南から)〔写真〕……281
fig．388　第２トレンチＳＢ02平面・立面図 ……281
fig．389　第２トレンチＧ・Ｈ区全景(南から)〔写真〕……281
fig．390　第２トレンチＧ・Ｈ区平面図 ……281
fig．391　第２トレンチＳＢ02出土土師器 ……282
fig．392　第２トレンチＳＴ01平面・立面図 ……283
fig．393　第２トレンチＳＴ01遺物・棺材出土状況〔写真〕……283
fig．394　第２トレンチＳＴ01出土遺物 ……283
fig．395　ＳＢ01完掘状況〔写真〕 ……284
fig．396　第２トレンチＳＢ01平面・断面図 ……284
fig．397　第２トレンチＳＸ02平面・立面図 ……284
fig．398　第２トレンチＳＸ02石材出土状況〔写真〕……285
fig．399　ＳＸ02出土遺物 ……285
fig．400　第６トレンチＳＢ01・02(東から)〔写真〕…286
fig．401　第６トレンチ平面図 ……286
fig．402　第６トレンチ出土遺物 ……287
fig．403　第７トレンチ平面図 ……288
fig．404　第７トレンチＳＸ02平面・断面図 ……289
fig．405　第７トレンチＳＸ02(北から)〔写真〕……289
fig．406　第８トレンチ平面図 ……289
fig．407　第９トレンチ平面図 ……290
fig．408　第９トレンチ出土遺物 ……291
fig．409　第10トレンチ平面図 ……292
fig．410　第11・第12トレンチ平面図 ……293
fig．411　第11トレンチＡ地区全景(西から)〔写真〕…294
fig．412　調査地位置図 ……295
fig．413　第１・第２・第３トレンチ平面図 ……296
fig．414　第６トレンチ全景(北から)〔写真〕……297
fig．415　第６トレンチ平面図 ……298
fig．416　第６トレンチ出土土器 ……298
fig．417　宅原・上津条里トレンチ・グリッド設定図……299
fig．418　宅原・上津条里遺構確認調査土層断面図……300
fig．419　第３グリッド平面図……302

fig. 420　宅原・上津条里出土土器 ……302
fig. 421　調査地位置図 ……303
fig. 422　調査区遠景(北から)〔写真〕……304
fig. 423　遺構完掘状況(北から)〔写真〕……304
fig. 424　遺構平面図 ……304
fig. 425　第２遺構面中世ピット群完掘状況(西から)〔写真〕……305
fig. 426　ＳＤ01完掘状況(西から)〔写真〕……306
fig. 427　ＳＤ05・07完掘状況(北から)〔写真〕……306
fig. 428　第２遺構面ＳＫ01完掘状況(東から)〔写真〕……307
fig. 429　第２遺構面ＳＫ01平面・断面図 ……307
fig. 430　宅原遺跡(内垣地区)出土土器 ……308
fig. 431　調査地位置図 ……309
fig. 432　土坑平面・断面図 ……310
fig. 433　調査地平面図 ……310
fig. 434　土坑群全景(東から)〔写真〕……310
fig. 435　宅原・上天神地区出土須恵器 ……312
fig. 436　調査地位置図 ……313
fig. 437　遺構配置(模式)図 ……314
fig. 438　ＸＩ区遺構平面図 ……315
fig. 439　ＸII・ＸIII区遺構平面図 ……315
fig. 440　IX・Ｘ区全景(北から)〔写真〕……316
fig. 441　平成元年度調査区割図 ……316
fig. 442　ＳＰ914・921遺物出土状況図 ……317
fig. 443　ＳＢ23平面・柱穴断面図 ……317
fig. 444　ＳＢ23全景(南から)〔写真〕……317
fig. 445　ＳＢ24全景(西から)〔写真〕……318
fig. 446　ＳＢ25全景(北から)〔写真〕……318
fig. 447　ＳＢ25平面・柱穴断面図 ……318
fig. 448　ＳＢ27・28全景(南から)〔写真〕……319
fig. 449　ＳＢ24・27・28平面・柱穴断面図 ……319
fig. 450　ＳＢ29全景(南から)〔写真〕……320
fig. 451　ＳＢ29全景(西から)〔写真〕……320
fig. 452　ＳＢ29平面・柱穴断面図 ……320
fig. 453　ＳＢ30・31平面・柱穴断面図 ……321
fig. 454　ＳＢ23柱穴出土土器 ……322
fig. 455　IX区ＳＤ901出土土器 ……322
fig. 456　IX・Ｘ区建物柱穴・土坑・溝出土土器 ……323
fig. 457　掘立柱建物址遺構配置(模式)図 ……324
fig. 458　ＳＫ617出土土器 ……325
fig. 459　ＳＫ617出土黒色土器 ……325
fig. 460　ＳＸ601出土土器 ……325
fig. 461　ＳＫ636出土土器 ……326
fig. 462　IV区ＳＤ601出土土器 ……326
fig. 463　包含層出土緑釉陶器 ……326
fig. 464　調査地位置図 ……327
fig. 465　１トレンチＳＫ01平面・断面図 ……328
fig. 466　トレンチ配置図 ……328
fig. 467　１トレンチＳＫ01近景(北から)〔写真〕……329
fig. 468　２トレンチ全景(北から)〔写真〕……329
fig. 469　１・２・３トレンチ平面図 ……330
fig. 470　３トレンチ全景(南から)〔写真〕……331
fig. 471　３トレンチ南端の遺構群(東から)〔写真〕…331
fig. 472　４トレンチ第２遺構面(南から)〔写真〕……332
fig. 473　４トレンチ第２遺構面(北から)〔写真〕……332
fig. 474　４トレンチ第２遺構面北端部(北から)〔写真〕……332
fig. 475　４トレンチ平面図 ……332
fig. 476　１～３トレンチ出土遺物 ……333
fig. 477　４トレンチ出土土器 ……334
fig. 478　「窯状遺構」の周囲を掘り下げる。〔写真〕……335
fig. 479　「窯状遺構」を保護するために和紙を貼る〔写真〕……335
fig. 480　裏側を掘り下げた後、合成樹脂を塗る〔写真〕……335
fig. 481　表面からも合成樹脂を塗り、土を固める〔写真〕……335
fig. 482　ＳＸ126上半の杭をはずす〔写真〕……336
fig. 483　同上和紙で全体を保護〔写真〕……336
fig. 484　同上全体を発泡ウレタンで梱包〔写真〕…336
fig. 485　同左裏側から土を取り除き、杭の下半部を検出し、記録を取る〔写真〕……336
fig. 486　「箕」ウレタンで梱包し取り上げた後に、裏側の土を取り除き、記録を取る〔写真〕……336
fig. 487　発泡ウレタンで全体を梱包〔写真〕……337
fig. 488　下部は鋼板とＨ鋼で切り離す〔写真〕……337
fig. 489　２台のクレーン車で吊り下ろす〔写真〕……337
fig. 490　神戸市埋蔵文化財センターでの展示〔写真〕……338
fig. 491　銅鐸内面の土壌の土層転写〔写真〕……338
fig. 492　銅鐸内面に付着している白色析出物〔写真〕……338
fig. 493　乾燥により変形した杭の上端。上端のみ数週間露出、その結果、厚みが約半分に縮んでしまった。〔写真〕……339
fig. 494　１点ずつ不織布で梱包〔写真〕……339
fig. 495　ＰＥＧ含浸槽に入れる〔写真〕……339
fig. 496　取り上げ時の状態〔写真〕……340
fig. 497　上面の土を取り除く〔写真〕……340
fig. 498　取り上げ時の状態〔写真〕……340
fig. 499　処理後〔写真〕……340

表１．　杭列遺構一覧表……151
表２．　掘立柱建物址一覧表……321

Ⅰ．平成元年度事業概要

1．普及啓発事業

文化財保護強調月間の催し

大歳山遺跡公園（垂水区西舞子４丁目）では、11月１日から11月７日までの間、復元竪穴住居の内部の公開とともに、古代人の生活の一部を実際に体験できるよう、火おこし、脱穀等を行った。

「地下に眠る神戸の遺跡展Ⅶ　―速報展―　」

例年、11月１日から30日までは、市立旧考古館において最近の発掘資料を広く市民の方々に知っていただくために、特別展示「地下に眠る神戸の歴史展」を行っている。７回目の展示会となった今回の展示では、速報展として、市内で新たに出土した土器や石器を縄文時代から中世までの年代順にならべ身近にある遺跡に対する理解を深めていただくように展示した。

五色塚古墳展示室「古墳時代の祭祀展」の開催

昭和60年度より五色塚古墳展示室で、市内出土の古墳時代の遺跡・遺物をテーマにして展示しているが、今回は市内の遺跡から出土した玉類などの祭祀遺物を集め展示した。

地域活動への参加

市内各地の公民館，学校では、様々な地域・文化活動が行われているが、各地域の歴史を地元の方々に知っていただくことを目的に、周辺の遺跡の出土遺物や写真パネルの展示会を開催している。今年度は以下の場所で文化財展を行った。

(1)西区玉津南公民館「明石川流域　平安・鎌倉時代の人々の生活展」

明石川流域から発見された平安・鎌倉時代の遺構・遺物を展示し、それらから判明した当時の人々の住居・食生活・墳墓・習慣などを紹介した。

(2)北区長尾町公民館「誰も書かなかった長尾の歴史展」

北区長尾町内から出土した歴史時代の遺物を中心に展示した。

(3)西区県立高塚高校「西区埋蔵文化財展」

県立高塚高校で、西神ニュータウン内出土の資料を中心に西区の遺跡・遺物を紹介した。

現地説明会の開催

発掘調査の状況や成果を早く市民の方々に知っていただくために、下記

のとおり現地説明会を開催し、多くの見学者の参加を得た。

番号	遺跡名	開催年月日
1.	森北町遺跡	平成元年11月5日
2.	本山遺跡	平成2年2月4日

刊行物

平成元年度の埋蔵文化財関係の刊行物は以下の8点である。

1. 昭和63年度遺跡現地説明会資料	頒価	500円
2. 狩口台遺跡発掘調査報告書	頒価	300円
3. 舞子・東石ケ谷遺跡II	頒価	700円
4. 長田神社境内遺跡発掘調査概報	頒価	1,200円
5. 楠・荒田町遺跡III	頒価	800円
6. 郡家遺跡（御影中町地区第3次調査概報）	頒価	1,200円
7. 住吉宮町遺跡（第11次調査）	頒価	600円
8. 地下に眠る神戸の歴史展　VII	頒価	100円

2. 文化財調査事業

当市における埋蔵文化財の発掘調査件数は年々増加の傾向にあるが、今年度は55件（1件は樹木伐採作業のみ）となり、前年度比で6件減少である。ただし、民間調査団の調査件数は28件、前年度比60%増と著しく増加している。

また、開発計画の際に提出される遺跡分布調査依頼件数は68件（前年度比4件減）、それに基づく試掘調査件数は220件（前年度比6件減）とやや減少傾向にある。

これらを地域別に見ると、昨年度と同様に旧市街地での試掘調査がほぼ全体の2/3を占めているが、中央区での試掘件数の増加が顕著である。

平成元年度埋蔵文化財試掘調査および緊急発掘調査状況

	試掘調査件数	緊急発掘調査件数
東灘区	33	6
灘区	23	4
中央区	25	5
兵庫区	16	1
長田区	12	5
須磨区	7	2
垂水区	14	3
西区	59	16
北区	31	13
合計	220	55

また、兵庫県教育委員会および民間の遺跡調査会の行った調査件数は試掘調査を含めて46件である。

発掘調査原因の事業別件数は民間事業18件、公共事業37件で、公共事業が約５割を占める。公共事業のうち、圃場整備事業・道路建設事業等の原因が多くをしめている。民間事業の場合は、そのほとんどが市街地におけるマンション建設や店舗等の工事が調査原因となっている。

上記の緊急発掘調査に要した経費は、７億５千４百万円であった。

また、保存処理業務によって、遺物の保存処理および遺構の切り取り保存等の作業をさらに押し進めた。

３．市内遺跡発掘調査の概要

西区印路遺跡では土坑が検出され、埋土中から縄文時代後期の粗製深鉢が発見された。

縄文時代

兵庫区上沢遺跡では縄文時代晩期～弥生時代前期の自然流路が検出され、晩期の土器（長原式）とともに、弥生時代前期前葉～中葉の土器が発見された。自然河道の堆積土からの出土という点で、良好な資料とはいえないが、縄文時代晩期と弥生時代前期の土器が共伴する例として、神戸市域における当該時期の様相を考える上で重要な資料となった。

弥生時代

兵庫区大開遺跡は、前年度に引き続き調査が行われてきたが、縄文時代後期～晩期の突帯文土器を伴う自然流路や土坑が確認された。また、弥生時代前期前葉の環濠集落が検出され、環濠の規模は、東西70m×南北40mに復元することができる。環濠内外からは、竪穴住居址５棟、貯蔵穴等の遺構が確認できた。この遺跡では、弥生時代前期前葉の土器と縄文時代晩期の突帯文土器が共伴して出土しており、また、縄文時代の祭祀遺物である石棒が遺構から出土するという２つの文化が接触し、共存している段階を窺うことができる貴重な資料を提示した。

須磨区戎町遺跡では、弥生時代前期の自然河道と中期の竪穴住居址、土器棺墓が確認された。自然流路からは、土器、木製農耕具（箕，網代，広鍬，大足）、獣骨、種子などと共に、円形杭列遺構が８基検出された。この遺構は全国的にみても例が少なく、その性格は明確でないため、今後に課題を残している。

東灘区本山遺跡では、弥生時代中期の遺構面から銅鐸が埋納された状態で発見された。この銅鐸は、紐の大半を欠損しているが、現高18.1cmの４区袈裟襷文銅鐸である。銅鐸が発掘調査によって発見されることは、極めて少なく、その埋納状態を確認できたことは大きな成果であった。なお、この埋納坑については半截した状態で切り取りを行い、現在、神戸市埋蔵文化財センターに保管・展示している。

西区大畑遺跡では、洪水砂層から弥生時代後期～庄内期の土器が完形の状態で多量に発見され、資料が少なかった明石川流域の当該時期の土器様相に新資料を提出することとなった。

長田区長田神社境内遺跡では、幅40m以上、深さ約４mに達する自然河道から、縄文時代晩期～弥生時代後期の土器が発見されているが、特に弥生時代後期の土器は、昭和61,62年度に行った第１次調査同様に出土量が多く、今後出土遺物の整理がさらに進めば、西摂の弥生時代後期の土器様相をさらに明らかにできるものとして注目される。

古墳時代

東灘区森北町遺跡では、弥生時代後期～古墳時代後期の集落址が確認された。特に弥生時代後期～古墳時代中期にかけては遺構・遺物の量や当時の貴重品である青銅製品の出土、他地域で作られた土器がかなりの多く発見されることなどから、他地域との交流が盛んに行われていたようであり、この地域の核となる拠点集落であったことが窺える。

北区宅原遺跡（有井地区）では、古墳時代前期～中期の竪穴住居址が６棟確認された。住居址の平面形は、長方形、方形、多角形、隅円方形など多様で、火災により炭化材が多量に出土するものも検出された。宅原遺跡では、周辺の調査により、弥生時代～近世の集落遺跡が各地区で確認されており、集落立地の変遷を考える資料を提示している。

西区玉津田中遺跡（平野地区）では、弥生時代～古墳時代後期の竪穴住居址が多数発見された。圃場整備に伴うトレンチ調査のため、集落址の規模、棟数などは明確ではないが、段丘上と沖積地という立地条件の異なるところにほぼ同時期の集落址が確認されており、当時の集落の立地の在り方を示した一つの例といえる。

歴史時代

北区上小名田遺跡は、昭和62年度から調査を継続してきたが、平安時代中葉から鎌倉時代初頭にかけての遺構・遺物が確認された。特に掘立柱建物址は34棟以上検出され、その中には、四面廂をもつ大規模な建物址が検出された。それとともに、緑釉陶器香炉片や石帯などが発見されており、一般の集落とは異なった様相を示している。また、土坑などから平安時代の須恵器・土師器・施釉陶器・黒色土器がまとまって出土し、従来あまり知られていなかった西摂北部の土器様相が明らかになりつつある。

北区宅原遺跡（豊浦地区）では、室町～戦国時代の遺構・遺物が多く発見された。この時期の遺構・遺物はこれまであまり確認されておらず、貴重な発見といえる。また近世の竪穴状建物址が確認されたが、これは県下ではじめての発見である。同様の建物址は、長野県以東ではしばしば検出されるが、関西では類例が少なく、この建物の性格を考えることが今後の課題となっている。

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名 (地点名)	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	内容	調査担当者
1	ニュータウン建設事業	木津遺跡 西神ニュータウン内遺跡	西区押部谷町・樫野台	(財)神戸市スポーツ教育公社	2,400㎡	元.4.17～元.7.31	弥生時代土坑・焼土坑 中世　土坑	口野博史 富山直人
2	〃	北神ニュータウン内遺跡	北区長尾町	神戸市教育委員会	2,240㎡	元.10.10～元.11.30	奈良～平安時代土坑 時期不明土坑群	黒田恭正 東喜代秀
3	小学校改築工事	大開遺跡	兵庫区大開通	(財)神戸市スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	1,590㎡	63.8.1～元.4.30	縄文時代自然流路土坑 弥生時代環濠集落	前田佳久 内藤俊哉
4	幼稚園改築工事	大石東遺跡	灘区大石東町	神戸市教育委員会	140㎡	元.6.5～元.6.22	平安～鎌倉時代土坑 近代　溝	山本雅和 阿部敬生
5	道路建設事業	上沢遺跡	長田区六番町，七番町	(財)神戸市スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	290㎡ 817㎡	元.8.1～元.8.31 元.3.1～元.10.24	縄文～弥生時代流路 弥生～古墳時代土坑 古墳～中世　溝	口野　富山 西岡(誠)　山本 佐伯　斎木　阿部
6	〃	長田神社境内遺跡	長田区大塚町	神戸市教育委員会	12㎡	2.1.17～2.1.23	弥生時代後期流路	佐伯二郎
7	〃	上小名田遺跡	北区八多町	(財)神戸市スポーツ教育公社	5,140㎡	元.4.3～元.8.4 昭和62年度より継続	平安～鎌倉時代集落址	菅本宏明　富山直人 池田　毅　橋詰清孝
8	〃	宅原遺跡(内垣地区)	北区長尾町	〃	540㎡	元.8.1～元.10.5	古墳時代土坑・溝 中世　ピット群	菅本宏明　池田　毅 橋詰清孝
9	〃	出合遺跡	西区平野町	神戸市教育委員会	1,422㎡	元.4.3～元.10.7	弥生時代中期　水田・水路・柱穴	黒田恭正 東喜代秀
10	自歩道設置事業	下二郎遺跡	北区有野町	神戸市教育委員会 (財)神戸市スポーツ教育公社	130㎡ 150㎡	元.4.26～元.5.10 元.8.4～元.8.28	古墳時代後期土坑墓 弥生時代後期～中世遺物	山本雅和 阿部敬生 池田　毅
11	〃	上小名田遺跡	北区八多町	(財)神戸市スポーツ教育公社	120㎡	元.9.4～元.9.20	中世～近世遺構・遺物	池田　毅
12	〃	大畑遺跡	西区平野町	神戸市教育委員会	300㎡	元.6.6～元.8.9	弥生時代後期　遺物 中世溝・土坑・ピット	東喜代秀
13	〃	上上津遺跡	北区長尾町	〃	90㎡	元.10.23～元.11.2	埋蔵文化財なし	〃
14	都市再開発事業	長田神社境内遺跡	長田区大塚町	〃	2,700㎡	元.6.4～2.2.10	弥生時代後期住居址 古代～中世遺構	西岡誠司　佐伯二郎 橋詰清孝
15	〃	垂水・日向遺跡	垂水区日向	〃	100㎡	元.4.24～元.4.28	中世遺物包含層	斎木　巌
16	住宅街区整備事業	狩口台遺跡	垂水区狩口台	(財)神戸市スポーツ教育公社	1,185㎡	元.4.1～元.4.13 元.8.8～元.10.2	弥生時代後期住居址・土坑・溝・ピット	菅本宏明　松林宏典 谷　正俊　浅谷誠吾
17	市民病院建設事業	三番町遺跡	長田区一番町	神戸市教育委員会	1,200㎡	元.7.10～元.8.11	古墳時代～中世　遺物包含層　自然流路	丸山　潔 松林宏典
18	墓園建設事業	鍋谷池遺跡	西区平野町	〃	3,550㎡	元.4.10～元.7.6 元.8.17～元.8.25	弥生時代　土坑・ピット・地山整形遺構	〃
19	下水幹線用縦坑	上津遺跡	北区長尾町	〃	60㎡	元.9.25～元.10.4	中世水田遺構	山口英正
20	庁舎建設事業	楠・荒田町遺跡	中央区橘通	(財)神戸市スポーツ教育公社	1,900㎡	元.9.18～元.12.16	古墳時代前期土坑 平安～鎌倉時代溝	菅本宏明　池田　毅 橋詰清孝
21	市営住宅建設事業	三番町遺跡	長田区二番町	〃	90㎡	元.7.12～元.8.4	古墳後期流路・土坑・溝・ピット	谷　正俊 浅谷誠吾
22	区民センター建設事業	住吉宮町遺跡	東灘区住吉宮町	〃	165㎡	元.12.18～2.3.16	古墳時代住居址・古墳 奈良～平安時代建物址	橋詰清孝
23	公会堂建設事業	中大沢遺跡	北区大沢町	神戸市教育委員会	50㎡	元.4.10～元.4.13	鎌倉～室町時代遺物包含層	山本雅和
24	ロープウェイ建設事業	滝山城址	中央区神戸港地方	〃	100㎡	元.5.30～元.6.3	中世　ピット・土坑	須藤　宏
25	圃場整備事業(文化庁補助)	神出遺跡	西区神出町	(財)神戸市スポーツ教育公社	2,320㎡	元.4.5～元.4.20 元.5.15～元.7.11 元.10.18～元.10.31	平安～鎌倉時代建物址 ピット・窯状遺構・土坑	谷　正俊 浅谷誠吾 富山直人
26	圃場整備事業(文化庁補助)(農政補助)	養田遺跡	西区押部谷町	神戸市教育委員会	81㎡	元.4.5～元.4.13	平安～鎌倉時代　溝・ピット 中世遺物包含層	佐伯二郎 橋詰清孝
27	〃	栃木遺跡	西区櫨谷町	(財)神戸市スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	50㎡ 300㎡ 228㎡	元.5.8～元.5.9 元.11.27～元.12.15 2.2.2～2.2.13	試掘調査 古墳～平安時代遺構 試掘調査	斎木　巌 谷　正俊　浅谷誠吾 丸山　潔
28	〃	長谷遺跡	〃	神戸市教育委員会 (財)神戸市スポーツ教育公社	170㎡ 1,040㎡	元.4.26～元.4.28 元.9.4～元.10.17 元.12.16～2.2.6	試掘調査 弥生時代土坑・ピット 中世　ピット・溝	富山直人 菅本宏明　口野博史 富山直人　内藤俊哉
29	〃	栄遺跡	西区押部谷町	(財)神戸市スポーツ教育公社	200㎡ 1,280㎡	元.5.8～元.5.10 元.6.7～元.6.9 元.10.4～元.11.25	試掘調査 試掘調査 弥生～室町時代遺構	谷　正俊　浅谷誠吾 斎木　巌 谷　正俊　浅谷誠吾
30	〃	印路遺跡	西区平野町	神戸市教育委員会 (財)神戸市スポーツ教育公社	248㎡ 890㎡	元.4.14～元.4.22 元.10.16～2.1.12	試掘調査 弥生～古墳時代水田址 縄文後期土坑・溝	佐伯二郎　橋詰清孝 池田　毅
31	〃	玉津田中遺跡(平野地区)	〃	(財)神戸市スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	140㎡ 1,380㎡ 500㎡	元.4.25～元.4.28 元.10.17～元.12.27 2.1.17～2.3.16	試掘調査 弥生～鎌倉時代住居址 土坑・溝・ピット	谷　正俊 口野博史　富山直人 山口英正

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名（地点名）	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	内容	調査担当者
32	〃	和田遺跡	西区押部谷町	(財)神戸市スポーツ教育公社	136m² 210m²	元.5.8～元.5.16 元.12.16～2.1.31	試掘調査 奈良～鎌倉時代土坑・溝・ピット・流路	東喜代秀　橋詰清孝 谷　正俊　浅谷誠吾
33	〃	木見遺跡	〃	〃	88m²	元.4.25～元.4.27	試掘調査 埋蔵文化財なし	東喜代秀 橋詰清孝
34	〃	宅原遺跡(豊浦地区) 下上津遺跡(神子田地区) 宅原・上津条里遺構	北区長尾町	神戸市教育委員会	3,240m² 1,080m² 330m²	元.4.17～元.10.9 元.10.7～元.10.31 元.9.8～元.10.19	古墳～近世　住居址・建物址・土坑・大溝・木棺墓・ピット	安田　滋 斎木　巌
35	〃	神田遺跡	北区淡河町	(財)神戸市スポーツ教育公社	80m²	元.12.15～元.12.16	試掘調査 埋蔵文化財なし	谷　正俊
36	圃場整備事業(文化庁補助)	淡河中村遺跡	〃	〃	40m²	元.12.18～元.12.20	奈良時代建物址・土坑・ピット	〃
37	共同住宅建設事業(文化庁補助)	郡家遺跡(篠ノ坪地区)	東灘区御影町	神戸市教育委員会	10m²	元.7.17～元.7.18	弥生～古墳時代流路	須藤　宏
38	〃	楠・荒田町遺跡	中央区楠町	〃	170m²	元.4.11～元.4.28	弥生時代土坑・ピット 中世堀状遺構	櫃本誠一(兵庫県教育委員会) 真野修(和晃エンジニアリング)
39	〃	篠原遺跡	灘区篠原中町	〃	871m²	元.5.10～元.5.27	縄文～中世遺物包含層	丹治康明 須藤　宏
40	本堂排水溝設置(文化庁補助)	如意寺遺跡	西区櫨谷町	〃	51m²	元.5.18～元.6.3	試掘調査 下層基壇確認	東喜代秀 橋詰清孝
41	土地区画整理事業(文化庁補助)	八多中遺跡	北区八多町	〃	208m²	2.1.26～2.3.9	試掘調査 平安～鎌倉時代柱穴	西岡巧次 黒田恭正
42	共同住宅建設工事	滝ノ奥遺跡	灘区高羽字滝ノ奥	〃	——	2.3.19～2.3.31 次年度調査継続	樹木の伐採作業	黒田恭正
43	〃	森北町遺跡	東灘区森北町	〃	1,300m²	元.4.4～元.5.15 元.6.26～元.11.26	弥生～古墳時代集落址 飛鳥時代水田	丹治康明 須藤　宏
44	〃	五色塚古墳	垂水区五色山	〃	40m²	元.4.17～元.4.20	試掘調査 調査区域は保存	山本雅和
45	〃	郡家遺跡(大蔵地区)	東灘区御影町	〃	80m²	元.5.15～元.5.31	弥生時代流路 平安時代土坑・ピット	山本雅和 阿部敬生
46	〃	日暮遺跡	中央区筒井町	〃	530m²	元.9.11～元.11.1	奈良時代～中世　溝 6,7世紀の建物址	丸山　潔 松林宏典
47	〃	熊内遺跡	中央区熊内橋通	〃	172m²	2.2.20～2.3.2	弥生時代後期住居址 土坑・溝	〃
48	〃	魚崎中町遺跡	東灘区魚崎中町	〃	250m²	元.6.6～元.6.22	平安時代建物址 弥生～中世遺物包含層	丹治康明 須藤　宏
49	〃	西求女塚古墳	灘区都通	〃	110m²	元.11.27～元.12.13	古墳周隍？ 中世遺物包含層	須藤　宏
50	宅地造成工事保存のための試掘	西脇山遺跡	北区山田町	〃	200m²	元.6.29～元.7.12	平安～鎌倉時代礎石 ピット	山本雅和 阿部敬生
51	農協新築工事	宅原遺跡(有井地区)	北区長尾町	〃	830m²	元.11.6～2.1.18	古墳時代住居址・流路	安田　滋 斎木　巌
52	テナントビル建設	戎町遺跡(第4次調査)	須磨区戎町	〃	300m²	元.11.1～2.3.12	縄文～弥生時代自然流路・住居址・土器棺墓	山本雅和 阿部敬生
53	店舗兼マンション建設	戎町遺跡(第5次調査)	〃	〃	130m²	2.3.13～2.3.31 次年度調査継続	弥生時代中期ピット 古墳時代前期ピット	〃
54	会社ビル建設工事	本山遺跡	東灘区本山南町	〃	1,520m²	元.11.13～2.3.31	弥生時代自然流路 銅鐸埋納坑	丹治康明 須藤　宏
55	変電所建物・鉄塔増設工事	吉田南遺跡	西区森友	〃	135m²	元.7.18～元.8.9	奈良～鎌倉時代遺物包含層	山本雅和 阿部敬生
56	古墳移築	天王山5号墳	西区北別府	〃	——	——	——	——
57	県営住宅建設事業	深江北町遺跡	東灘区深江北町	兵庫県教育委員会	1,572m²	元.7.20～元.10.13	弥生時代後期　土坑・掘立柱建物址・溝 中世～近世　耕作痕	村上賢治 藤田　淳 甲斐昭光
58	土地区画整理事業	玉津田中遺跡	西区玉津町	〃	10,649m²	元.8.7～2.3.20	弥生時代中期住居址 水田址・溝	大平　茂・菱田厚子 中川　渉・篠宮　正 多賀茂治
59	国道拡幅事業	玉津田中遺跡	〃	〃	500m²	2.1.16～2.1.17	ピット	大平　茂
60	看護大学建設事業	吉田南遺跡	〃	〃	1,444m²	元.7.4～元.7.31 2.1.18～2.3.20	溝・ピット	西口和彦・岡崎正雄 種定淳介
61	河川改修事業	西河原遺跡	〃	〃	527m²	元.12.6～元.12.14	遺物包含層	渡辺　昇・久保弘幸
62	農地造成	下大谷古墳群・印路古墳群 印路台上墓	西区平野町	〃	450m²	2.2.6～2.3.25	古墳時代後期古墳 弥生時代中期台上墓	小川良太・村上泰樹 村上賢治・藤田　淳
63	河川改修事業	宝冠遺跡	北区長尾町	〃	45m²	元.11.27～元.11.29	ピット	渡辺　昇 久保弘幸
64	山陽自動車道建設	№61地点	北区淡河町	〃	108m²	2.2.22～2.2.27	埋蔵文化財なし	岡田章一・山下史朗 高瀬一嘉・中村　弘 多賀茂治

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名（地点名）	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	内容	調査担当者
65	山陽自動車道建設	№63地点	北区淡河町	兵庫県教育委員会	12m²	2.2.28～2.2.28	埋蔵文化財なし	岡田章一　山下史朗 高瀬一嘉　中村　弘 多賀茂治
66	〃	№64地点	〃	〃	40m²	2.2.28～2.3.6	埋蔵文化財なし	〃
67	〃	奥遺跡　№67地点	〃	〃	80m²	2.2.20～2.2.22	中世　ピット・溝	〃
68	〃	№77地点	〃	〃	52m²	2.3.14～2.3.16	埋蔵文化財なし	〃
69	〃	№78地点	〃	〃	8m²	2.3.14～2.3.14	埋蔵文化財なし	〃
70	〃	№80地点	〃	〃	8m²	2.3.14～2.3.14	埋蔵文化財なし	〃
71	〃	ココノ木城址№94地点	北区八多町	〃	540m²	2.3.14～2.3.23	中世　山城址?	〃
72	〃	№98地点	〃	〃	16m²	2.3.13～2.3.13	埋蔵文化財なし	〃
73	〃	清水廻り遺跡№106地点	〃	〃	64m²	2.3.13～2.3.13	中世　ピット・土坑	〃
74	〃	八多中遺跡 №110地点	〃	〃	264m²	2.2.26～2.3.9	古墳～中世　集落址	〃
75	市街地再開発事業	雲井遺跡	中央区雲井通	雲井遺跡調査団	947m²	2.2.13～2.3.31 次年度継続	縄文後期～弥生時代前期土坑・ピット 古墳時代流路	阿部嗣治
76	市営住宅建設事業	都賀遺跡	灘区神前町	妙見山麓遺跡調査会	410m²	元.6.15～元.10.31	弥生時代方形周溝墓 弥生～古墳時代住居址 奈良～鎌倉時代建物址	徳原多喜雄
77	住宅街区整備事業	狩口台遺跡	垂水区狩口台	―――	3,500m²	元.9.2　～2.5.31	弥生時代住居址 建物址	真野　修
78	市街地再開発事業	垂水・日向遺跡	垂水区天ノ下町・神田町	妙見山麓遺跡調査会	516m²	2.1.10～2.3.31 次年度継続	中世ピット・土坑 近世耕作痕	神崎　勝
79	道路拡幅事業	野田遺跡	垂水区野田通	野田遺跡調査団	440m²	2.1.18～2.2.8	鎌倉時代土坑墓・ピット・建物址	阿部嗣治
80	〃	郡家遺跡(城ノ前地区)	東灘区御影町	郡家遺跡調査団	3,200m²	2.1.17～2.5.11 次年度継続	中世石組暗渠	高山正久
81	道路建設事業	上小名田遺跡	北区八多町	上小名田遺跡調査委員会	880m²	元.4.1　～元.4.20 先年度継続	柵跡・粘土採掘坑・近世水田址	藤井利章
82	圃場整備事業	神出遺跡	西区神出町	妙見山麓遺跡調査会	2,028m²	元.4.17～元.10.19	平安時代溝・粘土採掘坑・建物址・土器溜	神崎　勝
83	〃	長谷遺跡	西区櫨谷町	神戸女子大学遺跡調査会	323m²	2.3.5～2.3.31 次年度継続	古墳時代流路・杭列	藤井利章
84	〃	下上津遺跡	北区長尾町	妙見山麓遺跡調査会	3,730m²	元.11.1～2.5.7 次年度継続	中世溝・条里畦畔遺構	徳原多喜雄
85	〃	淡河中村遺跡	〃	中村遺跡調査団	6,413m²	元.10.20～2.2.21 次年度継続	平安～鎌倉時代建物址 溝・土坑	村尾政人
86	事務所建設工事	本山遺跡	東灘区本山中町	本山遺跡調査団	1,700m²	元.11.6～2.4.9 次年度継続	古墳～平安時代土坑・溝・柱穴	吉川義彦
87	レジャー施設建設	居住遺跡	西区玉津町	居住遺跡調査団	1,162m²	元.8.10～2.1.16	中世畦畔・溝 平安～鎌倉時代溝	阿部嗣治
88	教会・共同住宅建設工事	郡家遺跡(御影中町地区)	東灘区御影中町	―――	735m²	元.6.1～元.11.30	古墳時代畝状遺構・柱穴・建物址・溝 平安時代土坑墓	藤井直正
89	共同住宅建設工事	乙木遺跡	垂水区乙木町	―――	1,430m²	元.6.20～元.8.19	偶蹄類足跡・ピット・溝	真野　修
90	〃	赤松町遺跡	灘区赤松町	赤松町遺跡調査団	600m²	元.8.1～元.10.14	弥生～古墳時代土坑・中・近世耕作痕　溝	村尾政人
91	〃	岡本北遺跡	東灘区岡本	六甲山麓遺跡調査会	997m²	元.8.1～元.11.27 先年度継続	弥生～古墳時代建物址 中世土坑ピット	橋本　久
92	〃	森北町遺跡	東灘区森北町	大手前女子大学内森北町遺跡調査会	800m²	元.3.17～元.7.31	古墳時代土坑・住居址 平安～鎌倉時代集落址 室町時代井戸	川口宏海
93	〃	森北町遺跡	〃	〃	140m²	元.9.8　～元.10.24	古墳時代土器溜 中・近世溝	〃
94	〃	本山遺跡	東灘区本山中町	妙見山麓遺跡調査会	600m²	2.11.6～2.1.25	鎌倉時代溝・土坑 近世～近代耕作痕	神崎　勝
95	〃	舞子東石ケ谷遺跡	垂水区舞子坂	神戸女子大学舞子東石ケ谷遺跡調査会	830m²	元.12.1～2.1.27	土坑・溝・ピット	藤井利章
96	〃	灘桜口遺跡	灘区桜口町	妙見山麓遺跡調査会	560m²	2.1.14～2.4.18 次年度継続	古墳時代溝 鎌倉時代柱穴・土坑	神崎　勝
97	〃	旧舞子病院内遺跡	垂水区五色山	―――	1,410m²	63.11.20～元.5.19 先年度継続	中・近世の墓址群	真野　修
98	〃	神楽遺跡	長田区神楽町	妙見山麓遺跡調査会	400m²	元.3.1～元.4.12 先年度継続	古墳時代溝・ピット 中世ピット	神崎　勝 徳原多喜雄
99	〃	徳井町遺跡	灘区徳井町	〃	400m²	元.3.16～元.5.16 先年度継続	平安～鎌倉時代建物址 木棺墓	徳原多喜雄
100	〃	東川崎町遺跡	中央区東川崎町	東川崎町遺跡調査会	2,150m²	元.8.12～元.9.5	近世遺物包含層 近代下水道施設	片岡　修
101	〃	東川崎町遺跡	〃	―――	3,050m²	元.8.22～元.9.20	近世耕作遺構	田代克己
102	駐車場他建設	〃	〃	東川崎町遺跡調査会	2,800m²	元.6.19～元.8.5	近代下水道施設	片岡　修

平成元年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表（本書掲載分）

番　号	遺　跡　名	所　在　地	調 査 主 体	調査面積
1	神出遺跡	西区神出町東	(財)神戸市 スポーツ教育公社	2,320㎡
2	和田遺跡	西区押部谷町和田	〃	210㎡
3	栄遺跡	西区押部谷町栄	〃	1,280㎡
4	養田遺跡	西区押部谷町養田	神戸市教育委員会	81㎡
5	鍋谷池遺跡	西区平野町黒田	〃	3,550㎡
6	大畑遺跡	西区平野町大畑	〃	300㎡
7	玉津田中遺跡(平野地区)	西区平野町下村・福中	(財)神戸市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	1,380㎡ 500㎡
8	印路遺跡	西区平野町印路・中津	(財)神戸市 スポーツ教育公社	890㎡
9	出合遺跡	西区平野町中津	神戸市教育委員会	1,422㎡
10	西神65地点遺跡	西区樫野台１丁目	(財)神戸市スポーツ 教育公社	1,200㎡
11	長谷遺跡	西区櫨谷町長谷	〃	1,040㎡
12	栃木遺跡	西区櫨谷町栃木	〃	300㎡
13	狩口台遺跡	垂水区狩口台6・7丁目	〃	1,185㎡
14	五色塚古墳	垂水区五色山３丁目	神戸市教育委員会	40㎡
15	戎町遺跡（第４次調査）	須磨区戎町３丁目	〃	300㎡
16	戎町遺跡（第５次調査）	須磨区戎町２丁目	〃	130㎡
17	長田神社境内遺跡	長田区大塚町１丁目	〃	2,700㎡
18	三番町遺跡	長田区二番町３丁目	(財)神戸市 スポーツ教育公社	90㎡
19	上沢遺跡	長田区６番町１丁目 ７番町１丁目	(財)神戸市 スポーツ教育公社 神戸市教育委員会	290㎡ 817㎡

調　査　期　間	調査担当者	調　　査　　内　　容	備　考
元.4.5～元.4.20 元.5.15～元.7.11 元.10.18～元.10.31	谷　　正俊 富山　直人 浅谷　誠吾	範囲確認調査 平安～鎌倉時代　掘立柱建物址・土坑・溝 ピット・窯状遺構	
元.12.16～2.1.31	谷　　正俊 浅谷　誠吾	奈良時代　土坑・溝 平安～鎌倉時代　自然流路・ピット	
元.5.8～元.5.10 元.10.4～元.11.25	〃	古墳時代　土坑・溝・自然流路 平安～室町時代　土坑・溝・掘立柱建物址	
元.4.5～元4.13	佐伯　二郎 橋詰　清孝	中世遺物包含層 平安～鎌倉時代　溝・ピット	
元.4.10～元.7.6 元.8.17～元.8.25	丸山　　潔 松林　宏典	弥生時代　土坑・ピット・地山整形遺構	
元.6.6～元.8.9	東　喜代秀	弥生時代の洪水砂から多量の土器が出土 中世の溝・土坑・ピット	
元.10.17～元.12.27 2.1.17～2.3.16	口野　博史 富山　直人 山口　英正	弥生時代後期　竪穴住居址・土坑 古墳時代　竪穴住居址・溝 平安～鎌倉時代　ピット・溝	
元.10.16～2.1.12	池田　　毅	縄文時代後期　土坑 弥生～古墳時代　水田址 古墳時代　溝	
元.4.3～元.10.7	黒田　恭正 東　喜代秀	弥生時代中期　水田・水路・柱穴	
元.7.7～元.7.31	口野　博史 富山　直人	弥生時代　土坑・焼土坑・地山整形遺構	
元.9.4～元.10.17 元.12.16～2.2.6	菅本・口野 富山・内藤	弥生時代　土坑・ピット 中世　ピット・溝	
元.11.27～元.12.15	谷　　正俊 浅谷　誠吾	古墳時代後期　土坑・ピット 平安時代　焼土坑・溝・ピット	
元.4.1～元.4.13 元.8.8～元.10.2	菅本・谷 松林・浅谷	弥生時代　竪穴住居址・土坑・溝・ピット	
元.4.17～元.4.20	山本　雅和	周溝の肩部・埴輪片	
元.11.1～2.3.12	山本　雅和 阿部　敬生	縄文時代晩期～弥生時代前期の自然流路 弥生時代中期　竪穴住居址・土器棺墓	
2.3.13～2.3.31	〃	弥生時代中期　落ち込み・ピット 庄内期～布留期　落ち込み・ピット	2年度へ 継続調査
元.6.4～2.2.10	西岡　誠司 佐伯　二郎 橋詰　清孝	弥生時代後期　竪穴住居址 古代末期～中世初頭　水田址 中世　掘立柱建物址・井戸	63年度～ 継続調査
元.7.12～元.8.4	谷　　正俊 浅谷　誠吾	古墳時代後期　自然流路・ピット・土坑・ 溝	
元.8.1～元.8.31 元.3.1～元.10.24	口野・富山 西岡・山本 佐伯・斎木 阿部	縄文時代晩期～弥生時代前期　自然流路 弥生時代後期～古墳時代後期　土坑 古墳時代～中世　ピット・溝	

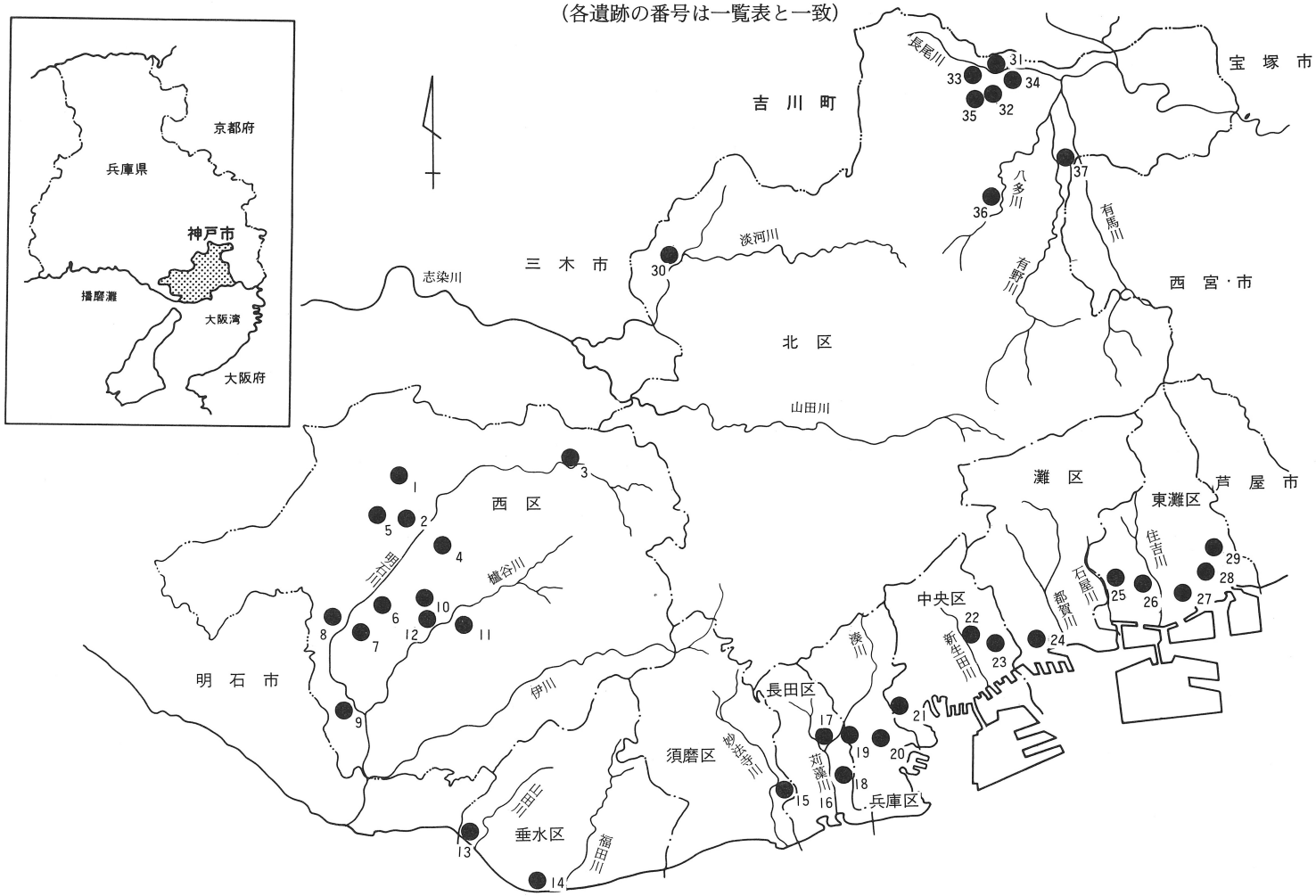
平成元年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表（本書掲載分）

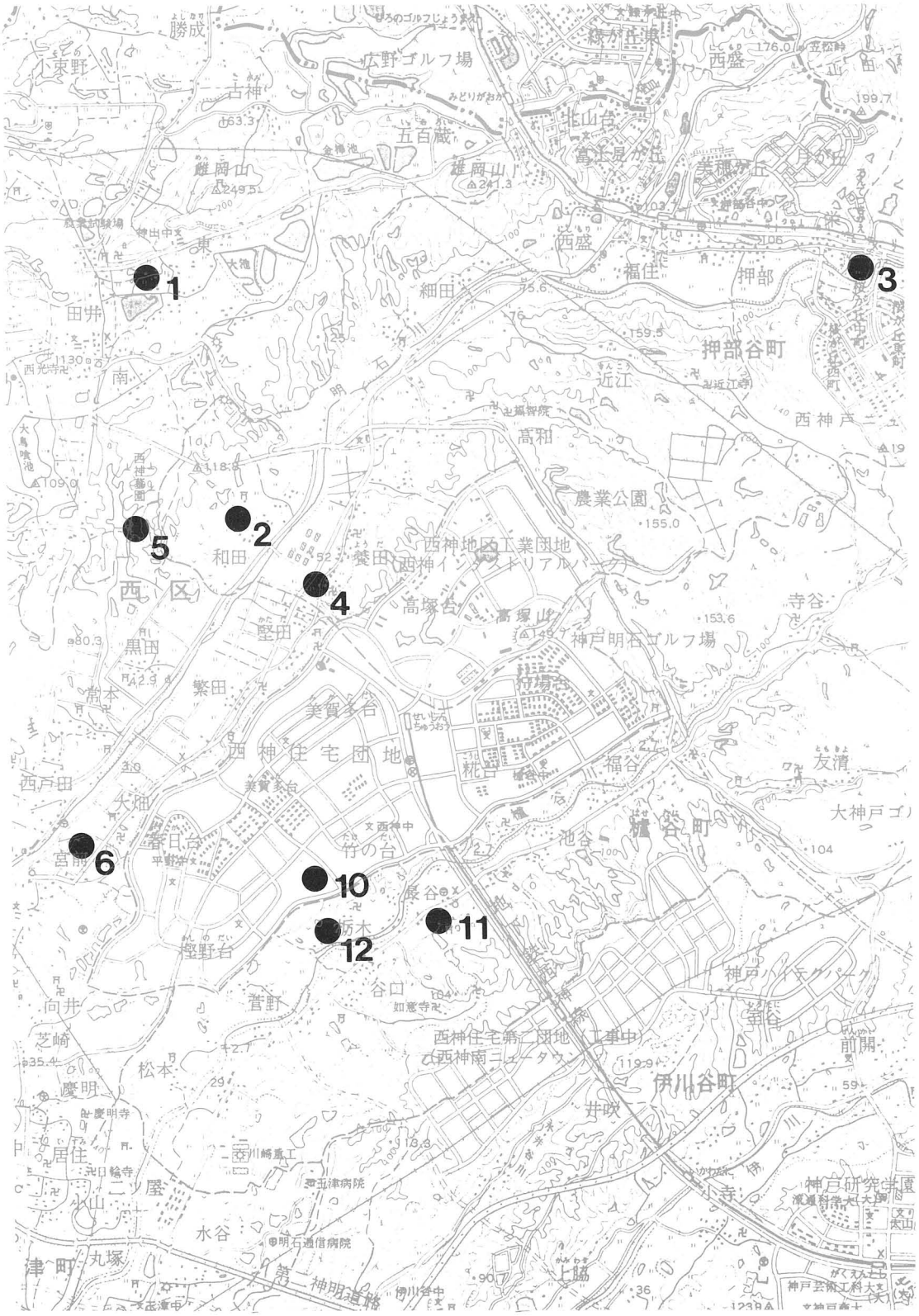
番　号	遺　　跡　　名	所　在　地	調 査 主 体	調査面積
20	大開遺跡	兵庫区大開通４丁目	神戸市教育委員会	1,590㎡
21	楠・荒田町遺跡	中央区橘通３丁目	㈶神戸市 スポーツ教育公社	1,900㎡
22	熊内遺跡	中央区熊内橋通６丁目	神戸市教育委員会	172㎡
23	日暮遺跡	中央区筒井町３丁目	〃	530㎡
24	西求女塚古墳	灘区都通３丁目	〃	110㎡
25	郡家遺跡（大蔵地区）	東灘区御影町郡家字大蔵	〃	80㎡
26	住吉宮町遺跡	東灘区住吉東町５丁目	㈶神戸市 スポーツ教育公社	165㎡
27	魚崎中町遺跡	東灘区魚崎中町１丁目	神戸市教育委員会	250㎡
28	本山遺跡	東灘区本山南町８丁目	〃	1,520㎡
29	森北町遺跡	東灘区森北町４丁目	〃	1,300㎡
30	淡河中村遺跡	北区淡河町淡河	㈶神戸市 スポーツ教育公社	40㎡
31	宅原遺跡（有井地区）	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	830㎡
32	宅原遺跡（豊浦地区）	北区長尾町宅原	〃	3,240㎡
33	下上津遺跡（神子田地区） 宅原・上津条里遺構	北区長尾町宅原・上津	〃	1,080㎡ 330㎡ 60㎡
34	宅原遺跡（内垣地区）	北区長尾町宅原	㈶神戸市 スポーツ教育公社	540㎡
35	北神ニュータウン内遺跡 （宅原・上天神地区）	北区長尾町宅原	神戸市教育委員会	2,000㎡
36	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	㈶神戸市 スポーツ教育公社	5,140㎡
37	下二郎遺跡	北区有野町二郎	神戸市教育委員会 ㈶神戸市 スポーツ教育公社	130㎡ 150㎡

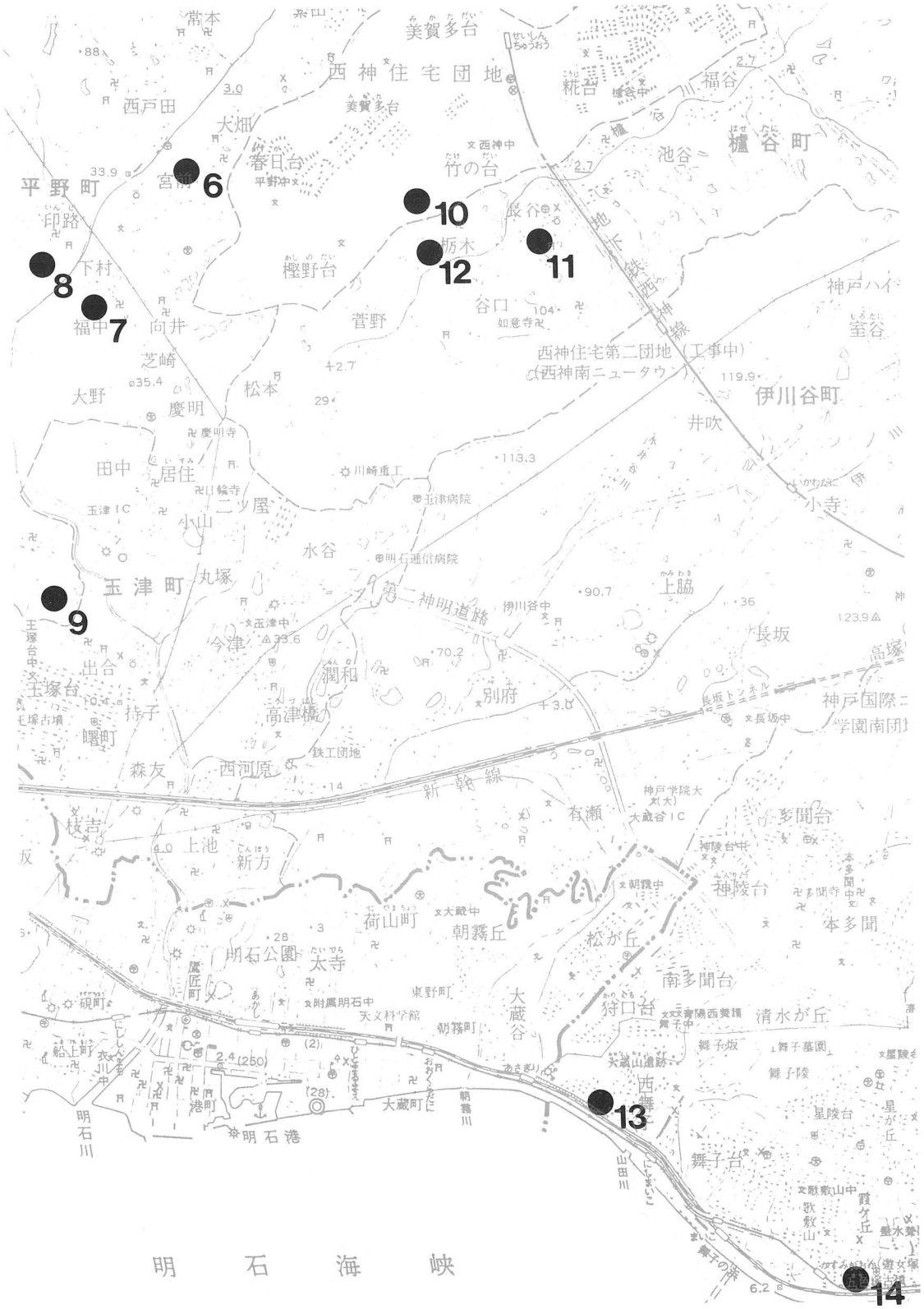
調　査　期　間	調査担当者	調　　査　　内　　容	備　考
63.8.1～元.4.30	前田　佳久 内藤　俊哉	縄文時代晩期　土坑・自然流路 弥生時代前期　環濠集落	63年度～ 継続調査
元.9.18～元.12.16	菅本　宏明 池田　　毅 橋詰　清孝	古墳時代前期　土坑 平安時代後期～鎌倉時代　溝	
2.2.20～2.3.2	丸山　　潔 松林　宏典	弥生時代後期　竪穴住居址・土坑・ピット	
元.9.11～元.11.1	〃	奈良時代～中世　ピット・溝 ６～７世紀掘立柱建物址，近世　井戸	
元.11.27～元.12.13	須藤　　宏	古墳周隍？　中世　遺物包含層	
元.5.15～元.5.31	山本　雅和 阿部　敬生	弥生時代中期末～後期後半　自然流路 平安時代前期　土坑・ピット	
元.12.18～2.3.16	橋詰　清孝	古墳時代後期　古墳・竪穴住居址・掘立柱建物址 奈良～平安時代後期　掘立柱建物址	
元.6.6～元.6.22	丹治　康明 須藤　　宏	弥生時代～中世　遺物包含層 11世紀　掘立柱建物址	
元.11.13～2.3.31	〃	弥生時代　自然流路・土器群・銅鐸埋納坑	2.2.4 現地説明会
元.4.4～元.5.15 元.6.26～元.11.26	〃	弥生時代～古墳時代中期　集落址・流路 飛鳥時代　水田	元.11.5 現地説明会
元.12.18～元.12.20	谷　　正俊	奈良時代　掘立柱建物址・土坑・ピット	
元.11.6～2.1.18	安田　　滋 斎木　　巌	古墳時代前期～中期　竪穴住居址 古墳時代前期～中期　自然流路	
元.4.17～元.10.31	〃	古墳時代中期　竪穴住居址 奈良時代～鎌倉時代　大溝・木棺墓 近世　竪穴状建物址	
元.9.8～元.10.19 元.9.25～元.10.4	安田　　滋 斎木　　巌 山口　英正	平安時代末～鎌倉時代　土坑・溝・ピット 中世　条里水田・溝・畦畔 〃	
元.8.1～元.10.5	菅本　宏明 池田　　毅 橋詰　清孝	中世　ピット群 古墳時代　土坑・溝	
元.10.10～元.11.30	黒田　恭正 東　喜代秀	奈良時代～平安時代　土坑 時期不明　土坑	
元.4.3～元.8.4	菅本・富山 池田・橋詰	平安時代中葉～鎌倉時代初頭の集落址	62年度～ 継続調査
元.4.26～元.5.10 元.8.4～元.8.28	山本　雅和 阿部　敬生 池田　　毅	弥生時代後期～中世　遺物 古墳時代後期　ピット・土坑墓	

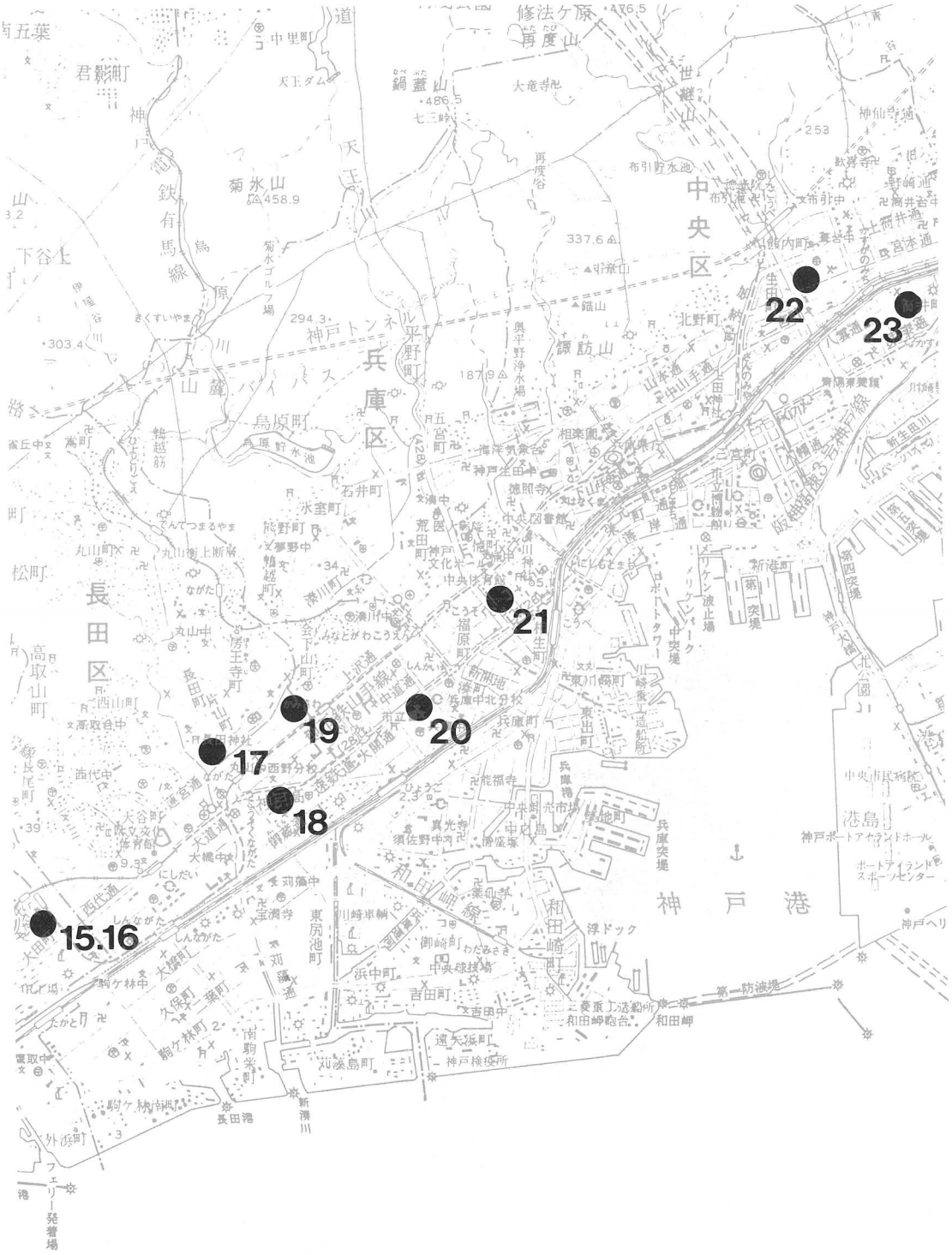
平成元年度　神戸市埋蔵文化財調査地位置図

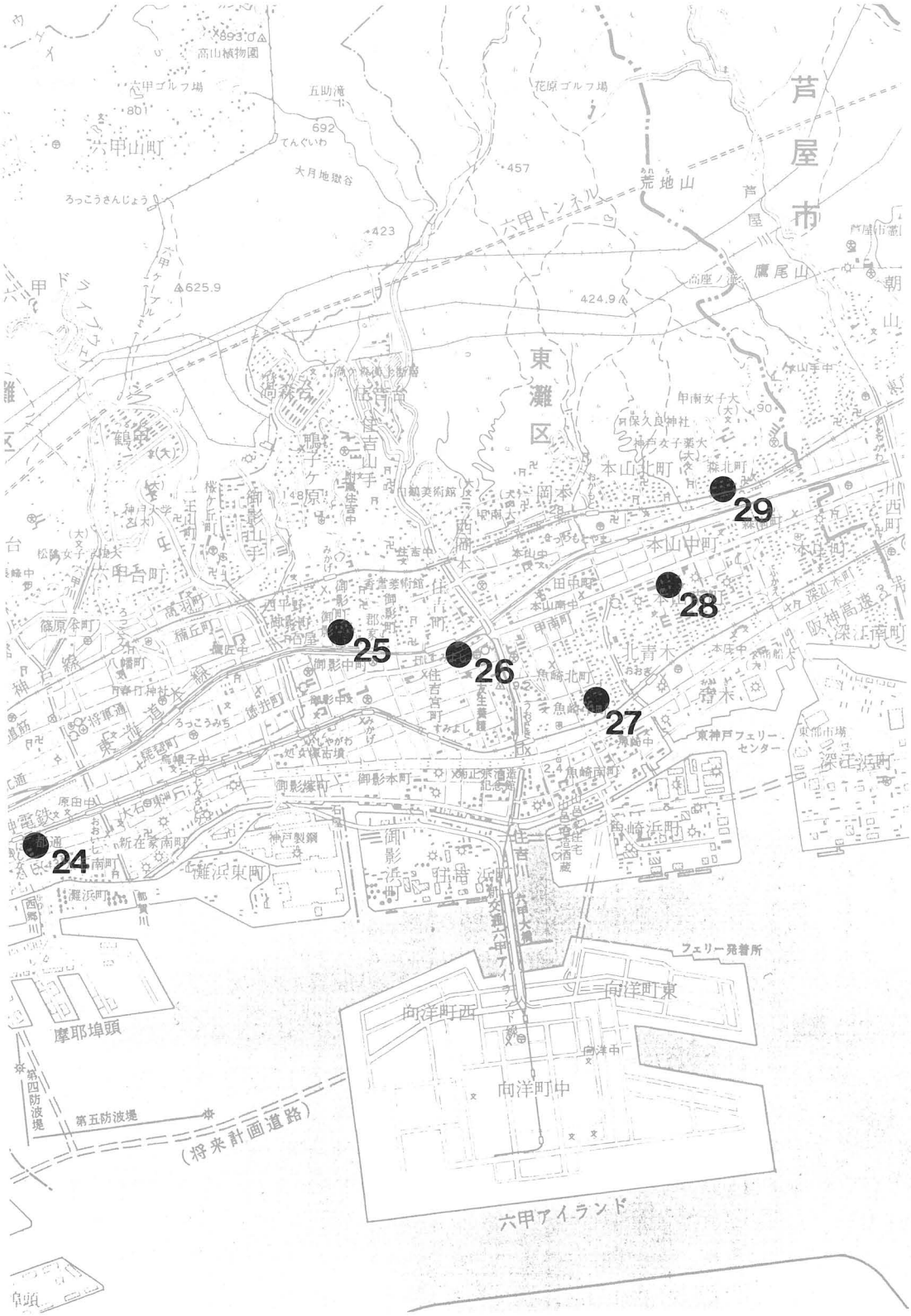
（各遺跡の番号は一覧表と一致）

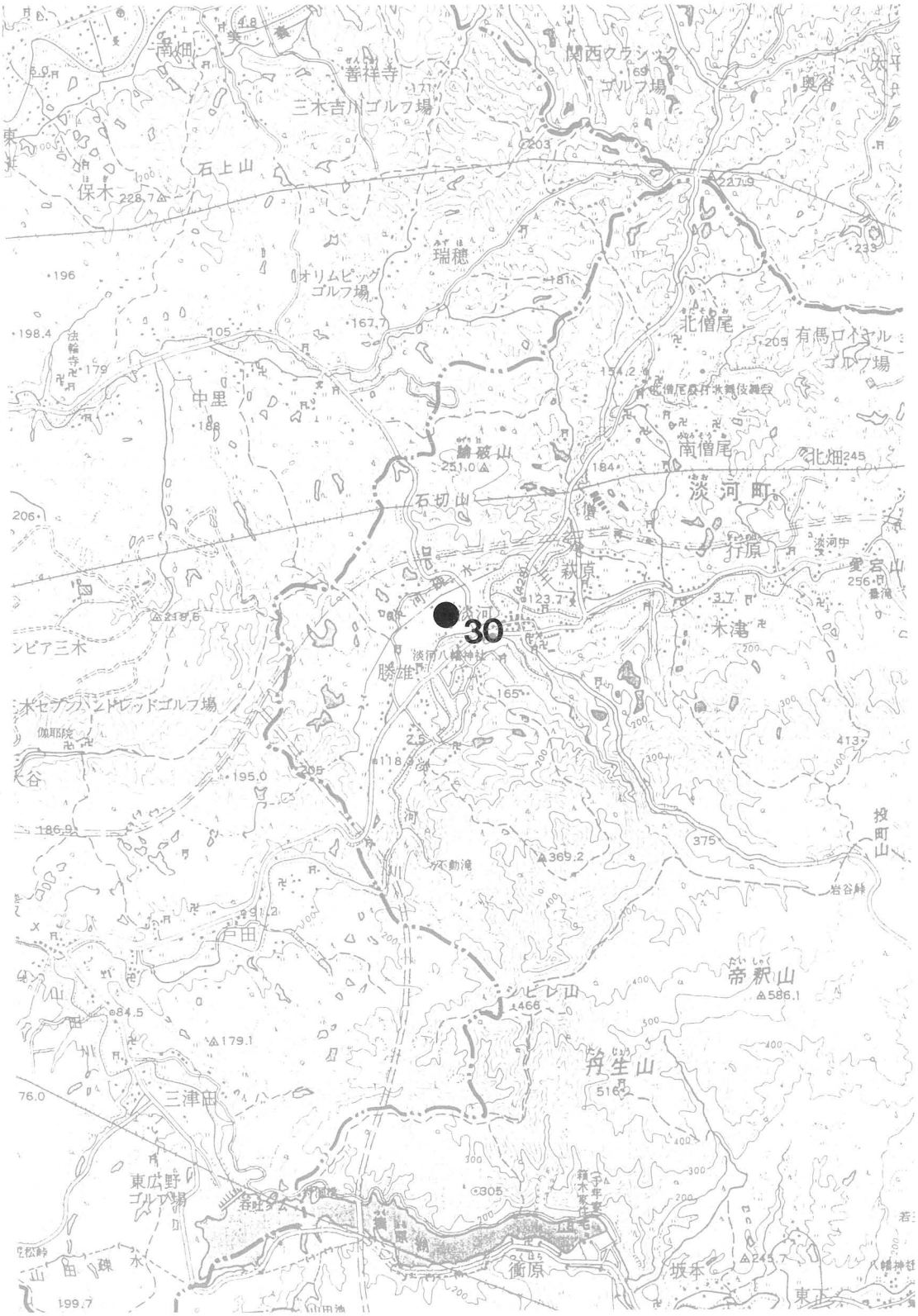


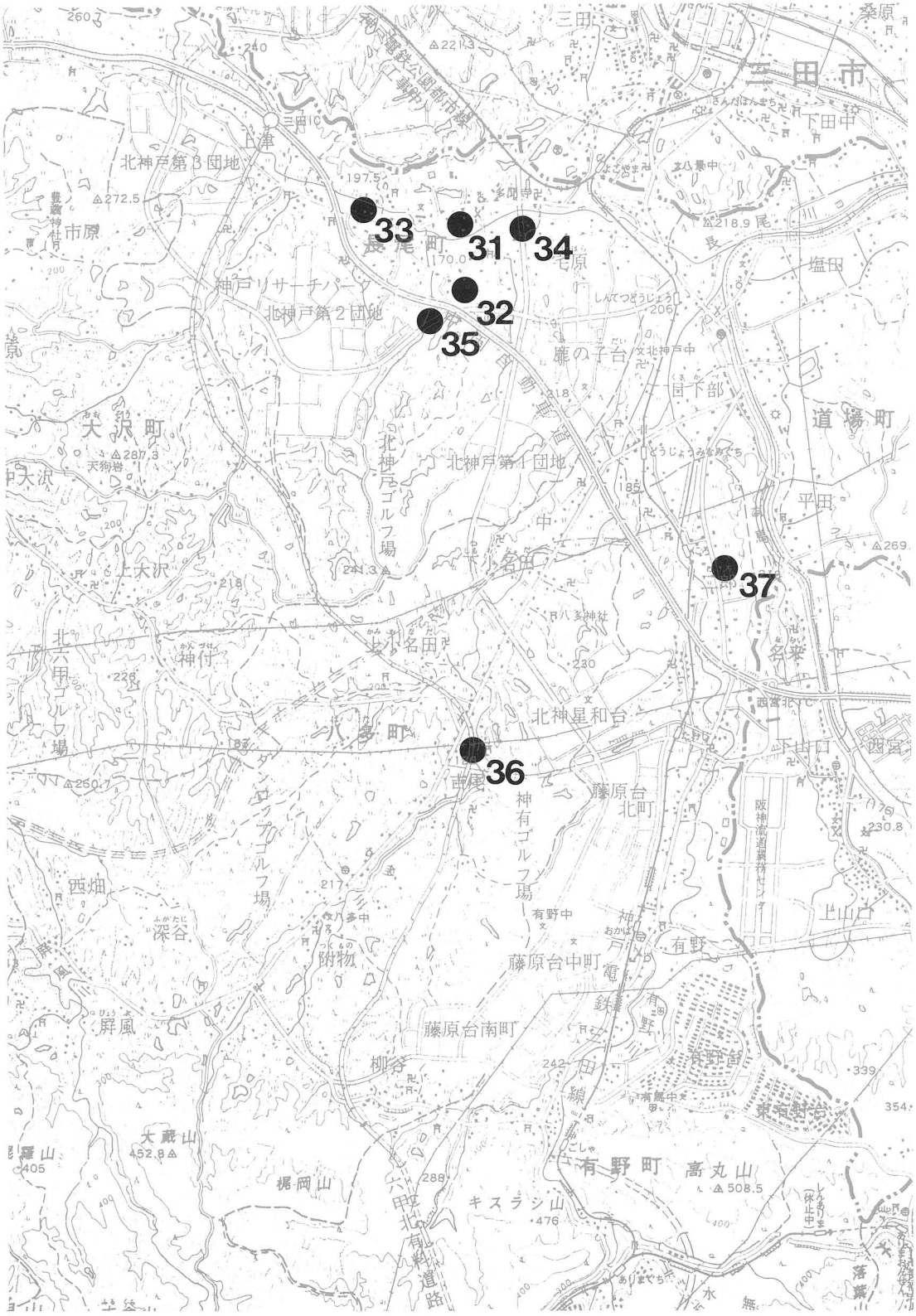

1
2
3
4
5
6
10
11
12
勝成
広野ゴルフ場
緑が丘東
西盛
古神
五百蔵
雄岡山
生山台
富士見が丘
美穂が丘
月が丘
西盛
福住
押部
細田
押部谷町
近江
高和
農業公園
西神地区工業団地
西神インダストリアルパーク
和田
養田
西区
高塚台
高塚山
神戸明石ゴルフ場
寺谷
黒田
堅田
繁田
特別養護老人ホーム
美賀多台
西神住宅団地
美賀多台
糀台
福谷
友清
大神戸ゴ
大阪
西戸田
宮前
平野台
竹の台
池谷
櫨谷町
長谷
坂木
樫野台
谷口
如意寺
神戸ハイテクパーク
向井
菅野
室谷
前開
西神住宅第二団地（工事中）
（西神南ニュータウン）
芝崎
松本
伊川谷町
慶明
井吹
居住
二ツ屋
水谷
明石通信病院
神戸研究学園
津町
丸塚
第二神明道路
上脇
神戸芸術工科大学


6
7
8
9
10
11
12
13
14
明石海峡
平野町
玉津町
伊川谷町
櫨谷町
西神住宅団地
西神住宅第二団地（工事中）
（西神南ニュータウン）
第二神明道路
新幹線
明石公園
明石港
明石川
舞子台
舞子坂
星陵台
南多聞台
本多聞
神陵台
清水が丘
松が丘
朝霧丘
荷山町
大蔵谷
大蔵町
東野町
天文科学館
附属明石中
玉津病院
明石通信病院
川崎重工
鉄工団地
高津橋
潤和
別府
有瀬
大蔵谷IC
長坂
上脇
伊川谷中
玉津中
西神中
長坂中
神戸学院大
神陵台中
朝霧中
大蔵中
舞子中
青陽西業務
天満山遺跡
舞子墓園
舞子陵
星陵台
歌敷山中
遊女塚
高塚
神戸国際
学園南団
神戸ハイ
室谷
井吹
小寺
上池
新方
枝吉
森友
西河原
出合
玉塚台
持子
曙町
今津
丸塚
水谷
二ツ屋
小山
田中
居住
慶明
慶明寺
川輪寺
玉津IC
大野
芝崎
向井
福中
下村
印路
宮前
春日台
平野中
大畑
西戸田
常本
美賀多台
糀谷
福谷
池谷
竹の台
長谷
栃木
櫻野台
谷口
如意寺
菅野
松本
谷口
船上町
衣川中
港町
鍛冶町
明石
狩口台
西舞
山田川
舞子の浜


22
23
21
19
20
17
18
15.16
中央区
兵庫区
長田区
神戸港
中央市民病院
港島
神戸ポートアイランドホール
ポートアイランドスポーツセンター
和田岬
和田岬造船所
浮ドック
第一防波堤
第一突堤
第四突堤
兵庫突堤
中突堤
ポートタワー
メリケンパーク
波止場
東出町
兵庫港
中央卸売市場
厚地町
中之島
須佐野中学
東尻池町
川崎車輌
御崎町
中央球技場
浜中町
吉田町
吉田中
遠矢浜町
神戸検疫所
知盛島町
新湊川
長田港
南駒栄町
駒ケ林中
駒ケ林南町
外浜町
フェリー発着場
大橋中
大橋町
大田町
西代通
西代中
長尾町
高取山町
高取台中
丸山中
丸山町
房王寺町
長田町
西山町
大谷町
西野分校
須磨寺
刈藻通
刈藻島町
新開地
兵庫中北分校
兵庫町
福原町
生田町
中道通
上沢通
山陽電鉄
JR山陽本線
JR東海道本線
阪神電鉄
阪神高速3号神戸線
新生田川
生田神社
宮町
北野町
山本通
中山手通
相楽園
海洋気象台
神戸生田中
徳照寺
中央図書館
神戸文化ホール
中央体育館
荒田町
湊川中
湊川町
会下山
みなとがわこうえん
氷室町
石井町
熊野町
夢野中
鵯越町
鵯越筋
烏原町
烏原貯水池
五宮町
平野町
兵庫区
神戸トンネル
山麓バイパス
菊水山
菊水ゴルフ場
鍋蓋山
大竜寺
再度山
再度谷
修法ケ原
天王山
天王ダム
中里町
君影町
神戸電鉄有馬線
下谷上
鷲尾山
錨山
奥平野浄水場
布引貯水池
布引谷
神仙寺
宮本通
八幡通
新港町
第一突堤
第四突堤
神戸大橋
北公園


24
25
26
27
28
29
高山植物園
六甲ゴルフ場
五助滝
692
てんぐいわ
大月地獄谷
六甲山町
ろっこうさんじょう
六甲トンネル
花原ゴルフ場
457
荒地山
芦屋市
芦屋川
423
625.9
424.9
鷹尾山
東灘区
甲南女子大
保久良神社
神戸女子薬大
本山北町
本山中町
岡本
西岡本
住吉台
住吉山手
鶴甲
鶴子ケ原
御影山手
御影中町
御影本町
御影塚町
御影浜町
住吉宮町
住吉川
田中町
甲南町
魚崎北町
魚崎南町
魚崎浜町
北青木
青木
東神戸フェリーセンター
深江浜町
深江南町
阪神高速
神戸製鋼
難波東町
摩耶埠頭
第四防波堤
第五防波堤
(将来計画道路)
フェリー発着所
向洋町西
向洋町東
向洋町中
六甲アイランド


30
南畑
善祥寺
三木吉川ゴルフ場
関西クラシック
ゴルフ場
奥谷
石上山
保木
228.7
227.9
瑞穂
オリムピック
ゴルフ場
北僧尾
有馬ロイヤル
ゴルフ場
中里
法輪寺
南僧尾
北畑
淡河町
石切山
荒原
淡河中
愛宕山
木津
淡河
淡河八幡神社
勝雄
ンピア三木
水セランハンドレッドゴルフ場
伽耶院
大谷
195.0
186.9
投町山
岩谷峠
不動滝
戸田
帝釈山
586.1
ヒレ山
466
舟生山
516
三津田
東広野
ゴルフ場
若杉
衝原
坂本
東
199.7


33
31
34
32
35
37
36
三田市
北神戸第3団地
北神戸第2団地
北神戸第1団地
北神戸ゴルフ場
大沢町
八多町
有野町
長尾町
道場町
北神星和台
藤原台北町
藤原台中町
藤原台南町
神有ゴルフ場
北六甲ゴルフ場
六甲北有料道路
高丸山
キスラシ山
大蔵山
梶岡山
屏風
深谷
西畑
柳谷
附物
神付
名来
平田
塩田
下田中
鹿の子台
上大沢
北小名田
中小名田
上山口
有野台
東有野台
西宮北IC

II．平成元年度の発掘調査

1．神出（かんで）遺跡

1．はじめに　神戸市西区神出町一帯は、昭和56年より土地改良事業に伴う発掘調査によって、継続的に調査が行われ、窯址、粘土採掘坑、柱穴群、土坑、溝、墓址等多くの遺構や遺物が確認されている。今回の発掘調査対象地は工事区分では東７工区（約15ha）にあたり、神出中学校の南側から中ノ池の北側に位置する。

神出古窯址群は、印南野台地東端にある雄岡山、雌岡山という標高200m台の独立丘を中心とした洪積世高位段丘に立地する。周辺では先土器時代～弥生時代にかけての石器が採集されているが、当時の集落址等は確認されていない。また、段丘縁辺部には後期古墳が点在している。

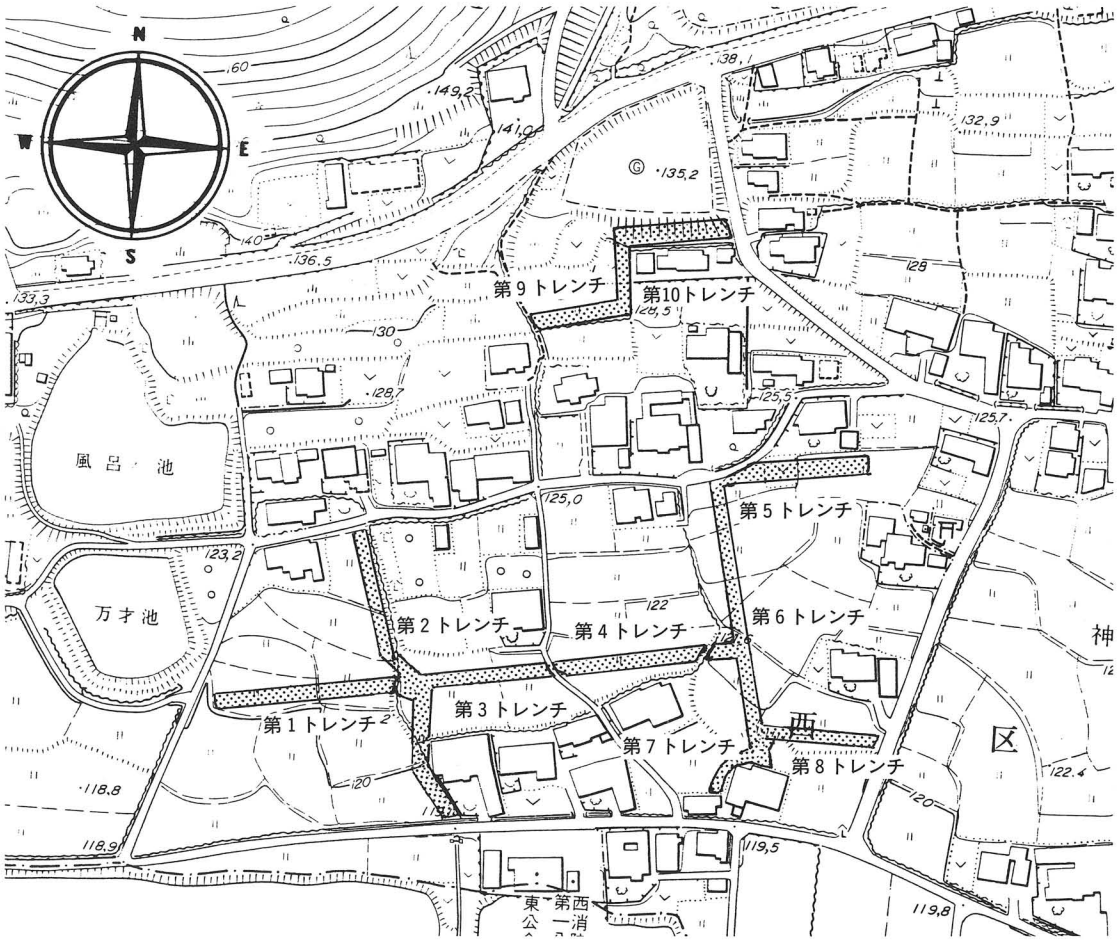


fig. 1　調査地位置図　S＝1：3000

2．調査の概要　約15haの工事施工区域内で、掘削によって遺跡の破壊が免れない排水路とパイプライン部分約3800㎡について、約1720㎡を財団法人神戸市スポーツ教育公社が調査を実施した。

調査は平成元年５月15日～７月11日、平成元年10月18日～10月31日の２回に分けて実施した。

調査区については排水路、パイプラインの施工部分を第１～10トレンチに区分した。

第１トレンチ　調査区の西端に位置する幅約2.5m、長さ約67mのトレンチである。ピット、土坑、溝がトレンチのほぼ全域で多数確認された。

基本層序　現地表面は耕作土層が厚さ約0.2～0.3m堆積し、以下には、黄灰褐色細砂層(床土)、淡灰褐色細砂層、暗灰色細砂層(遺物包含層)、黄褐色シルト混じり細砂層(地山、遺構検出面)が堆積する。現地表面から遺構検出面までの深さは、約0.5～0.7mとなる。

主な遺構　第１トレンチでは、柱穴が並ぶ部分について一部拡張を行った結果、３棟の掘立柱建物址が確認された。

ＳＢ01　東西方向４間、南北方向４間以上の規模をもつ掘立柱建物址である。柱間距離は、約1.9m～2.7mである。柱掘形の大きさは0.4～0.5mのものが多いが、西端と南端のものは、0.2m程度であり、庇の柱の可能性がある。

ＳＢ02　東西方向３間、南北方向２間以上の規模をもつ掘立柱建物址である。柱間距離は、約2.1m～2.4mである。

ＳＢ03　東西方向６間、南北方向３間以上の規模をもつ掘立柱建物址である。柱間距離は、約1.7m～2.2mである。

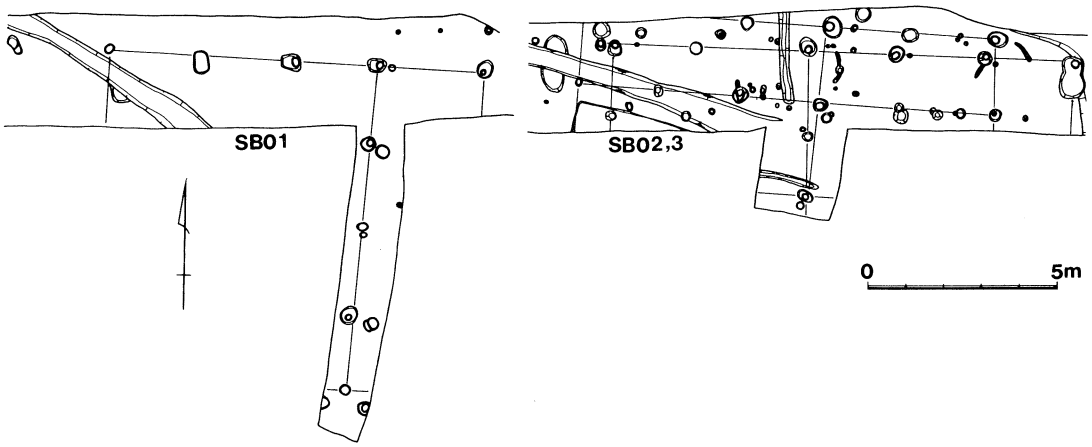


fig. 2　第１トレンチＳＢ01・02・03平面図

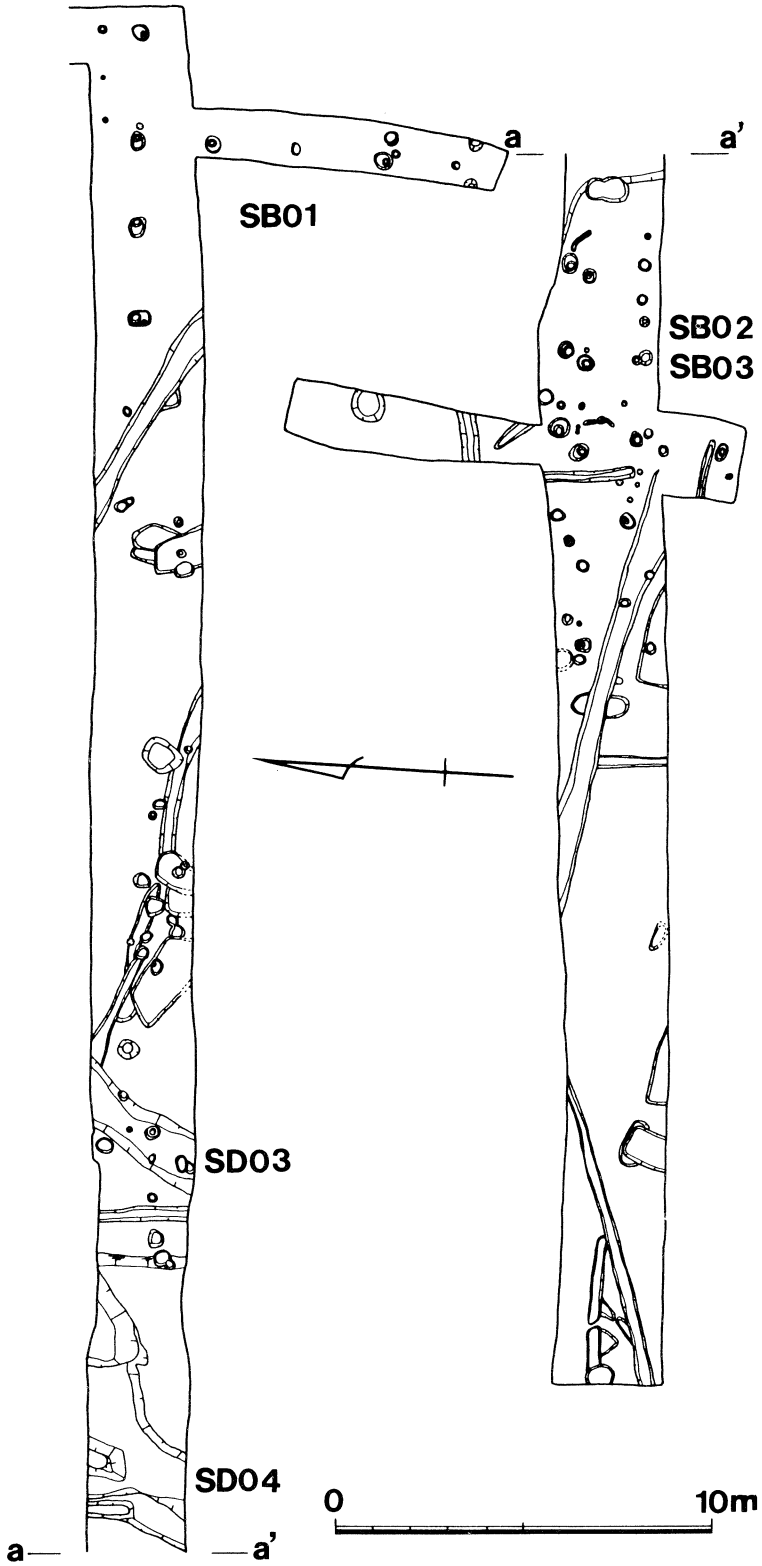


fig. 3
第１トレンチ平面図

ＳＤ03　幅約1.3m、検出長約５ｍ、深さ約0.1mの溝である。溝内には灰色シルト層が堆積している。底面から遊離した状態で須恵器、土師器が多く出土した。

ＳＤ04　幅が南端では2.3m、北端では７ｍとＹ字状に広がり、北東部は深く落ち込む部分がある。上層には灰褐色極細砂、下層には暗灰褐色細砂混じりシルトが堆積し、深く落ち込む部分には暗灰色シルトが堆積している。遺物は上、下層ともに大量に出土しているが、落ち込む部分からの出土は少量であった。出土遺物は須恵器、土師器、青・白磁、瓦等であるが、出土量は多いにもかかわらず、他の破片と接合が困難なものが大半を占めた。

第２トレンチ　第１トレンチとほぼ直交する幅約２ｍ、長さ約120mの現用の水路に沿った調査区である。第１トレンチと交わる地点から北側は遺物包含層およびピット３基、溝２条が確認されたのみであった。また南端部でピット、溝が検出された。ピットの中には柱痕を残すものもあったが、掘立柱建物址としての柱穴のまとまりは確認できなかった。

fig. 4　第２トレンチ南半（北から）

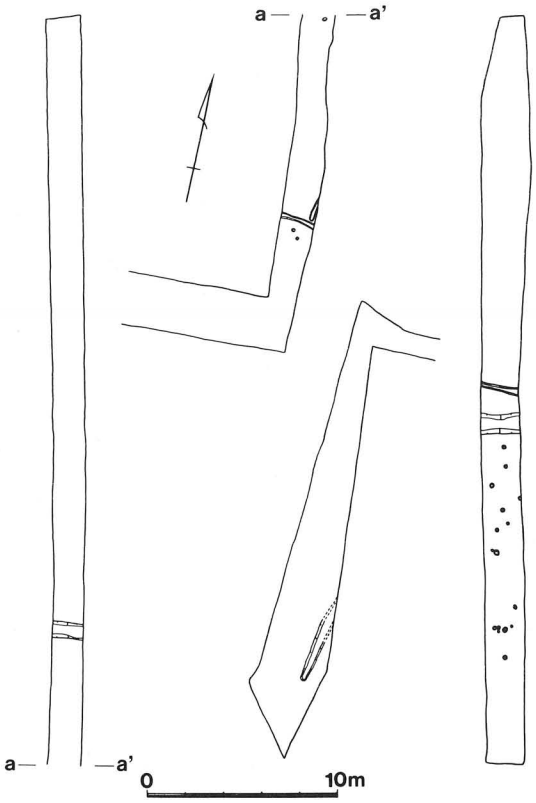


fig. 5　第２トレンチ平面図

第3トレンチ　第2トレンチとほぼ直交する幅約1m、長さ約50mの調査区である。ここでは一部で遺物包含層がみとめられたが、トレンチの設定された部分が尾根筋にあたり、後世の開墾によって原地形が改変を受け、遺構は確認されなかった。

第4トレンチ　第3トレンチと同一方向に里道を挟んで延びる幅約2.5m、長さ約80mの調査区である。トレンチ内からはピット、土坑、溝が中央やや西寄りで集中して確認された。

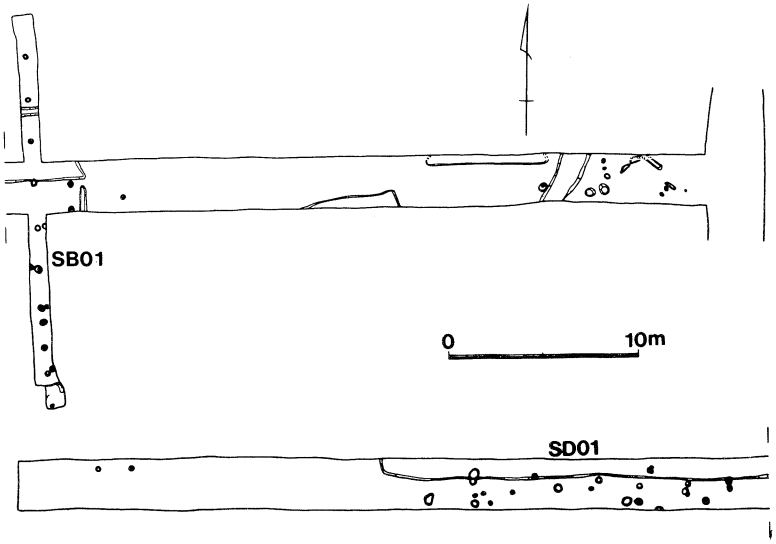


fig. 6
第4トレンチ平面図

主な遺構

ＳＢ01　東西方向4間、南北方向7間の掘立柱建物址で、今回の調査でもっとも大規模な建物である。柱間距離は、約1.4m～3.2mと不揃いである。また、このトレンチは遺構面の遺存度が悪く、柱穴の掘形の深さは約0.2～0.3m程度である。

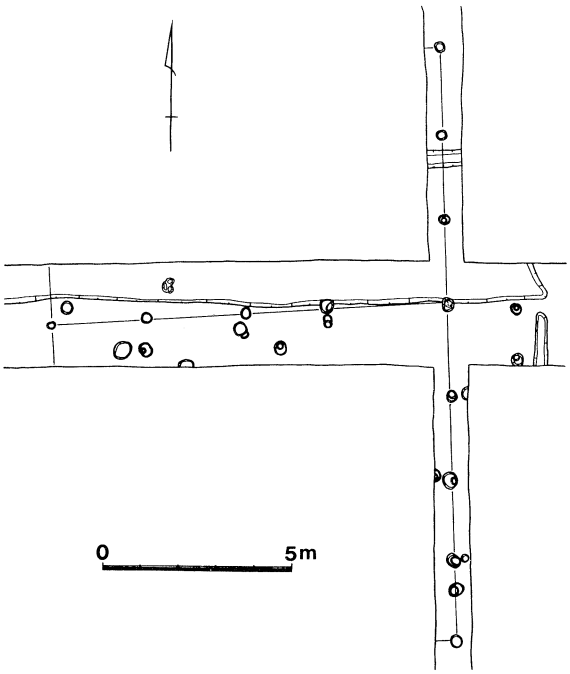


fig. 7
第4トレンチＳＢ01平面図

ＳＤ01　検出幅約1.2m、検出長約24m、深さ0.1mの浅い溝である。溝内は灰色細砂層が堆積している。底面および堆積土より須恵器、土師器が出土した。

第５トレンチ　後述の第６トレンチの北端で鉤形に東へのびる幅約３m、長さ約53mのトレンチで、西半分では遺構の密度は疎であり、小さなピットが確認されただけである。東半では、近世以降の暗渠によって大きく撹乱をうけていたが、溝、ピットが多く検出された。

ＳＤ02　検出幅約2.2～2.6m、検出長約2.4m、深さ約0.2～0.3mの溝である。溝は流れを何度か変えたらしく、島状に高くなった部分が残されている。溝内には黄灰～灰褐色極細砂(細砂)層が堆積している。北西端で須恵器、瓦が底面からやや遊離した状態で出土した。

fig. 8　第５トレンチ全景（西から）

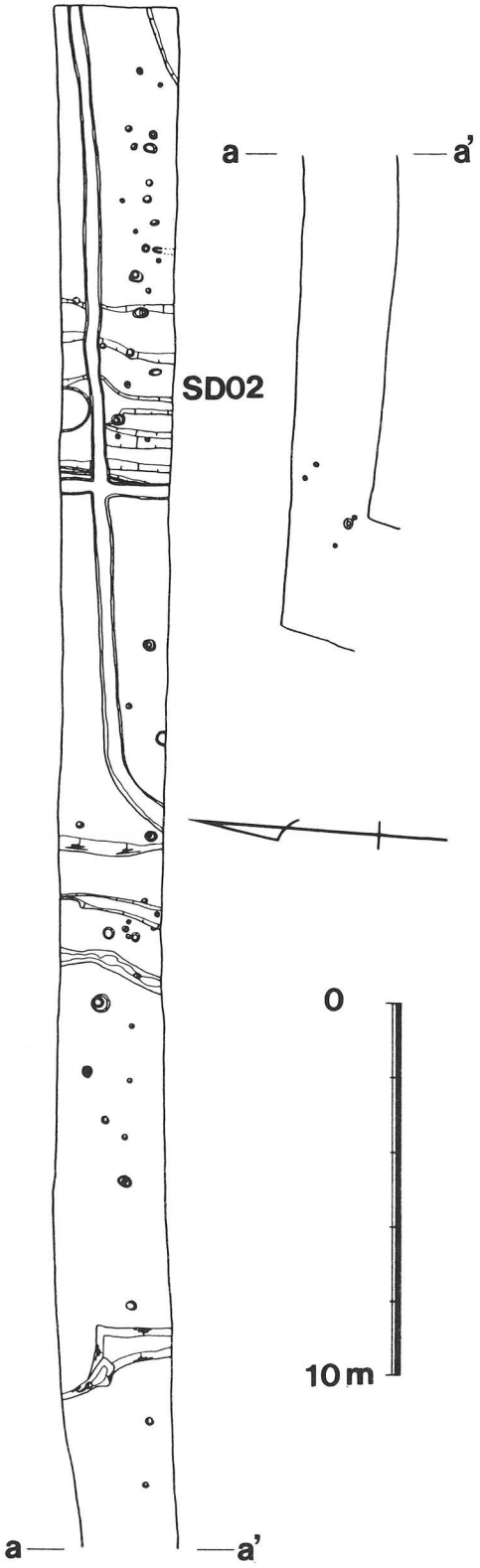


fig. 9　第５トレンチ平面図

第6トレンチ　第5トレンチの西端で南北に折れる幅約3m、長さ約100mの調査坑である。トレンチ内からは、掘立柱建物址1棟、窯状遺構1基、土坑、ピット、溝状遺構多数を検出した。

ＳＢ01　トレンチ中央やや北よりに位置する梁行2間、桁行4間、南北棟総柱の掘立柱建物址で、柱間距離は、梁行が2.3～2.6m、桁行が2.2～2.5mである。柱穴埋土内からは、須恵器の椀等が出土した。

ＳＫ03　第6トレンチが第4トレンチと交差するやや南側で、土坑ＳＫ03を検出した。これは、長径約0.6m、短径約0.4m、深さ約0.1mの楕円形の土坑で、溝ＳＤ01と東端が重複している。中からは須恵器の瓦、坏、鉢等の破片が折り重なって出土した。しかし、これら破片相互の接合はほとんど不可能で、別の場所で破片となった土器を一時に投棄したものと考えられる。

ＳＤ02　溝ＳＤ01の南側にあり、トレンチを斜めに横断する幅0.8～0.5m、検出長約5m、深さ0.05～0.1m、北西から南東にかけて流れる浅い溝である。南東端で、須恵器、土師器坏、瓦等が溝の底面に接して出土した。

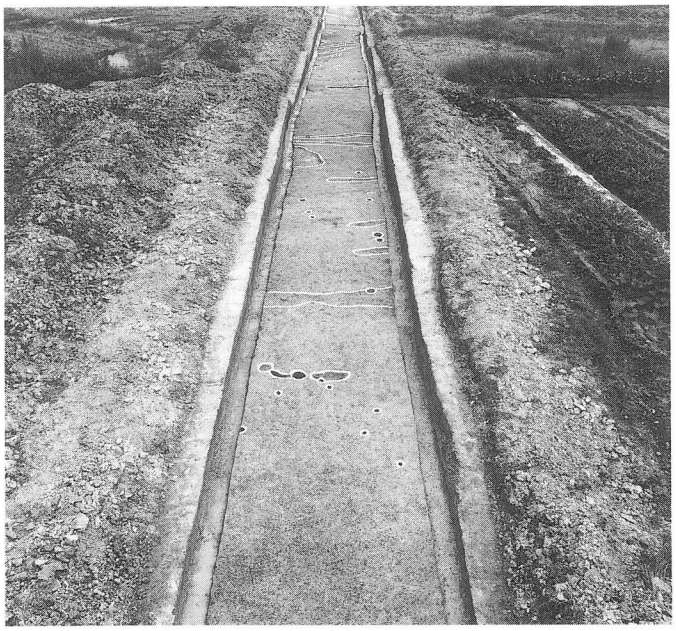


fig.10　第6トレンチ全景(南から)

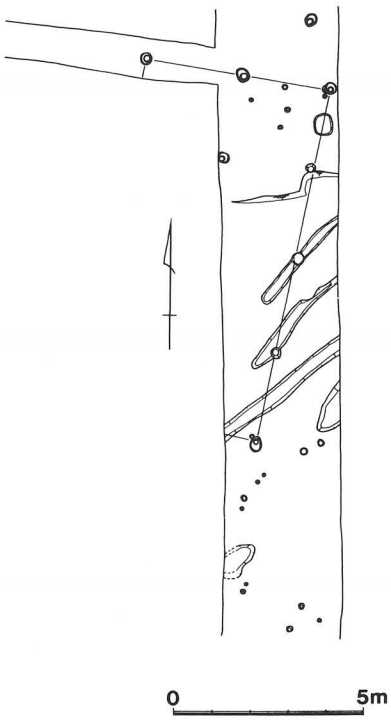


fig.11　第6トレンチＳＢ01平面図

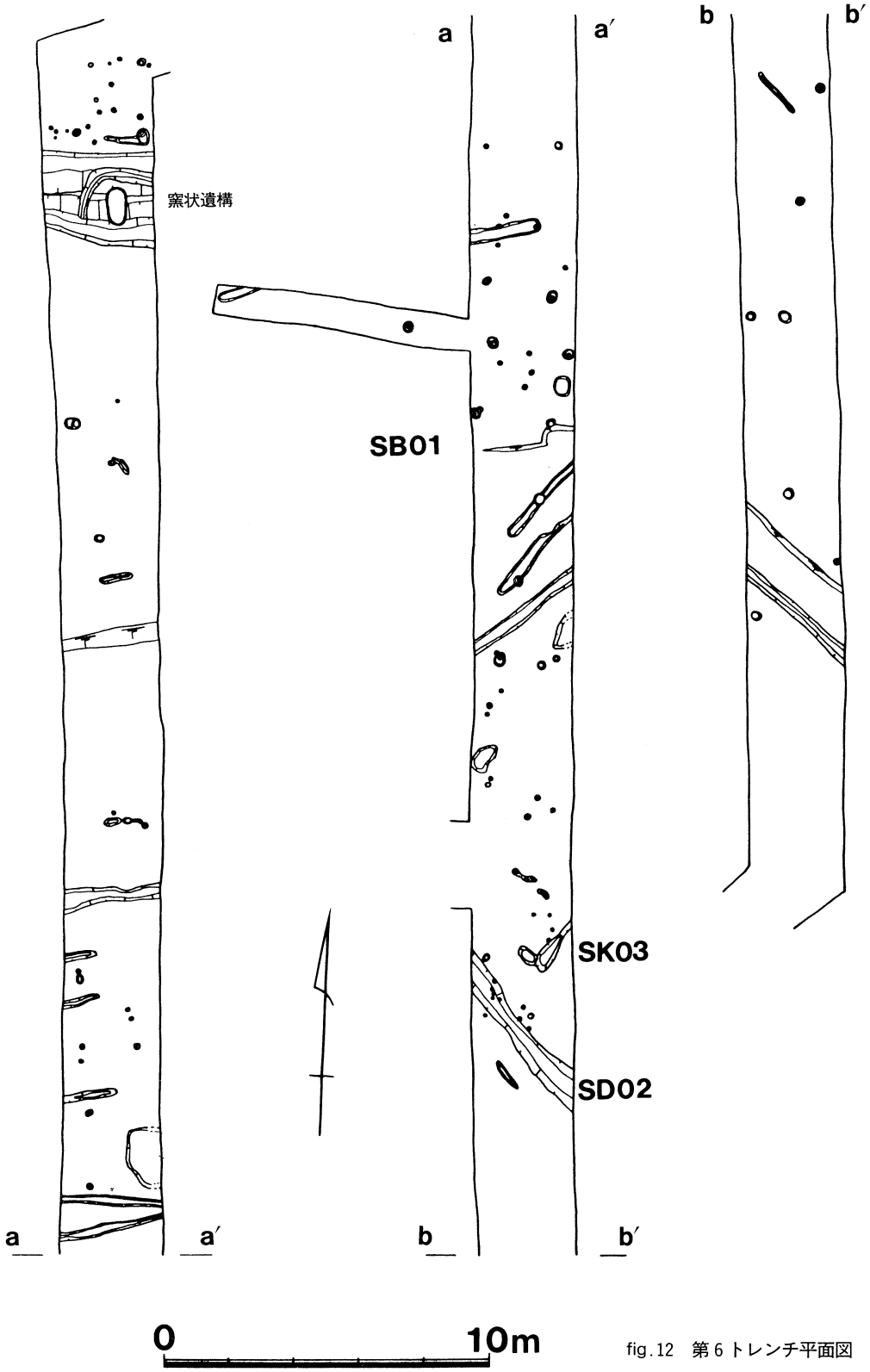


fig.12　第6トレンチ平面図

窯状遺構　トレンチ北端部で、窯状の遺構が１基確認された。窯体は北から南へ緩やかに下る斜面の等高線に直交して築かれている。検出長約1.1m、最大幅約60cmで、南側が溝ＳＤ15によって削られ、消失している。斜面上方には逆Ｌ字状の溝を巡らしている。これは、斜面上方から流れてくる雨水等が直接窯体に当たらないようにする施設であろうと推定される。

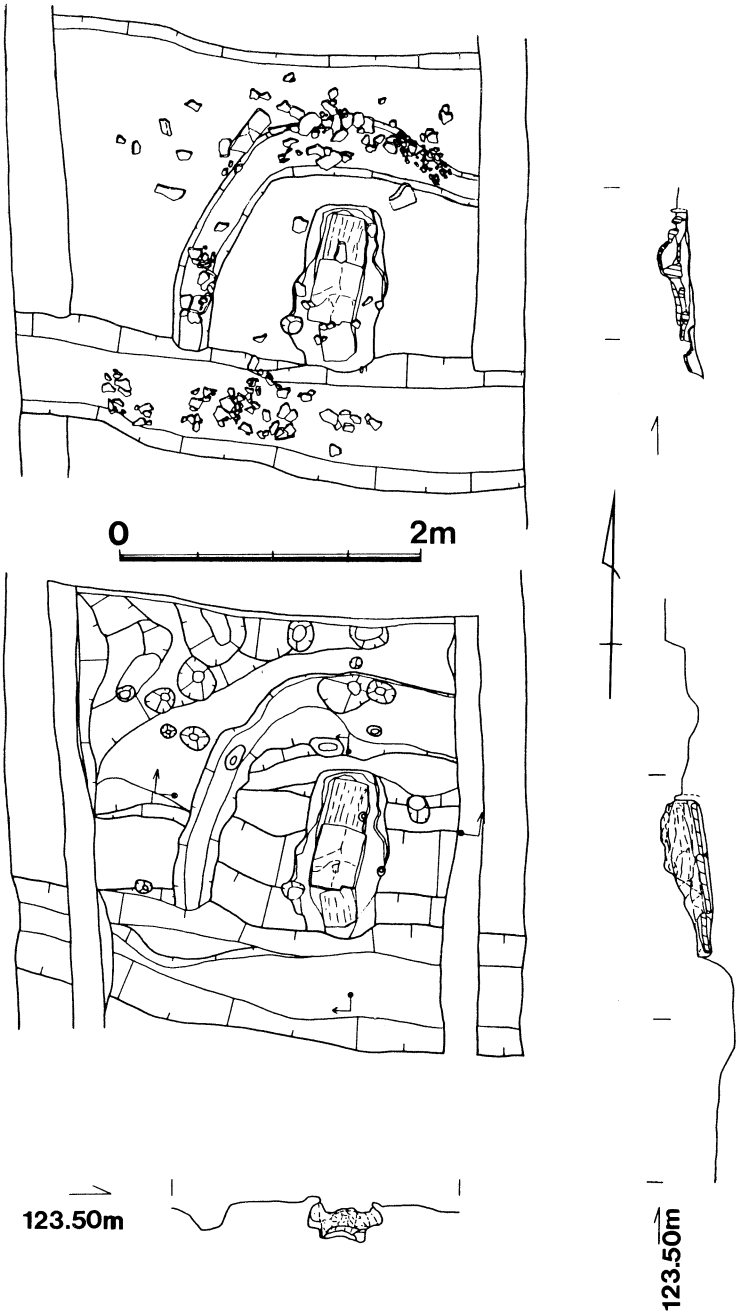


fig.13
第６トレンチ
窯状遺構
土器出土状況図・
平面図・断面図

また窯体の構造は黄灰色極細砂層の地山を掘り窪め、掘形側面に粘土を貼りつけて一段盛り上げ、その部分から側壁を立ち上がらせている。溝ＳＤ15によって削平を受けた部分の断面を観察したが、床面に粘土を貼った痕跡は認められなかった。底面には0.3×0.4mの平瓦を凸面を表にして並べている。

奥壁部分の残存高は窯体底面から約0.15m、最大残存高は約0.25mである。窯体内部は赤色あるいは赤褐色に焼け、奥壁部分がもっとも強く被熱していた。また堆積土には窯体の崩落した粘土と共に炭が多く包含していた。床面の傾斜角度は約８度である。

この窯は南側が溝ＳＤ15によって削られているが、傾斜角度からみて、それほど南側に延びない小規模な窯であろう。付近からは灰原は確認されず、床面から土器はほとんど出土しなかった。しかし斜面上方の溝の堆積土からは、焼けた粘土、瓦とともに完形に近い土師器坏、皿等を多く確認した。これらの遺物がこの窯によって焼かれた可能性は強く、この窯が土師器の坏、皿等の小型製品を焼成する窯と考えられるが詳細は明確でない。

なお、窯の周辺および斜面上方の逆Ｌ字状の溝内からは、土師質の小壺や鉄製の紡錘車が出土した。

この窯址については、現地に保存することが不可能なため、調査完了後遺構の切り取り作業を行い、現地より移動した。

fig.14　第６トレンチ窯状遺構検出状況（南から）

第7トレンチ　第6トレンチ南端に接続する全長24m、幅約2mのくの字に曲がる調査坑である。この付近は開墾時に大きく削平をうけており、第6トレンチとの比高差は約1mである。このため、耕土、床土の直下で地山である明黄灰色シルト層が現れる。遺構は全く検出されず、近，現代の陶磁器、瓦等の入った撹乱坑が発見されたのみである。

第8トレンチ　第6トレンチ南端に接続し、東にのびる全長38m、幅約2mの調査区である。この付近は開墾時に削平をうけており、第6トレンチとの比高差は約0.2m程である。このため、耕土、床土の直下には部分的にしか包含層は存在せず、大半の部分で地山である明黄灰色シルト層が現れる。遺構は溝を2条検出した。トレンチの中央付近に位置し、東西に並行して走る幅約0.5m、深さ0.05〜0.1mほどのものである。遺物は土師器と須恵器が出土したが、いずれも細片のため時期決定をするには至っていない。

第9トレンチ　調査区北西端に位置し、第6トレンチの北西に位置する全長24m、幅約1.5mのくの字に曲がる調査区である。第10トレンチと交わる地点から南側は一部で遺物包含層がみとめられたが、トレンチの設定された部分が尾根筋にあたり、後世の開墾によって削られ、遺構は確認されなかった。東西部分のトレンチでは遺物包含層およびピット2基が確認されたのみであった。ピットの中には柱痕を残すものもあったが、掘立柱建物址としての柱穴のまとまりは確認できなかった。

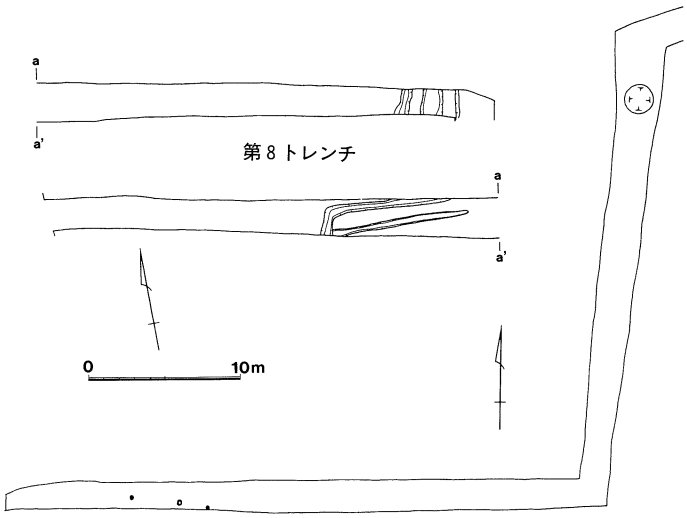


fig.15　第8・9トレンチ平面図

第10トレンチ　第９トレンチ北端に接続し、東に延びる全長36m、幅約２mの調査区である。この付近は開墾時に大きく削平をうけており、トレンチ東端の道路付近の地山面より0.8mほど下で地山面を検出している。このため、盛土の直下で地山である明黄灰色シルト層が現れる。遺構は全く検出されず、近，現代の陶磁器、瓦等の入った撹乱坑が発見されたのみである。

fig.16
調査区遠景
（北から）

３．まとめ

窯状遺構　この度の調査によって、中ノ池北側には、平安時代末期～鎌倉時代にけての集落址および窯状遺構が確認された。今回第６トレンチで発見された窯状遺構については、従来神出古窯址群内で確認された中では小型の部類に入り、これと比較的規模、形状が似ているのは、昭和56年に調査された宮ノ裏支群４号窯である。これは残存長0.8m、最大幅0.5mで「ダルマ窯」の構造を有し、燃焼部が深く掘りこまれている。今回確認された遺構は、燃焼部が削られているためはっきりしないが、宮ノ裏支群４号窯と規模が似ている。しかし、この４号窯では、焚口部に燃料を燃やすための穴が掘りこまれていたのに対し、今回発見された遺構はその様な施設が確認されなかった。また、この遺構の大きさからみて、大型品を大量に焼成したとは考えられず土師器の坏、皿等の小型製品を焼成する窯とするのが、現在の段階ではもっとも妥当と考えられる。なお、この窯状遺構については不明な点が多く、本報告の際にさらに考察したい。

集落址　集落址については掘立柱建物址が５棟確認されたが、トレンチ調査のため、いずれの建物も平面的規模を明らかにすることができなかった。また調査範囲内では、建物の性格を示唆する遺構、遺物は確認できなかった。

このため、これらの建物址と窯状遺構がどのような関係にあるかは明らかにならなかった。しかし第４トレンチで、３間×７間の総柱建物址が確認されており、この建物は、他の建物と比較してとびぬけて規模が大きいところから、一般の住居とするよりも他の目的を持った建物(例えば製作工房址、製品を乾燥させる建物等)と考えたほうがよいのではないかと思われる。それに加えて、掘立柱建物址付近の溝、土坑等から生焼けの土器や大寺院で用いるような瓦が多く出土し、これらの建物遺構が窯業生産と密接な繋がりがあったことは否めない事実である。

粘土採掘址　最後に粘土採掘址については、今回は全く確認されなかった。昭和63年～平成元年にかけて行った神戸市教育委員会、妙見山麓遺跡調査会の調査により、今回の調査地の東側では多くの粘土採掘坑が確認されている。何故、今回の調査区で確認されなかったのかは不明であるが、粘土採掘址と集落址との位置関係、採取される粘土の良否等の問題があるのであろう。

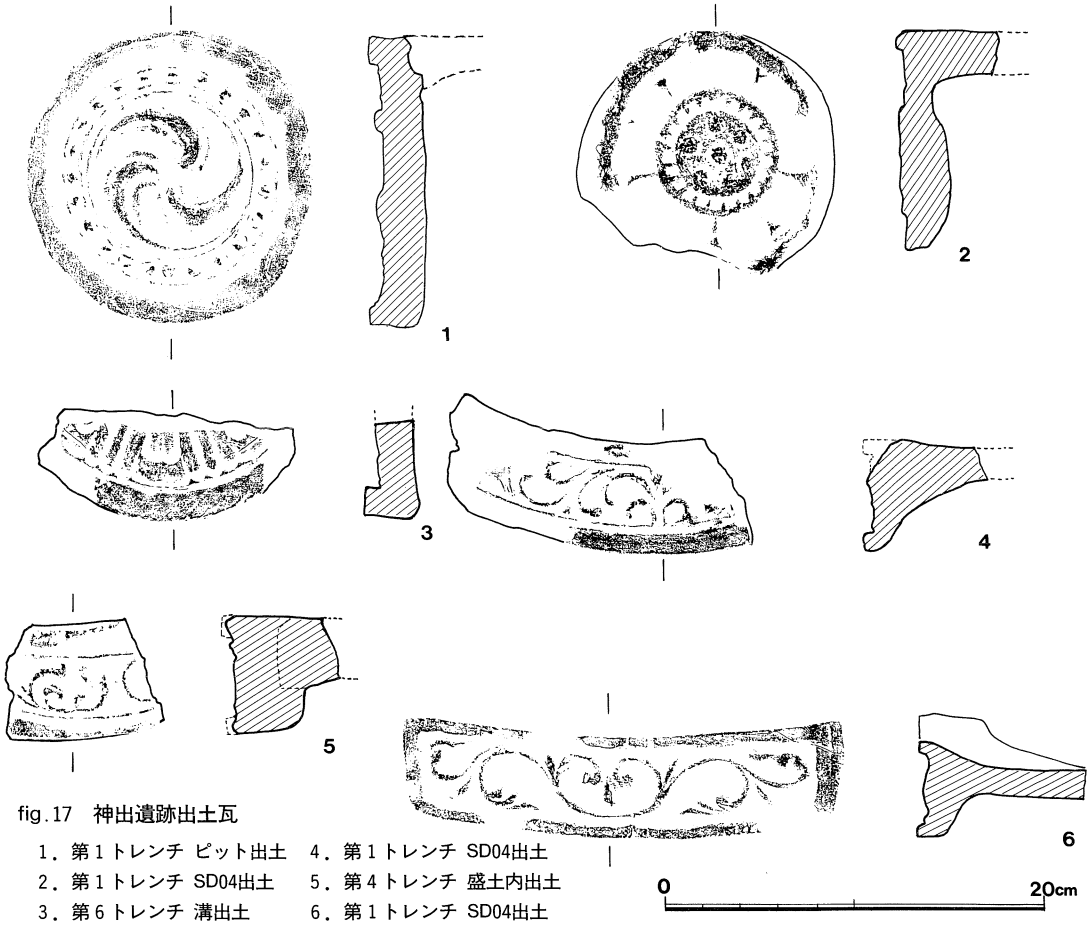


fig.17　神出遺跡出土瓦

1．第１トレンチ ピット出土　4．第１トレンチ SD04出土
2．第１トレンチ SD04出土　5．第４トレンチ 盛土内出土
3．第６トレンチ 溝出土　6．第１トレンチ SD04出土

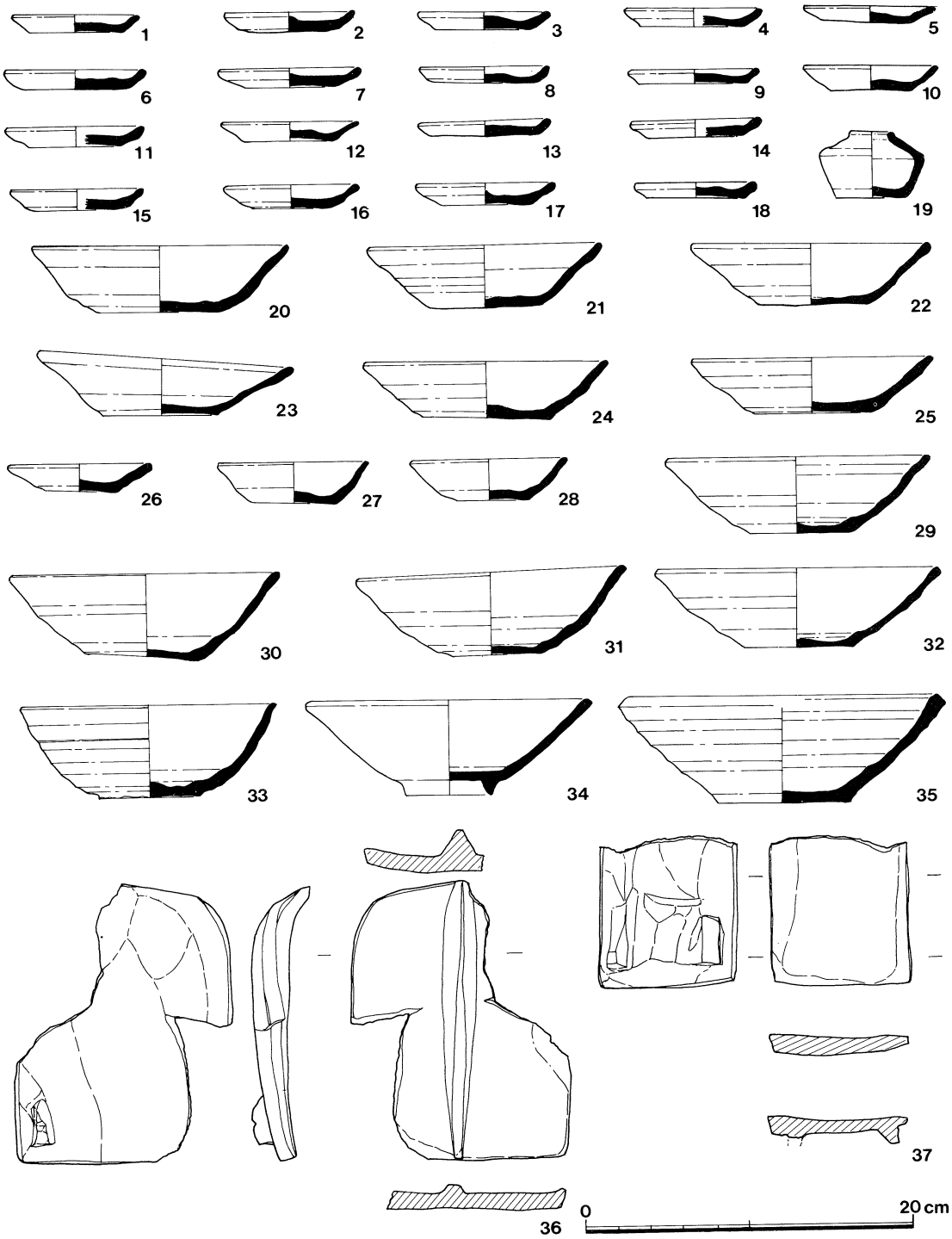


fig.18　神出遺跡出土土器・硯

1～24：第6トレンチ窯状遺構付近出土　25：第6トレンチ ピット出土　26～37：第1トレンチ ピット出土

1～26：土師器　27～37：須恵器

2．和田（わだ）遺跡

1．はじめに

神戸市西区から明石市にかけて流れる明石川流域には、いくつかの谷筋に沿って多くの遺跡がある。特に明石川本流周辺では両岸の多くの部分に遺跡が存在することがこれまでの調査で判明している。今回調査を行った押部谷町和田周辺でも多くの遺跡が確認されている。この度は、平成元年5月8日～5月16日に行った試掘調査に基づき、遺跡の存在する範囲内のパイプライン敷設部分約210m²について発掘調査を実施した。

高位段丘である印南野台地は明石川と接するところで急峻な傾斜地となり多くの小支谷が開析している。今回の調査地は明石川によって形成された沖積地と上記の傾斜地に挟まれた河岸段丘上に位置している。

fig.19　調査地位置図　S＝1：5000

2．調査の概要　今年度工事施工区域内に第１～３トレンチの合計３ヵ所の調査区を設置して調査を実施した。

第１トレンチ　全長93m、幅約1.2mの調査区である。調査範囲内からは溝状遺構、土坑、ピット等が確認された。南部分約３分の１については工事で掘削される深度以下に遺物包含層が存在するため、試掘坑による一部の調査を行い、その他の部分は現況保存に止めた。

基本層序　今回の調査地はすでに圃場整備が行われており、旧地形が大きく改変されている。工事以前の地形図を見ると、ほぼ南北にはしる細長い谷の東側斜面であったことが判る。土層を観察してみると、北側部分は削平を受け、耕土、盛土（淡褐色～暗灰色シルト混じり細砂）の直下に遺構面の土層（灰褐色細砂～極細砂）が検出される。南半分の層位は、盛土層下に旧耕作土（淡灰色細砂）、遺構検出面の黄灰色細砂混じりシルト（土器を含む）、地山面の淡灰色シルト混じり細砂である。

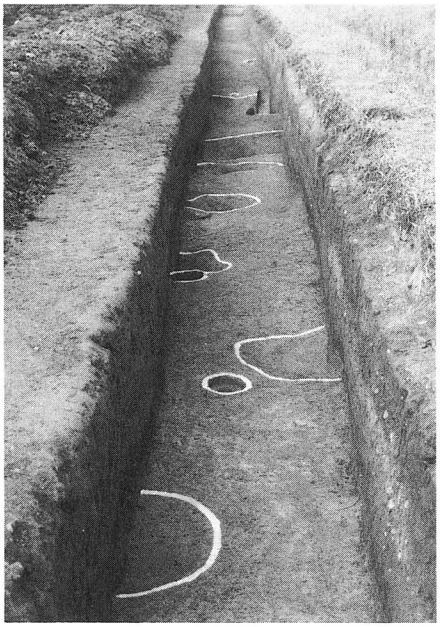


fig.20　第１トレンチ全景（南から）

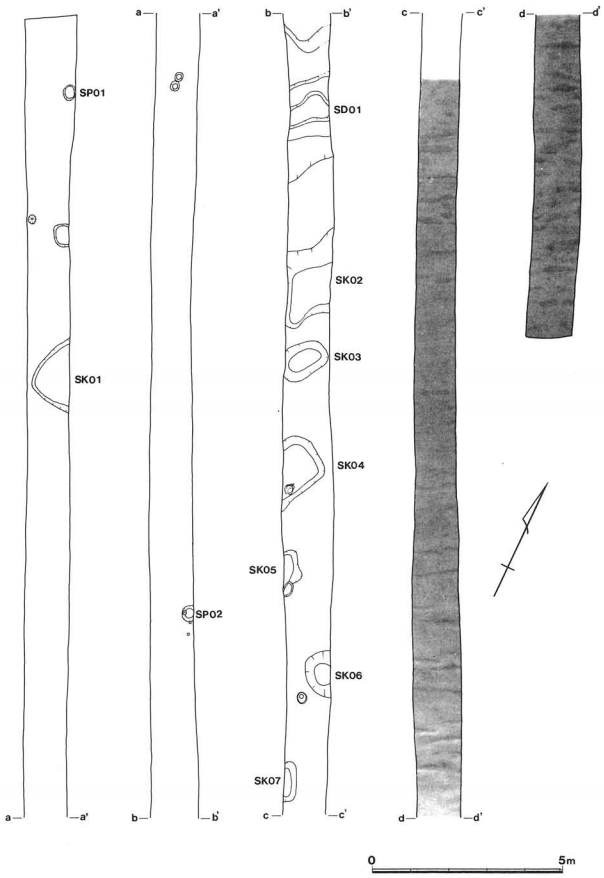


fig.21　第１トレンチ平面図　　網線部分：現状保存

遺　構
ＳＤ01

調査区のほぼ中央に位置する溝状遺構で、最大幅4.2m、深さ約0.5mを測る。底面と堆積土の下層から奈良時代の須恵器が大量に発見された。これらの須恵器はほぼ直線状に出土し、一括で投棄されたと考えられる。また埋土の中、上層では土器は全く出土しなかった。溝にはシルト系の土が堆積し、緩やかな埋没状況を示している。遺物は須恵器の坏、蓋が過半を占め、他は壺、横瓶と甕の破片が確認されたのみである。土師器は細片が極く少量出土した。須恵器は生焼けのもの、焼け歪んでいるものや、亀裂が入って使用に耐えないのものがその大半を占め、完全な形のものはほとんどなかった。

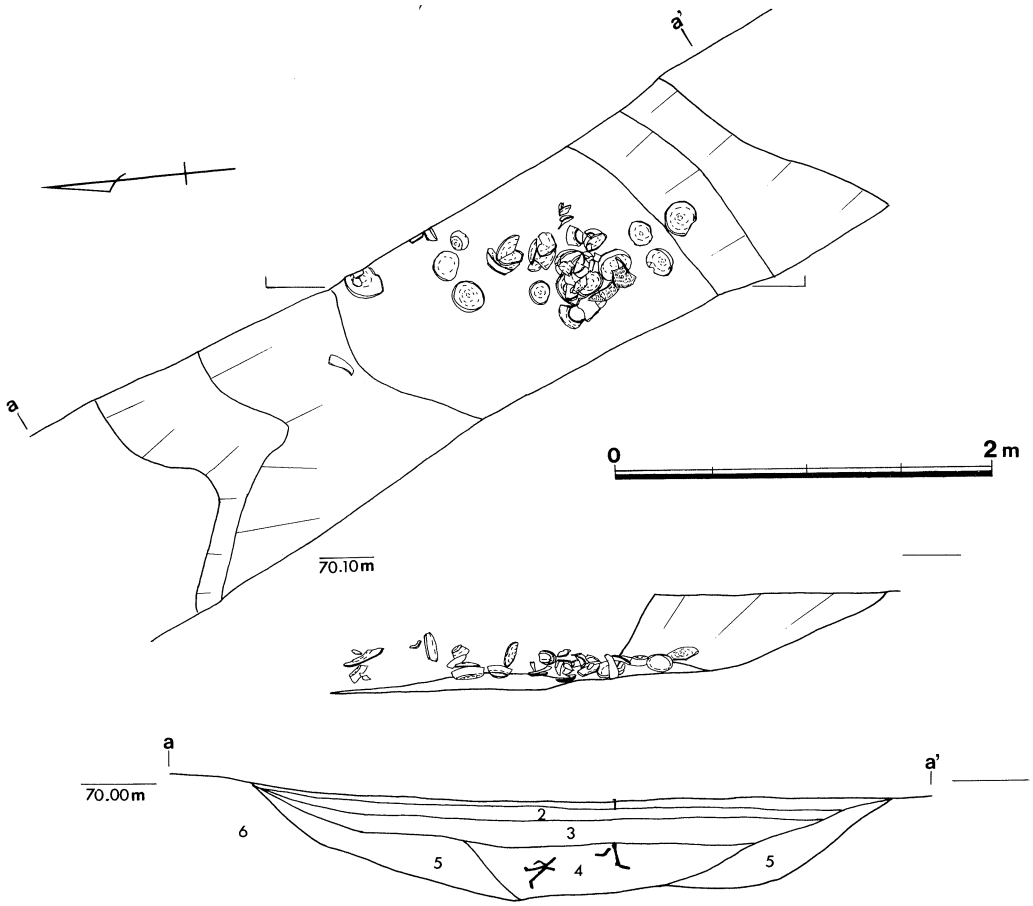


fig.22　第１トレンチ遺物出土状況図・断面図

1．茶褐色極細砂
2．黒灰色シルト(炭の細片を若干含む)
3．暗灰色シルト(３層，４層間に炭片を多く含む)
4．灰色シルト(やや黄味を帯びる)
5．淡黄橙色シルト(やや灰色味を帯び、柔らかい)
6．淡褐色細礫混じり細砂～極細砂(地山)

出土した須恵器の坏蓋は、丸みを帯びた天井部に偏平なつまみを持ち、平城京において分類しているＡ形態の端部である。坏身は口径17cm前後の高台付のもの、口径13cm前後の無高台のものの２種類に分かれる。また、壺は丸みを帯びた胴部に平らな底部を持ち、内外面はヨコナデを施し、外面には叩き目の痕跡が残る。坏、壺いずれも底部は回転ヘラ切りで未調整である。時期は奈良時代後半と考えられる。

fig.23
第１トレンチ
ＳＤ01遺物出土
状況

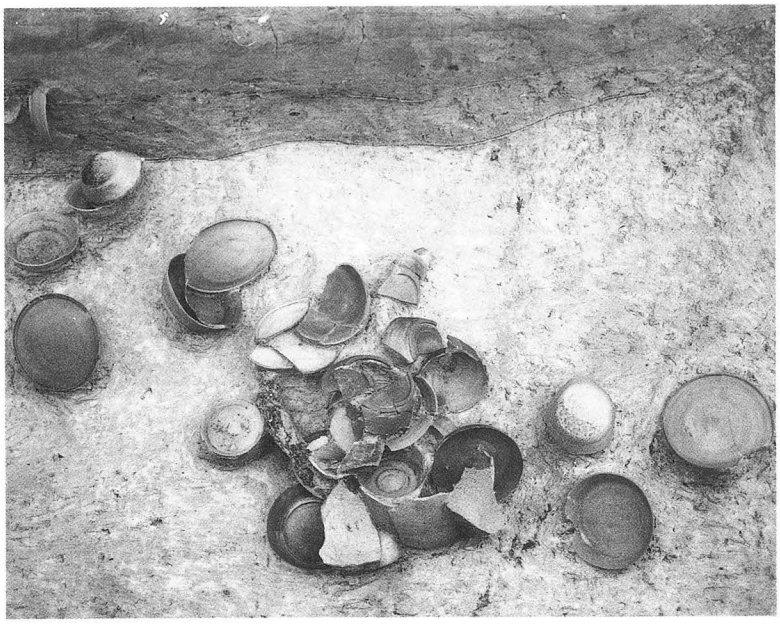


fig.24
同上細部（西から）

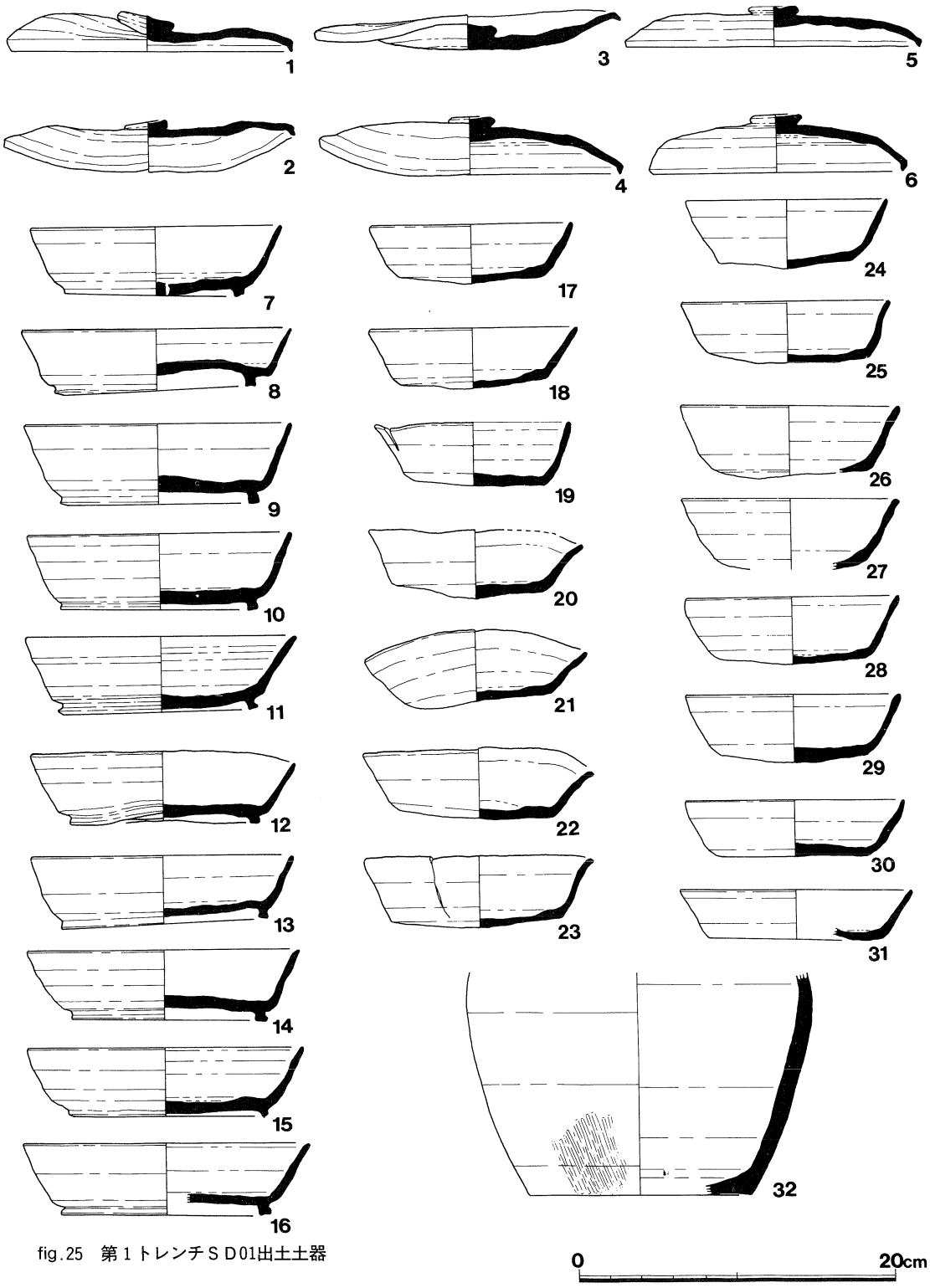


fig.25　第１トレンチＳＤ01出土土器

落ち込み　トレンチの北端部では、地山面が約0.2～0.3mほど落ち込み、灰色～青灰色シルトが堆積していた。堆積土中から、完形に近い奈良時代の須恵器坏が数個体、長頸壺が一個体出土した。なお、ＳＰ01はこの土層の上面を切り込んで掘削されていた。

ＳＫ01　調査区の北半に位置し最大幅２m、深さ約0.05mの浅い土坑である。物は出土しなかった。

ＳＫ02　当初、直径約0.7mの青灰色～暗灰色シルトのプランを確認したため、その埋土を除去すると、さらに大きな遺構であることが判明した。最終的には最大長２m、深さ約１mの不整形の土坑となった。

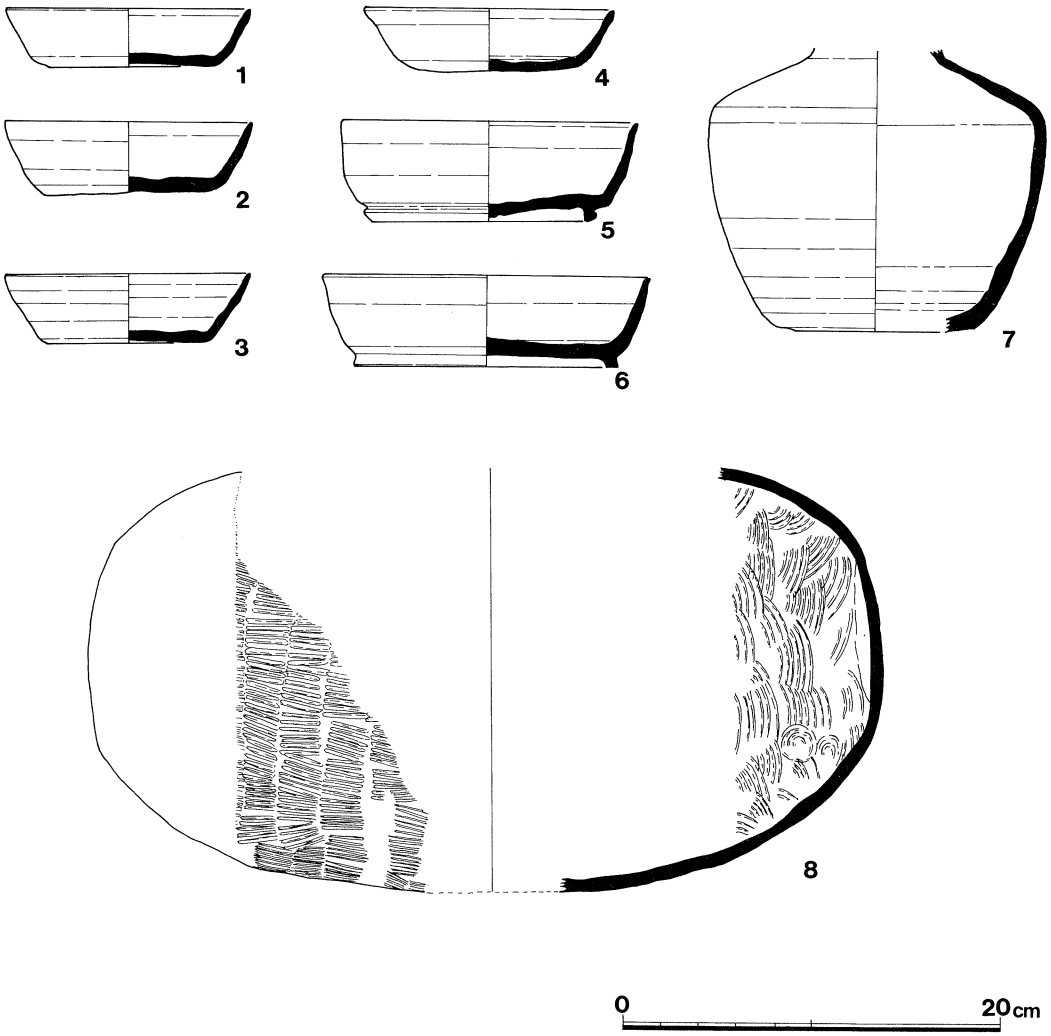


fig.26　第１トレンチ出土土器　　1,2：SP01出土　3：SP02出土　4～7：落ち込み出土　8：SK04出土

ＳＫ03　長径約1.3m、短径0.8m、深さ約0.45mの楕円形の土坑である。遺物は出土していない。

ＳＫ04　ＳＫ02同様に一辺約１m程度の隅丸方形の青灰色～暗灰色シルトのプランを確認し掘削したが、精査の結果、一辺約1.7m、深さ約0.7mの方形の土坑となった。土坑の底面からは須恵器横瓶の胴部～底部が出土している。ＳＫ02、04については、当初検出したものは、遺構の最終埋没土であり、最初の埋没土は周辺の遺構検出面の土層と近似した黄灰色シルトであった。

ＳＫ05　最大長1.2m、深さ約0.4mの土坑である。

ＳＫ06　最大長1.2m、深さ約0.1mの土坑である。

ＳＫ07　最大長１m、深さ約 0.1mの土坑である。上記の３つの遺構からは遺物は出土しなかった。

ＳＰ01　調査区の北端に位置し、長径約0.45m、短径3.5m、深さ約0.1mの楕円形のピットである。北端に奈良時代の須恵器坏が口縁部を水平にし２枚重ねに据えた状態で出土した。埋土および土器内の土を水洗したが、遺物は確認できなかった。地鎮遺構の可能性はあるが確証はない。

第２トレンチ　全長49m、幅約1.3mの調査区で、中央で上下２段になっている。トレンチの下段は、圃場整備による工事で大きく削平を受けており、遺物包含層、遺構ともに確認できなかった。上段では土坑、ピット、自然流路等を確認した。

fig.27　第１トレンチＳＰ01土器出土状況

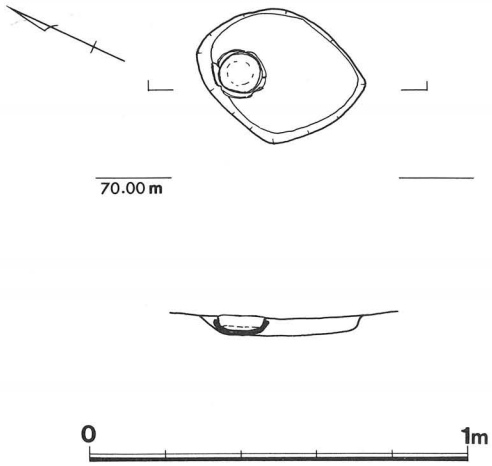


fig.28　第１トレンチＳＰ01土器出土状況図

基本層序　　トレンチの南半部分は削平を受けて、耕作土下に淡褐色～褐色混礫細砂（盛土層）、褐色～黒褐色混礫細砂（地山）が検出される。北半分では、灰褐色混礫細砂、茶灰褐色極細砂～混礫細砂（遺構検出面）となる。

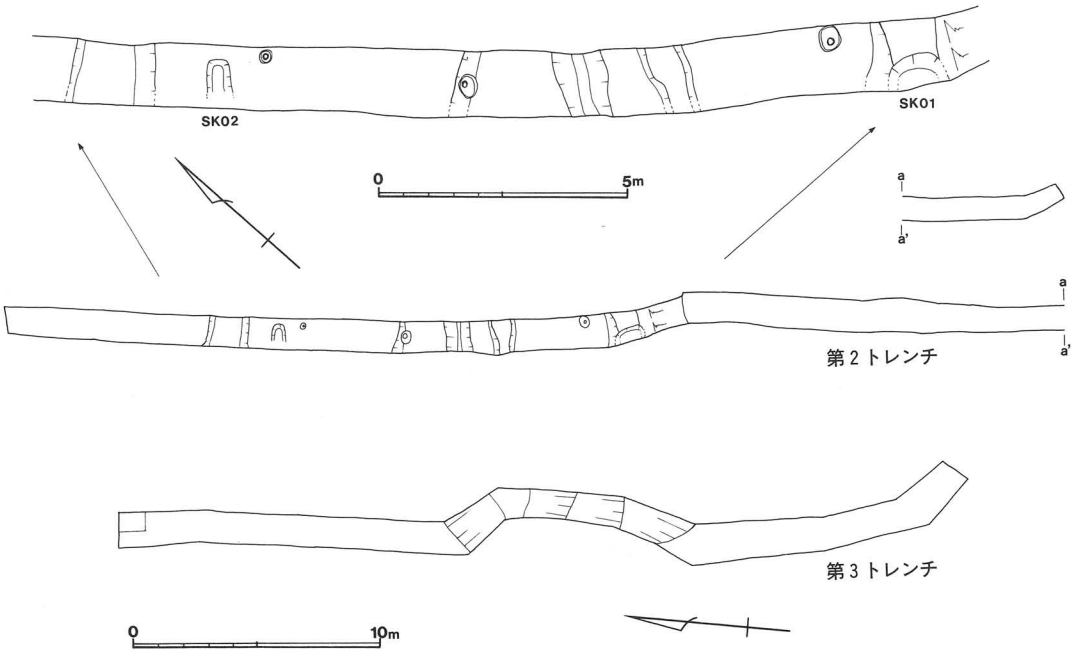


fig.29　第2・第3トレンチ平面図

fig.30
第2トレンチ全景
（北西から）

遺　構

ＳＫ01　トレンチのほぼ中央に位置し、直径約1.2m、深さ約0.2mの円形の土坑である。約半分は調査区外に出ている。埋土からは、奈良時代の須恵器、土師器が出土した。

ＳＫ02　残存長0.6m、幅約0.5m、深さ約0.14mの隅丸方形の土坑で、遺物は出土しなかった。

自然流路　トレンチ北半は、土石流により遺構面が削られ、褐色系の混礫砂が堆積していた。この流路中からは土器の細片が出土した。なおピット２基が堆積土を除去した段階で確認された。

第３トレンチ　全長約35m、幅約1.2mの調査区で小支谷の西斜面に位置する。

基本層序　トレンチの南半部分は耕作土、床土直下に黄灰茶色シルト層（地山）が検出される。中央部で深く下がり、褐色～灰茶色系の礫を含んだ細砂層が厚く堆積し、底には暗灰色～黒灰色シルトが堆積している。耕作土から底面までの深さは約1.7mである。また、北に行くにつれて徐々に上がっていき、北端部では、地山である緑灰色～茶褐色混礫粗砂が床土直下で確認される。

自然流路　トレンチ中央部で確認された深い落ち込みは、段丘斜面から谷に流れ込む流路の痕跡と考えられる。堆積土の状況からみて、当初は緩やかな流れであったものが、数度の洪水で砂が堆積し埋没していったようである。流路内からは、平安時代～鎌倉時代の土器、瓦、焼けたスサ入りの粘土塊が出土した。

fig.31
第３トレンチ全景
（北から）

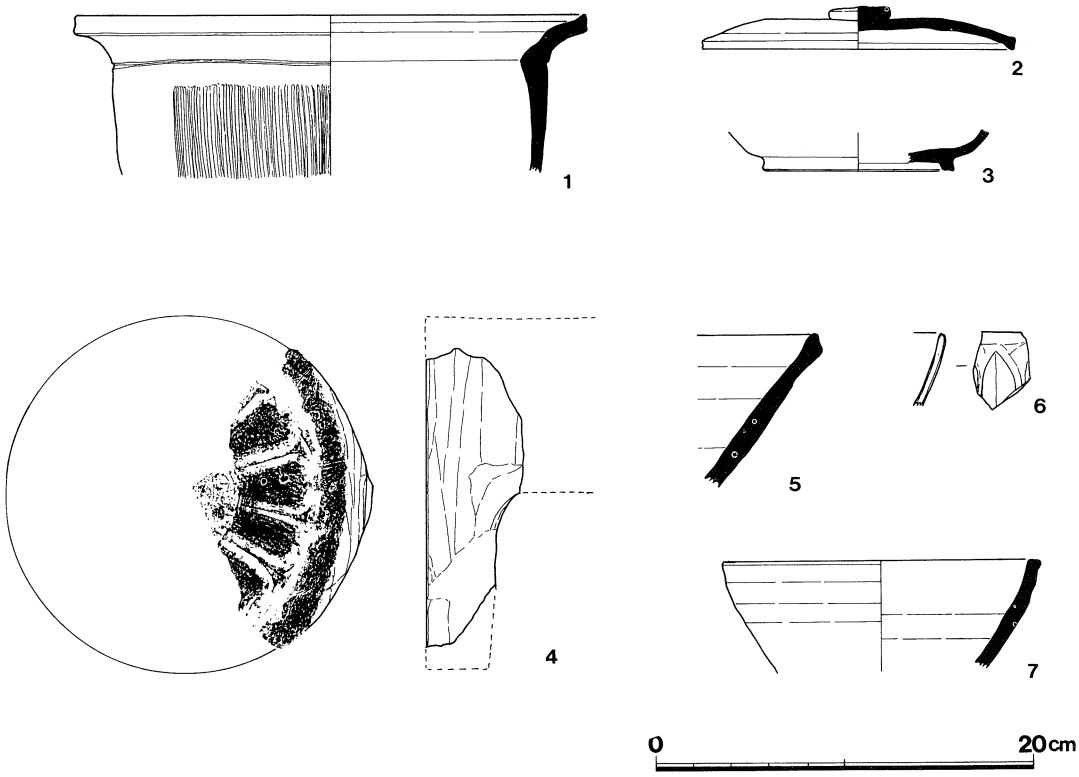


fig.32　第２・第３トレンチ出土遺物　　1～3：第２トレンチ　　4～7：第３トレンチ

3．まとめ　今回の調査では、各調査区で遺構、遺物が発見されている。第１トレンチのＳＤ01から出土した大量の須恵器は前述の通り、生焼けのもの、焼け歪んでいるものや、亀裂が入って使用に耐えないのものがその大半を占めている。これらは窯出しした製品の中から不良品を選別し、一括して投棄したものであろう。また、第１，第３トレンチで確認された瓦、焼けたスサ入りの粘土塊は近辺に窯が存在していたことの証左である。

周辺では、藤原橋付近（押部谷町和田）に古墳時代の須恵器窯の存在が知られている他、平安時代末期～鎌倉時代にかけての窯跡は、高位段丘上の神出町一帯と丘陵から沖積地に変わる斜面に西神ニュータウン内遺跡No.90地点遺跡の古窯址（押部谷町養田）、繁田古窯址（平野町繁田）の存在が確認されている。しかし奈良時代の須恵器窯は付近では発見されておらず、今回の調査結果は、当該時期の窯址の位置を示唆する貴重な資料といえよう。

3．栄（さかえ）遺跡

1．はじめに

神戸市西区から明石市にかけて流れる明石川流域には、いくつかの谷筋に沿って多くの遺跡がある。特に明石川中・下流周辺の平野部は、大規模開発事業に伴う発掘調査で遺跡が存在することが判明してきた。しかし、明石川上流部の押部谷町栄・木幡地区付近については遺跡の存在が不明確な場所であった。今回の調査は、当地区の土地改良事業に伴うものであり、今年度以降工事が予定されている約67haの試掘調査を実施し、遺跡が確認された地区で切土、排水路、パイプラインの掘削工事等によって遺構の保存が計られない部分の発掘調査を実施した。

明石川上流部は、河岸段丘の形成が著しく、特に押部谷周辺は明石川に沿って複数の段丘面が認められる。このため右岸では、北から南へ著しく傾斜し、東西については東から西にかけて緩やかに下がっている。

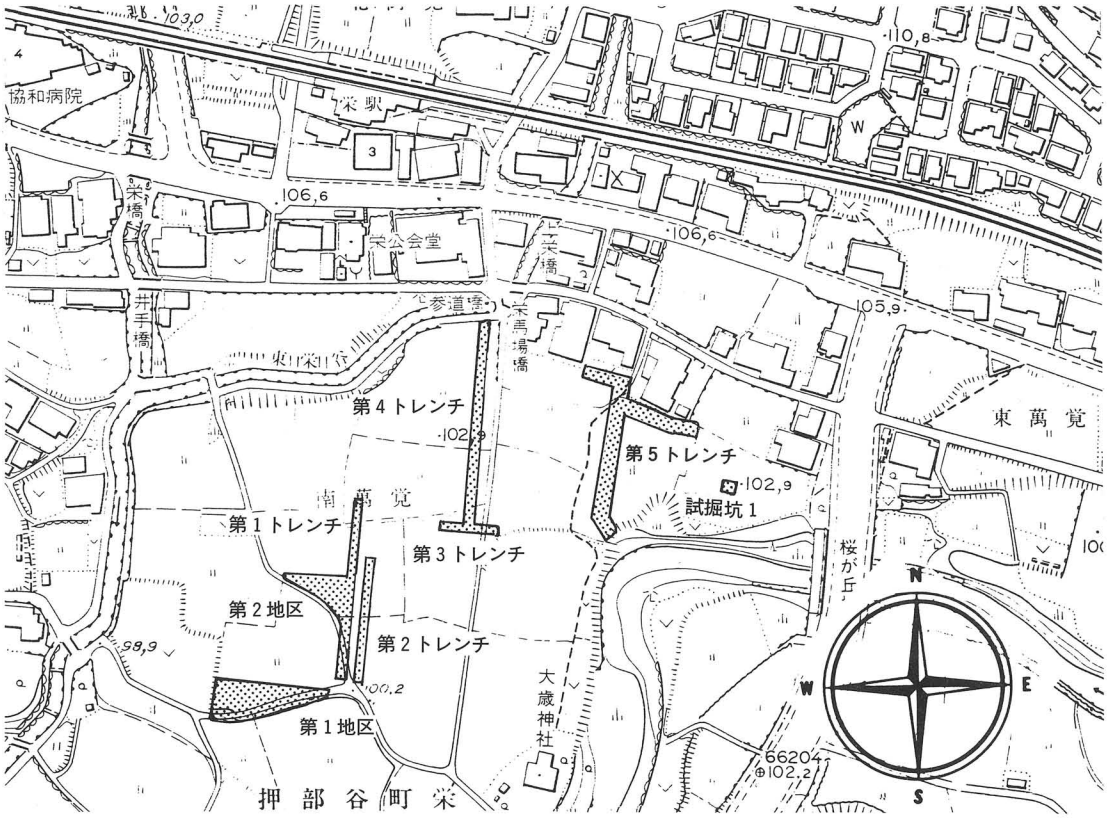


fig.33　調査地位置図　S＝1：3000

2．調査の概要

試掘調査　試掘調査の結果、遺跡が高位の段丘上に広がっていることが判明した。低位の段丘および河川氾濫原では、遺物、遺構等は確認されなかった。段丘上で出土した遺物は、古墳時代～鎌倉・室町時代のものである。

特に試掘坑１では土坑が検出され、埋土内から古墳時代後期の須恵器坏や土師器甕、製塩土器が出土した。

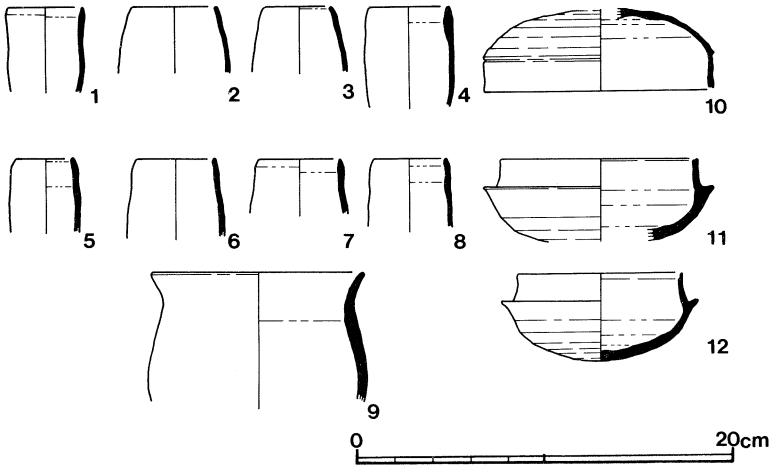


fig.34
試掘坑１出土土器
1～8：製塩土器
9：土師器
10～12：須恵器

発掘調査　試掘調査の結果に基づき、切土、排水路、パイプライン部分の調査を実施した。調査区は２ヵ所の調査地区と５条の調査区に分かれている。

第１地区　調査範囲の南端に位置する約300m²の調査区である。調査の結果、３時期の遺構面が確認された。

基本層序　耕土、床土下に暗茶褐色細砂～粗砂層、黄褐色細砂～中砂層、淡灰褐色シルト質極細砂層（中世の遺物包含層）が堆積する。また西半部分では、暗灰褐色細砂～極細砂層（第１遺構面、土器を包含する）、茶灰褐色細砂層（第２遺構面、土器を包含する）、淡茶褐色極細砂層（古墳時代の自然流路堆積土）、暗褐色砂礫層（地山）となる。

第１遺構面　土坑２基、溝１条、性格不明遺構２基が確認された。

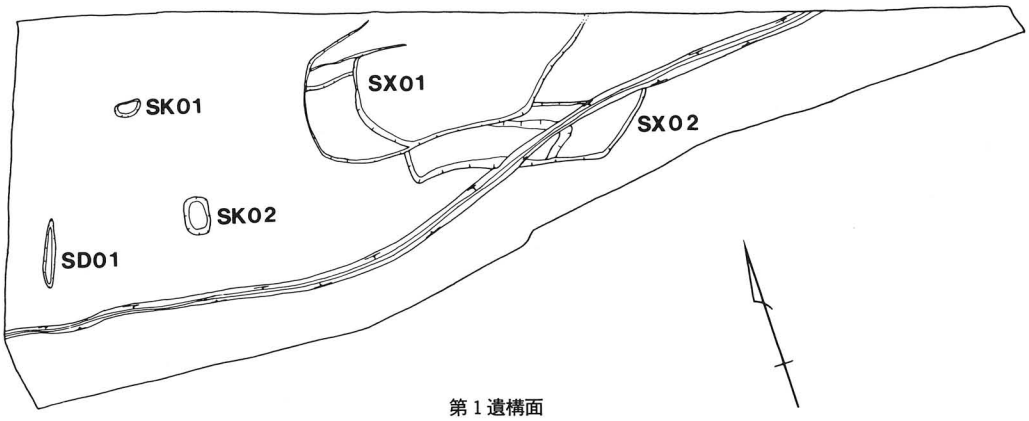
ＳＫ01　最大長約１m、幅約0.6m、深さ約0.15mの不整形の土坑である。埋土内からは土師器、青磁碗片が出土した。

ＳＫ02　長辺約５m、短辺約1.1m、深さ約0.2mの隅円方形の土坑である。埋土から土師器皿、青磁碗片が出土した。ＳＫ01、02ともに時期は鎌倉時代末期～室町時代初頭である。

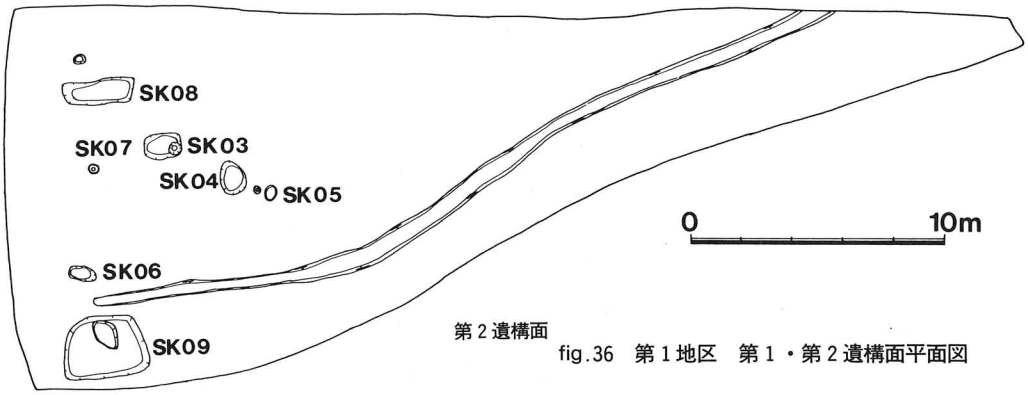
ＳＤ01　最大長約2.8m、幅約0.4m、深さ約0.07mの浅い溝状遺構である。堆積土からは遺物は出土しなかった。

ＳＸ01　最大長約12m、幅約５m、深さ約0.15mの不整形の落ち込みである。

fig.35
第１地区　第１遺構面
（北東から）



第１遺構面



第２遺構面

fig.36　第１地区　第１・第２遺構面平面図

ＳＸ02　最大長約10m、幅約2.5m、深さ約0.2mの不整形の落ち込みである。ＳＸ01に北側を削られている。いずれの遺構からも土器の細片が出土したのみで掘削された目的は不明である。

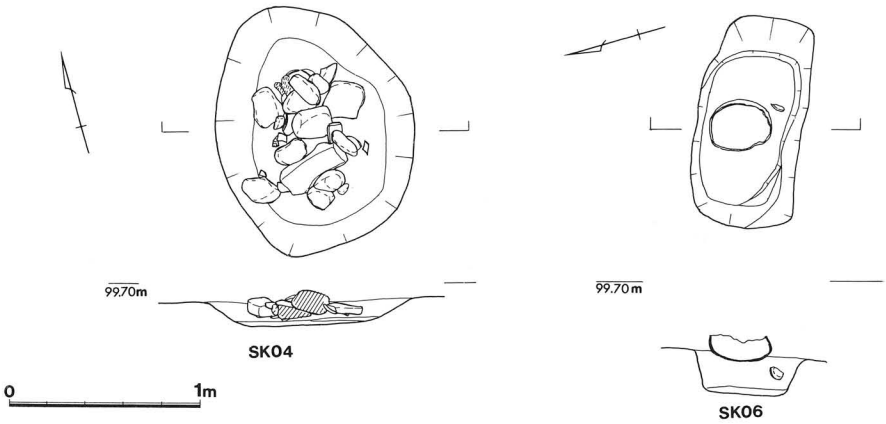
第２遺構面　土坑７基、溝２条が確認された。

ＳＫ03　直径約0.5m、深さ約0.2mの円形の遺構である。

ＳＫ04　最大長約1.3m、深さ約0.15mの不整形の土坑で、人頭大～拳大の河原石と土器が一緒に投棄されていた。土器の時期は鎌倉時代中頃～後半に属する。

ＳＫ05　長径約0.6m、短径約0.4m、深さ約0.1mの楕円形の遺構である。

ＳＫ06　長辺約1.4m、短辺約0.7m、深さ約0.25mの隅円方形の土坑である。埋土上層に土師器鍋が頸部から上を欠失した状態で出土した。また須恵器小皿が埋土内から出土した。時期は鎌倉時代である。なお、鍋の中の土を水洗したが遺物は確認できなかった。



第１地区　第２遺構面ＳＫ04・06土器・河原石出土状況図

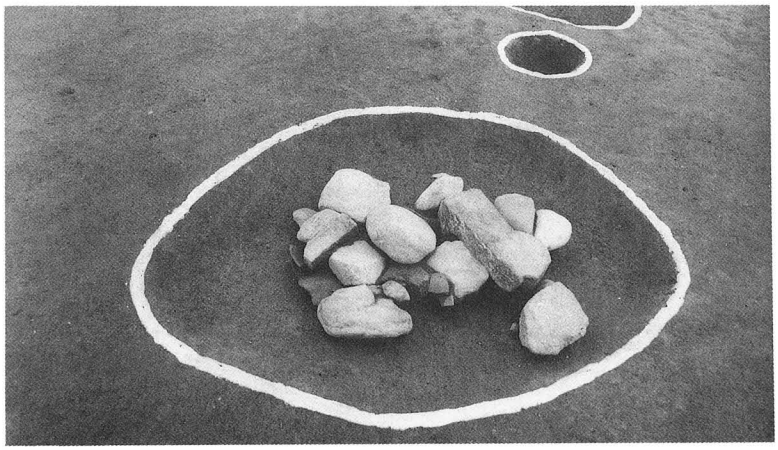


fig.38
第１地区
第２遺構面　ＳＫ04
土器・河原石出土状況

ＳＫ07　長径約３ｍ、短径約２ｍ、深さ約0.9mの隅円方形の土坑である。ＳＫ03に埋土の上部を削られる。上層には鎌倉時代中頃～後半の須恵器、土師器、青磁等が人頭大～拳大の河原石とともに投棄されていた。それらを除去すると、底面から壁面の一部にかけて偏平な河原石を貼りつけるように、隙間なく置いているのが確認された。これらの河原石は表面が赤く焼けていた。

ＳＫ08　最大長約３ｍ、幅約0.3m、深さ約１ｍの不整形の土坑である。

ＳＫ09　最大長約3.4m、幅約2.2m、深さ約0.3mの長方形に近い形の土坑である。いずれも少量の土器が出土した。

ＳＤ02
ＳＤ03　ＳＤ02は最大長約1.6m、幅約0.3m、深さ約0.05m、ＳＤ03は最大長約0.6m、幅約0.2m、深さ約0.1mの浅い溝状遺構である。

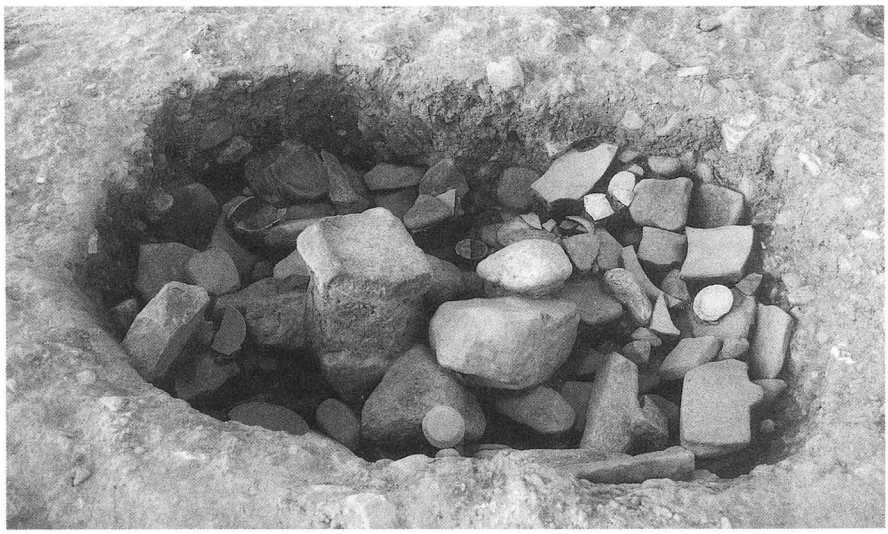


fig.39
第１地区
第２遺構面
ＳＫ07土器・
河原石出土状況
（南から）

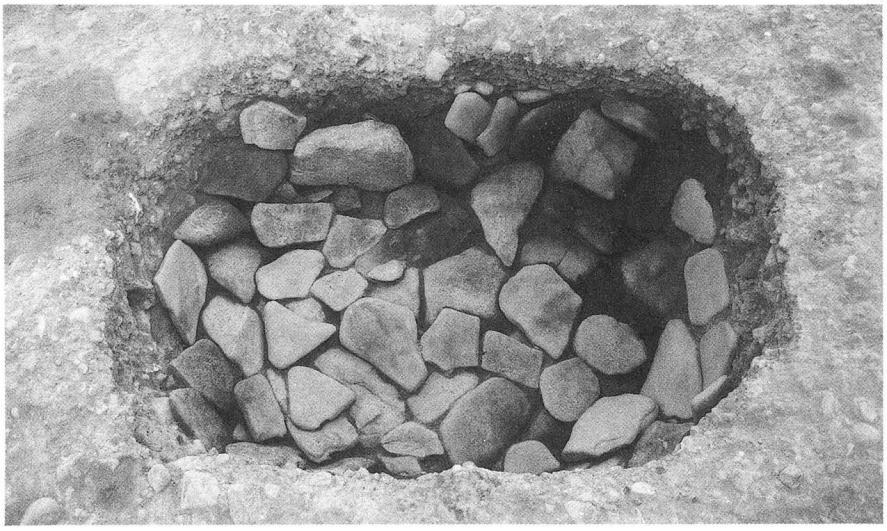
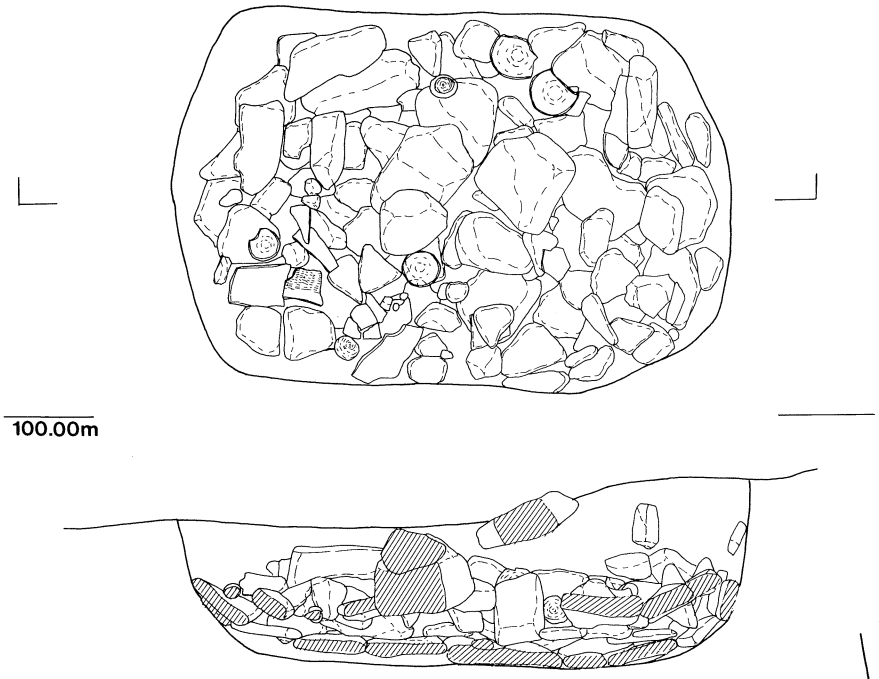
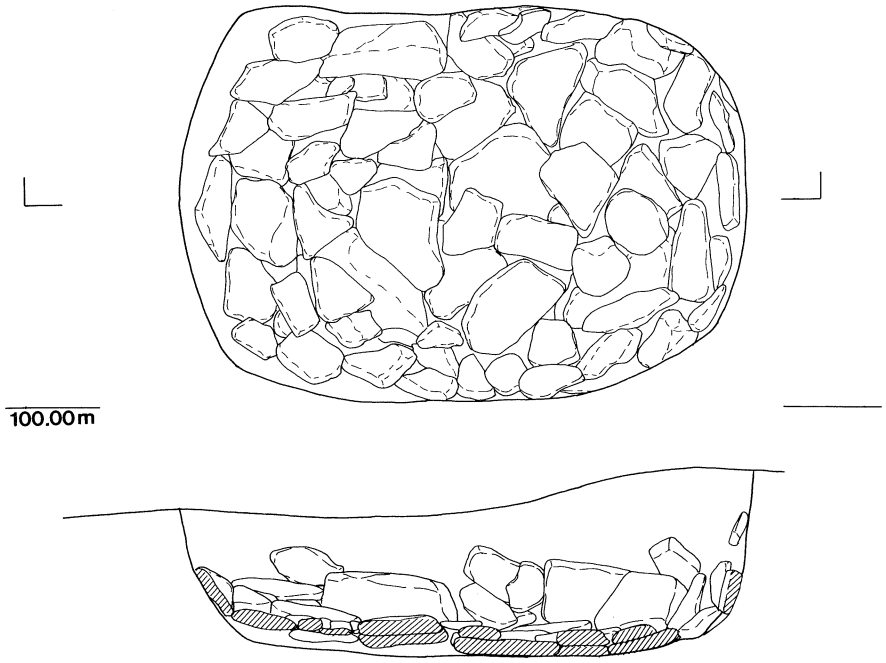


fig.40
第１地区
第２遺構面
ＳＫ07底面の
河原石検出状況
（北から）



SK07土器・河原石出土状況図



SK07底面の河原石出土状況図

0 5m

fig.41　第１地区ＳＫ07遺物・河原石出土状況図

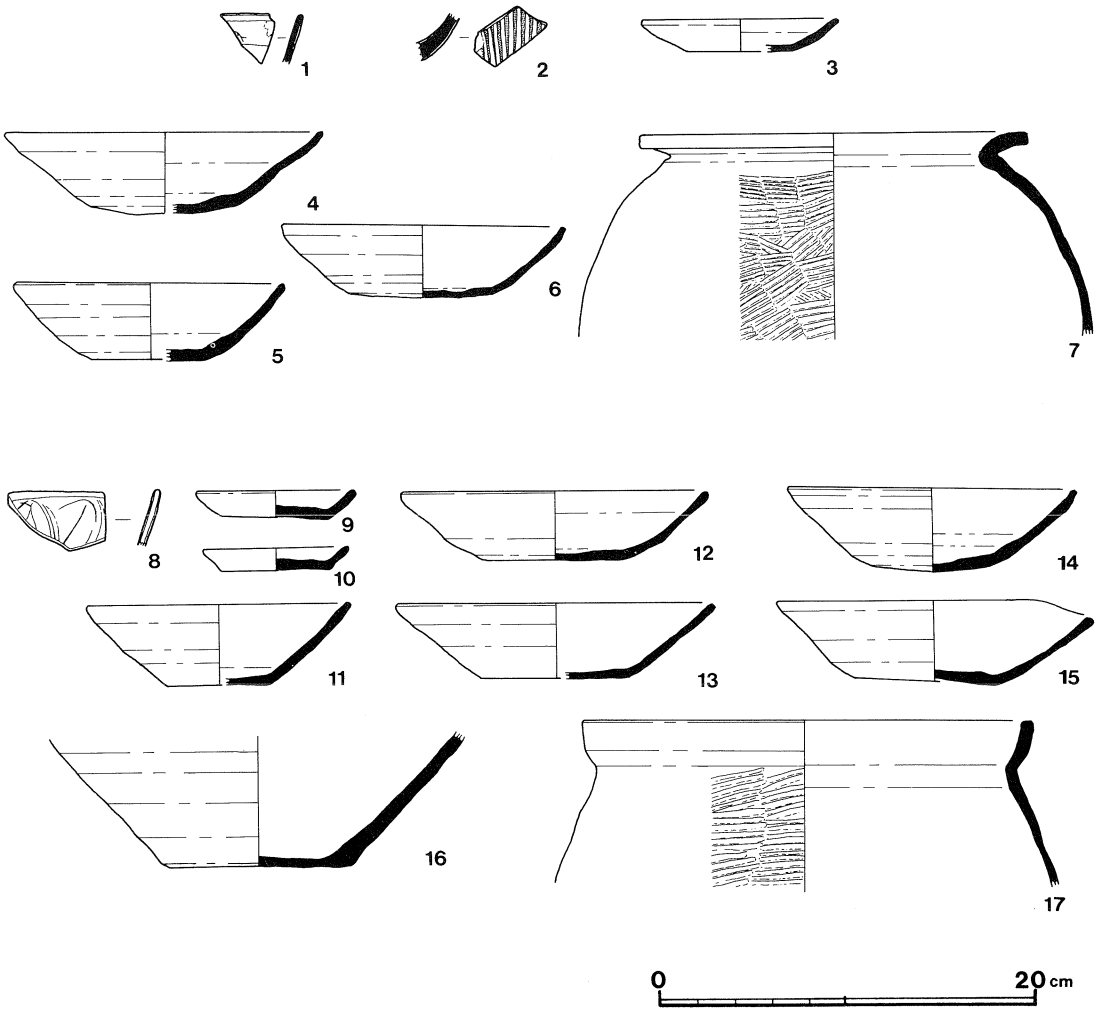
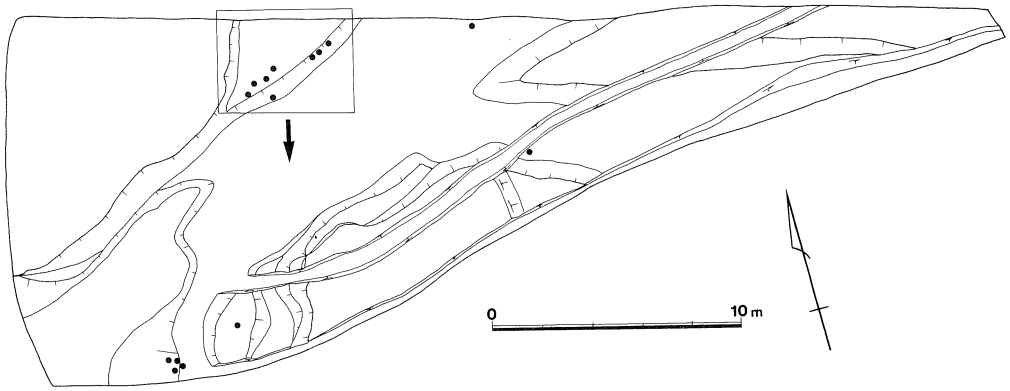


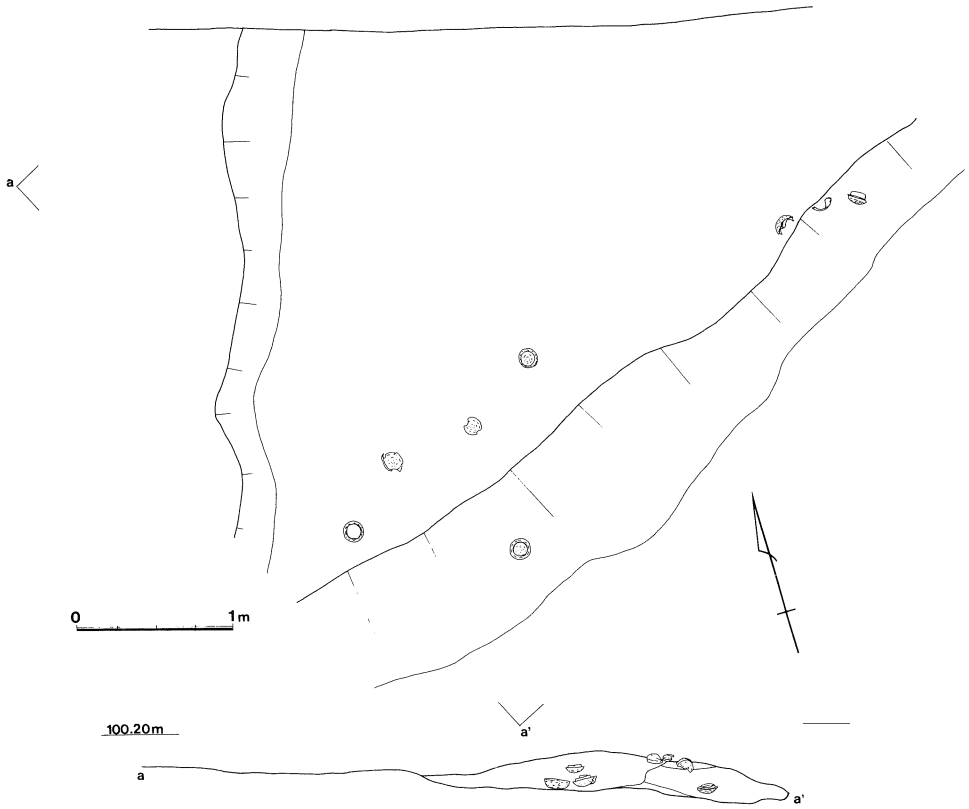
fig.42　第１地区　土坑出土土器　　１：ＳＫ01　２・３：ＳＫ02　４～７：ＳＫ04　８～17：ＳＫ07

古墳時代の自然流路

北端部の側溝を掘削中に古墳時代の土師器が出土した。このため、第２遺構面の調査完了後断ち割り調査を行った結果、検出最大幅約13m、深さ約0.2～0.6mの自然流路が確認された。流路は北東と東から流れてきた２条の流れが、調査区内で合流し南西方向に流れている。堆積土は、灰色～褐色の極細砂層であり極く緩やかな堆積状況を現している。堆積土内からは、完形品あるいはそれに近い状態の古墳時代後期の須恵器、土師器が数ヵ所、いずれも両岸に近いところで確認された。特に北岸では須恵器坏が７～８個体比較的集中して出土した。土器内および土器が集中した部分の土砂を篩によって選別したが、遺物は確認できなかった。



自然流路平面図



土器出土状況図

fig.43　第１地区　古墳時代の自然流路平面図・土器出土状況図　　ドットは土器出土位置

第２地区　　第１地区の北にあり、第１トレンチに接した約80m²の調査区である。

基本層序　　層序は、耕作土、床土下に暗茶褐色細砂～中砂層、灰褐色細砂～中砂層、淡灰褐色細砂層(土器を少量包含する。)、暗褐色細砂層となる。床土以下の層は、洪水等による堆積層と考えられる。遺構は確認されなかった。

fig.44
第１地区
自然流路内
土器出土状況

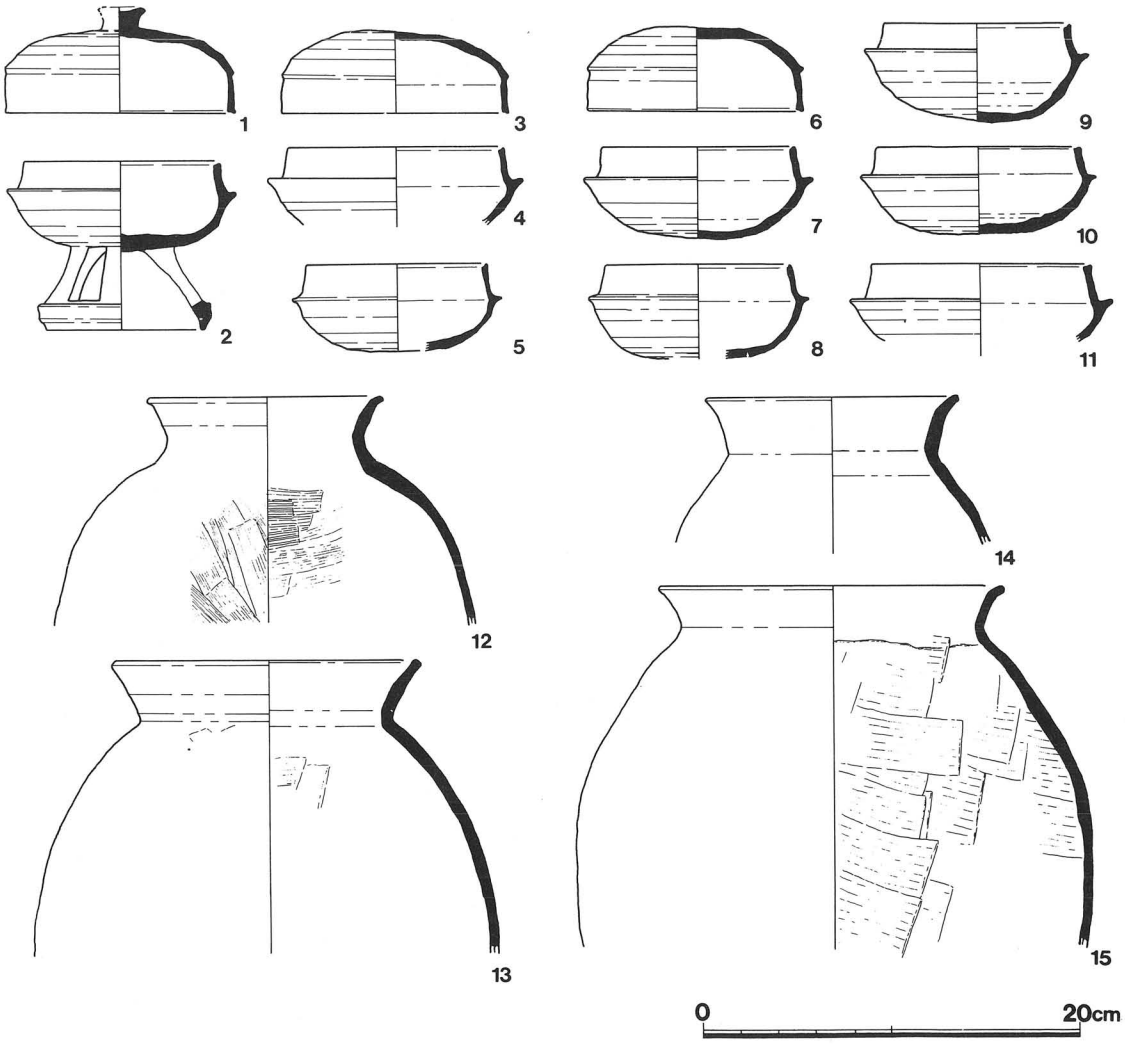


fig.45　第１地区自然流路内出土土器

第１トレンチ
第２トレンチ

第１トレンチは、全長約80m、幅約３m、第２トレンチは、全長約50m、幅約１mの調査区で、５mの間隔をあけ平行に並んでいる。

基本層序

耕作土、床土下に灰色～褐色砂礫・細砂層が互層になって堆積しており各層には遺物が少量ずつ含まれている。数カ所で自然堆積による落ち込みを確認したほかは遺構は確認されなかった。

第３，４トレンチ

第３トレンチは全長15m、幅約１m、第４トレンチは第３トレンチに直交し、全長約80m、幅約１mの調査区である。

基本層序

第３トレンチについては耕作土、床土下に、茶褐色極細砂層、灰褐色極細砂層（鎌倉時代の遺物を若干含む）、淡褐色極細砂層、淡褐色砂礫層となる。また第４トレンチについては、北半部には栄谷川の氾濫による砂礫層が堆積し、遺構が数基確認された南半部では、耕作土、床土下に、茶褐色細砂層、褐色混礫細砂層（鎌倉時代の遺物を若干含む）、淡褐色混礫細砂層（遺構面）の層序となる。

遺　構

第３トレンチでは遺構は確認されなかったが、第４トレンチでは、溝状遺構１条、土坑２基、浅い落ち込み１基、ピット１基が確認された。

ＳＤ01

最大幅1.4m、深さ約0.15mの溝状遺構で、堆積土内には、須恵器、土師器、拳大の河原石、焼土が混在して出土した。時期は鎌倉時代中頃～後半である。

ＳＫ01

最大幅1.3m、深さ約0.2m、断面擂鉢状の不整形な土坑で、埋土内に須恵器、土師器、青磁、拳大～親指大の河原石が混在して出土した。時期は鎌倉時代中頃～後半である

ＳＫ02

最大幅0.7m、深さ約0.1mの楕円形の土坑で、埋土内から須恵器、土師器の小破片、拳大の河原石が出土した。

ＳＸ01

ＳＫ02の南側に位置する深さ約0.1mの浅い落ち込みで、埋土から須恵器、土師器の小破片が出土した。

fig.46
第４トレンチ SD01
土器・河原石・
焼土出土状況（西から）

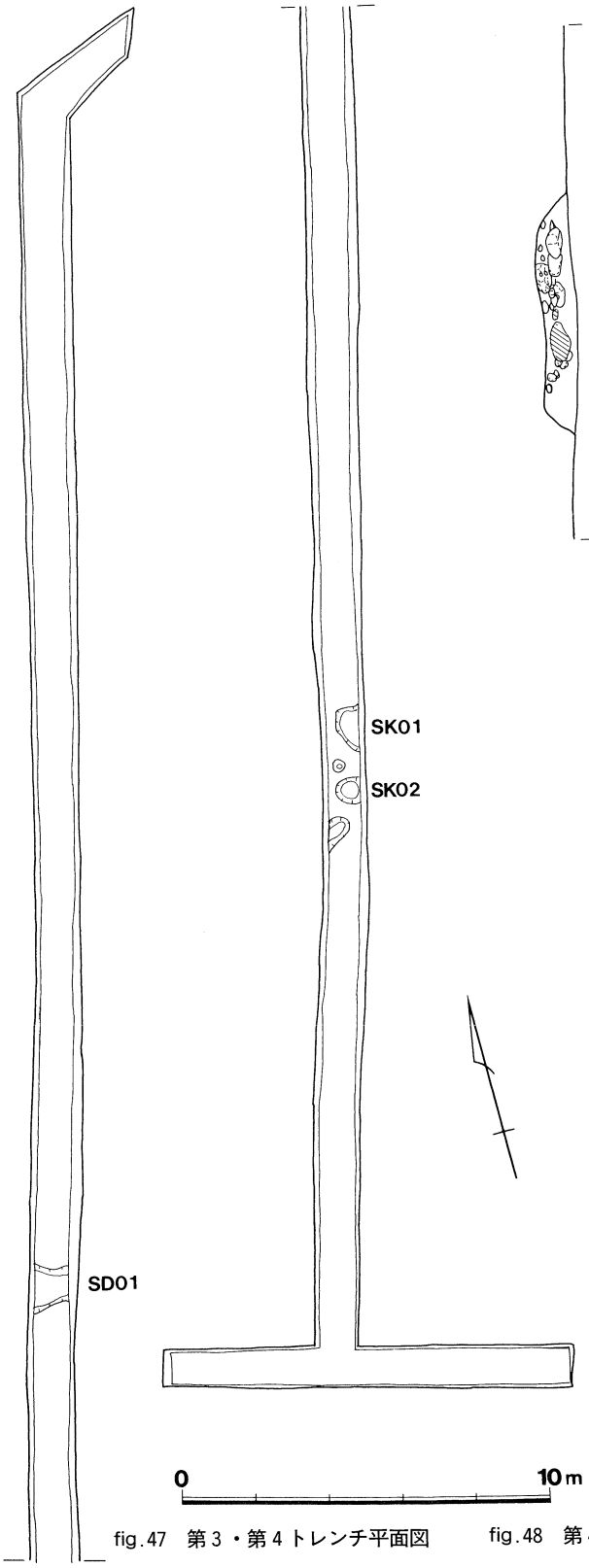


fig.47　第３・第４トレンチ平面図

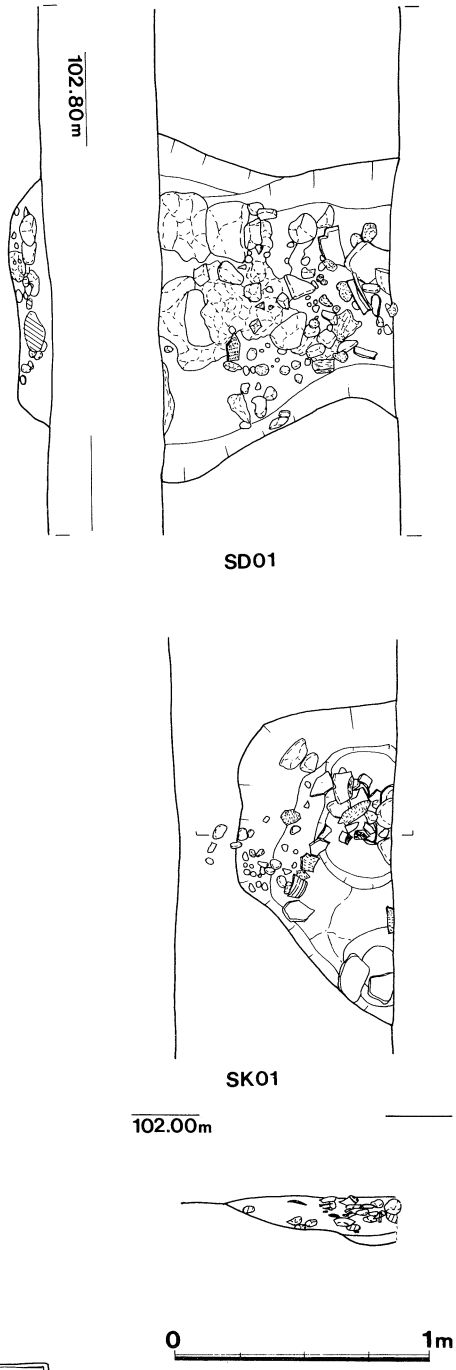


fig.48　第４トレンチＳＤ01・ＳＫ01遺物出土状況図

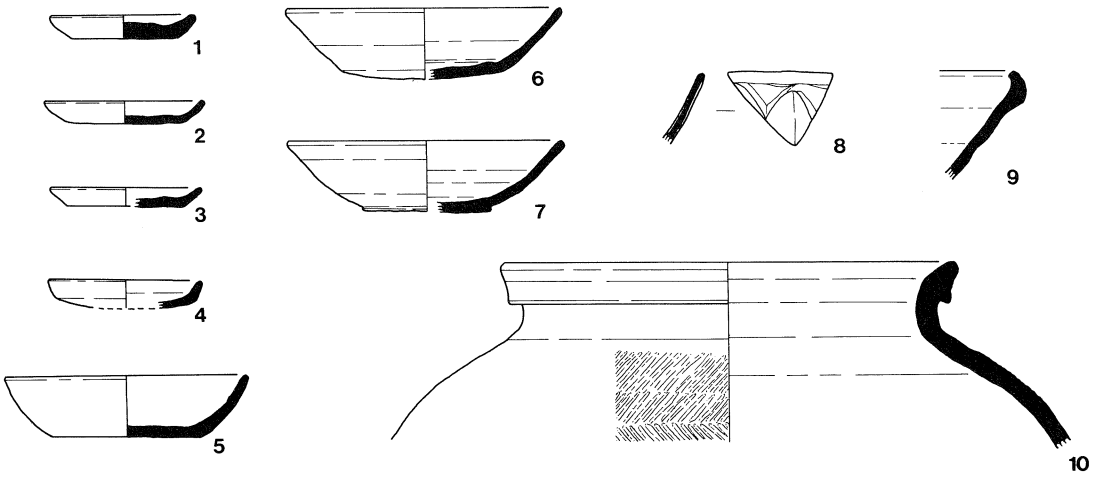
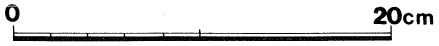


fig.49　第４トレンチ出土遺物　１～９：ＳＫ01　10：ＳＤ01



第５トレンチ　調査地区の東端に位置する約400m²の調査区で、Ａ～Ｃ区に分かれる全長約23m、幅約４mの調査区である。

Ａ　区

基本層序　耕作土、床土下に暗褐色細砂～極細砂層、暗褐色砂礫層（遺構検出面）暗茶褐色粗砂層（地山）が堆積している。

遺　構

ＳＫ01　調査区東端で、土坑ＳＫ01が確認された。これは最大幅1.8m、深さ約0.15mの方形に近い遺構で、埋土内からは河原石、土師器の甕形土器等が出土した。時期は古墳時代前期初頭である。

Ｂ　区　全長約33m、幅約３mの調査区である。東半部に遺構が集中して確認された。

基本層序　西半部は耕作土、床土下に、暗褐色～灰褐色砂礫、黄茶褐色細砂～極細砂層、西半部では耕作土、床土下に、黄茶褐色細砂～極細砂層（遺構検出面）、黄茶褐色細砂～極細砂層（地山）が堆積する。

遺　構　東半部で、土坑４基、溝１条、ピット多数が検出された。

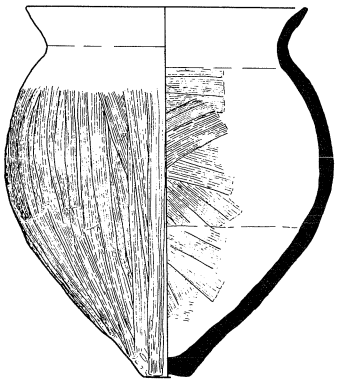


fig.50　第５トレンチＳＫ01　出土土器

ＳＫ02　長辺約4.5m、短辺約1.7m、深さが約0.4mの隅円方形の土坑で、須恵器、土師器、陶器、青磁、滑石製石鍋片、用途不明土製品等ともに人頭大～拳大の河原石が大量に出土した。

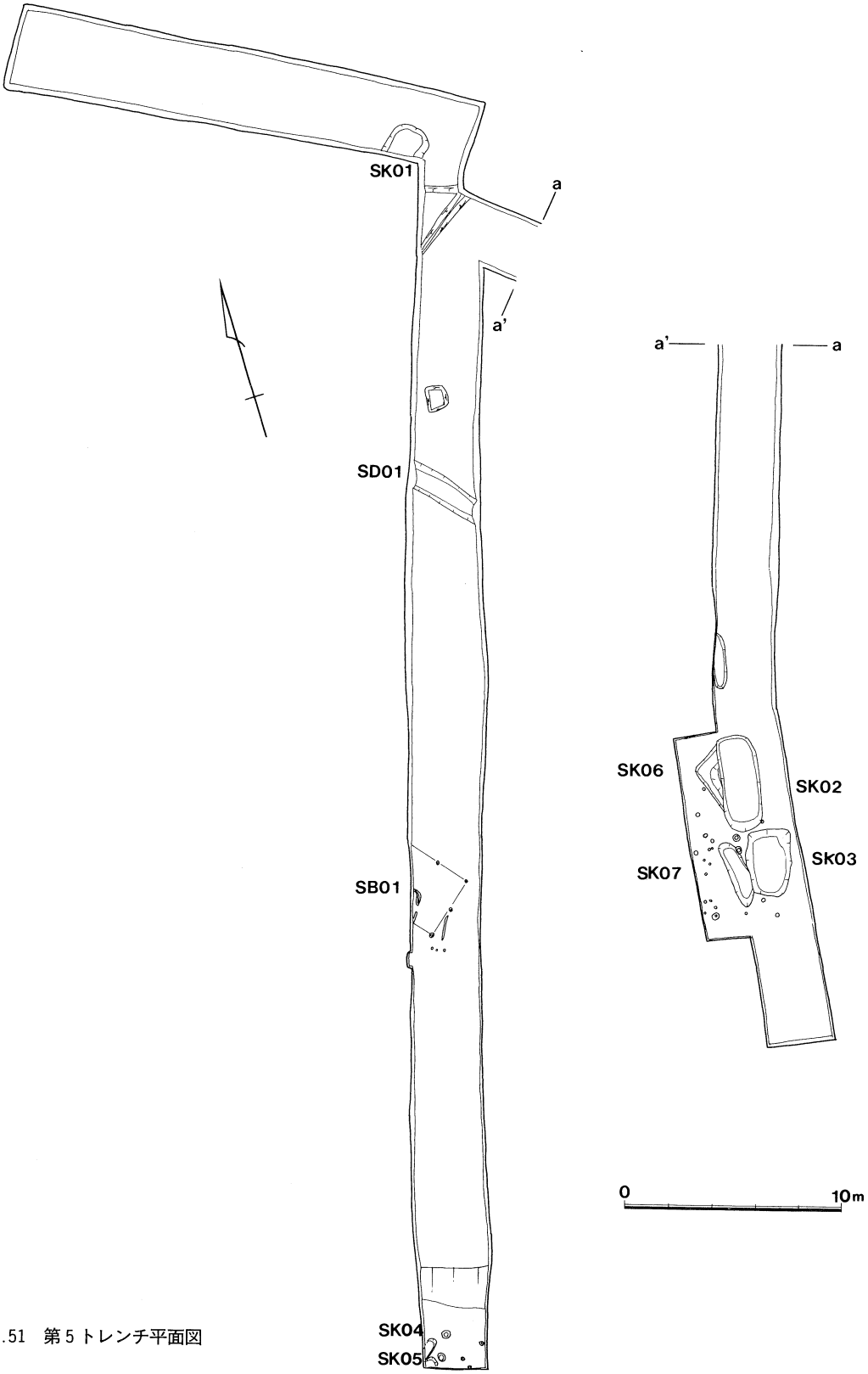


fig.51　第５トレンチ平面図

河原石の中には大人が二人で抱えてようやく運搬するのが可能な石もあった。また、河原石の多くは焼けて赤変していた。堆積状況からみて、遺物と河原石は同時に投棄されたものである。時期は鎌倉時代末期～室町時代初頭と考えられる。

ＳＫ03　長辺約3.2m、短辺約２m、深さ約0.5mの形の整わない隅円方形を呈する土坑で、埋土の中層から上層にかけて偏平な河原石がまとまって出土した。また、ＳＫ02よりも焼けている石の量は少なかった。埋土内からは須恵器、土師器、青磁等が出土した。ＳＫ02出土の青磁碗と接合する破片が埋土より出土したので、時期はＳＫ02とほぼ同時期と考えられる。

ＳＫ06　ＳＫ02に大半を削られる最大残存長2.7m、深さ約0.3mの遺構で、埋土から人頭大の河原石が出土した。時期は不明である。

ＳＫ07　ＳＫ03に一部を削られる遺構で最大長3.2m、幅約0.8m、深さ約0.2mを測る。埋土から須恵器、土師器の小片が出土した。

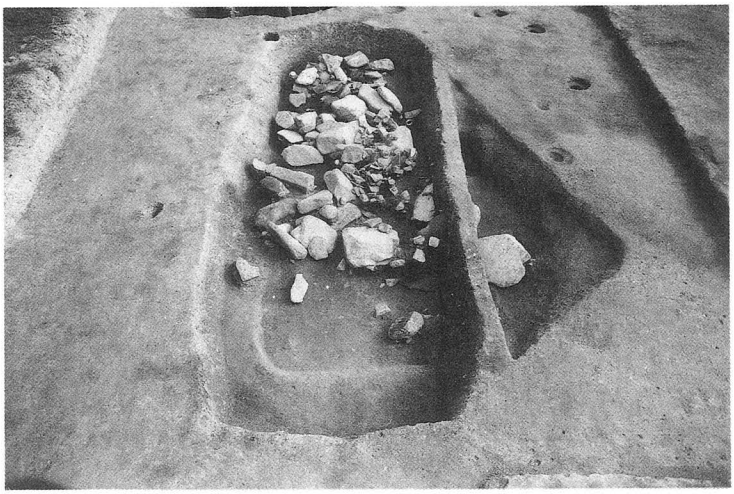


fig.52
第５トレンチ　ＳＫ02
河原石・土器出土状況
（西から）

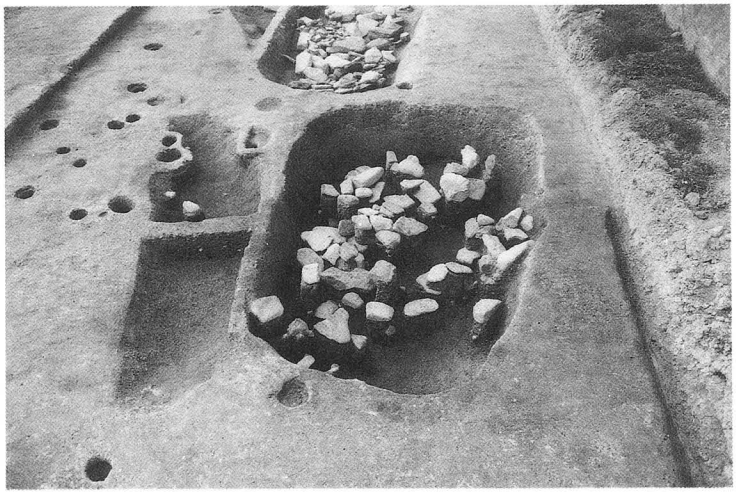


fig.53
第５トレンチ　ＳＫ03
河原石・土器出土状況
（東から）

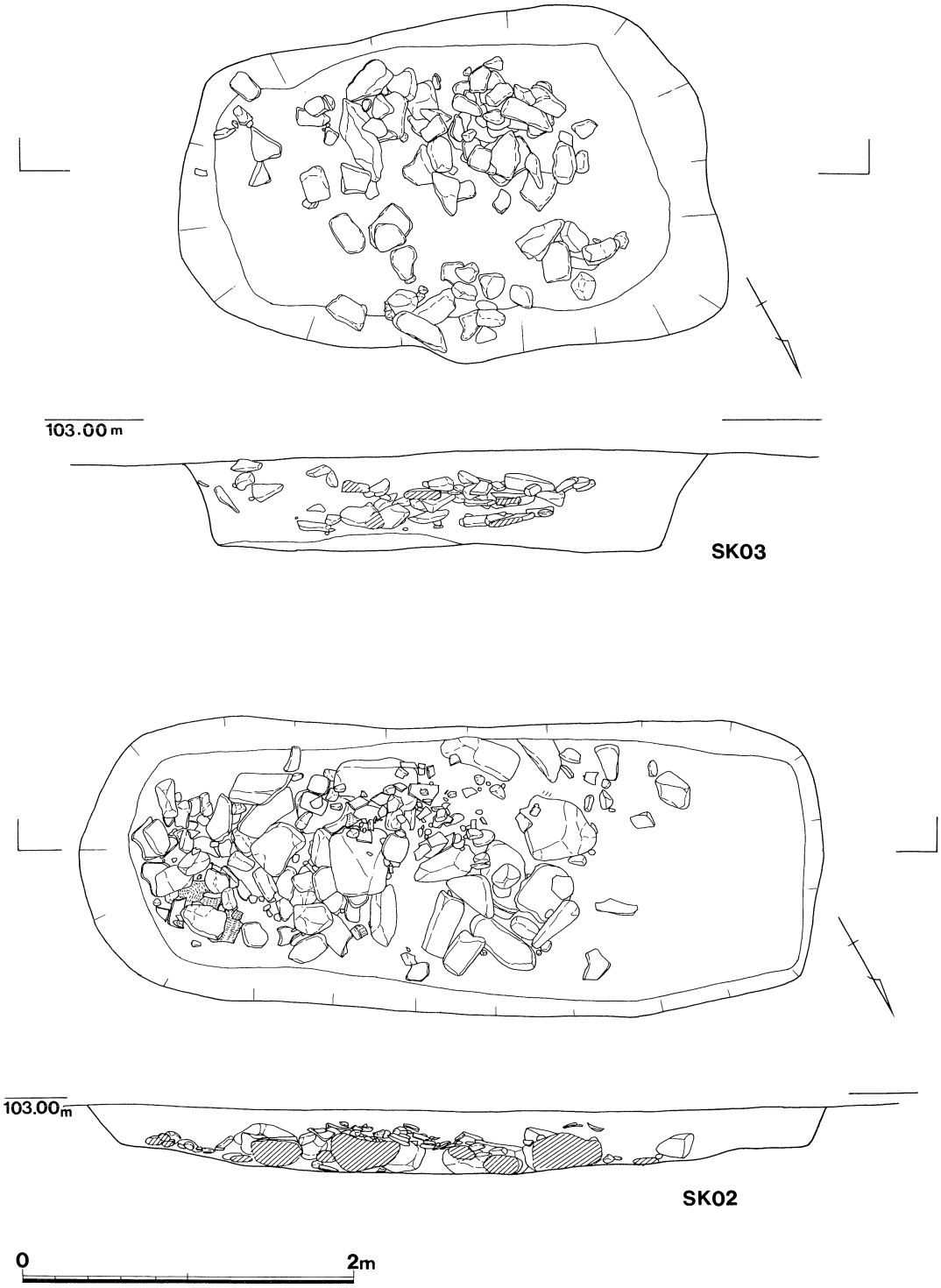


fig.54　第５トレンチＳＫ02・03　土器・河原石出土状況図

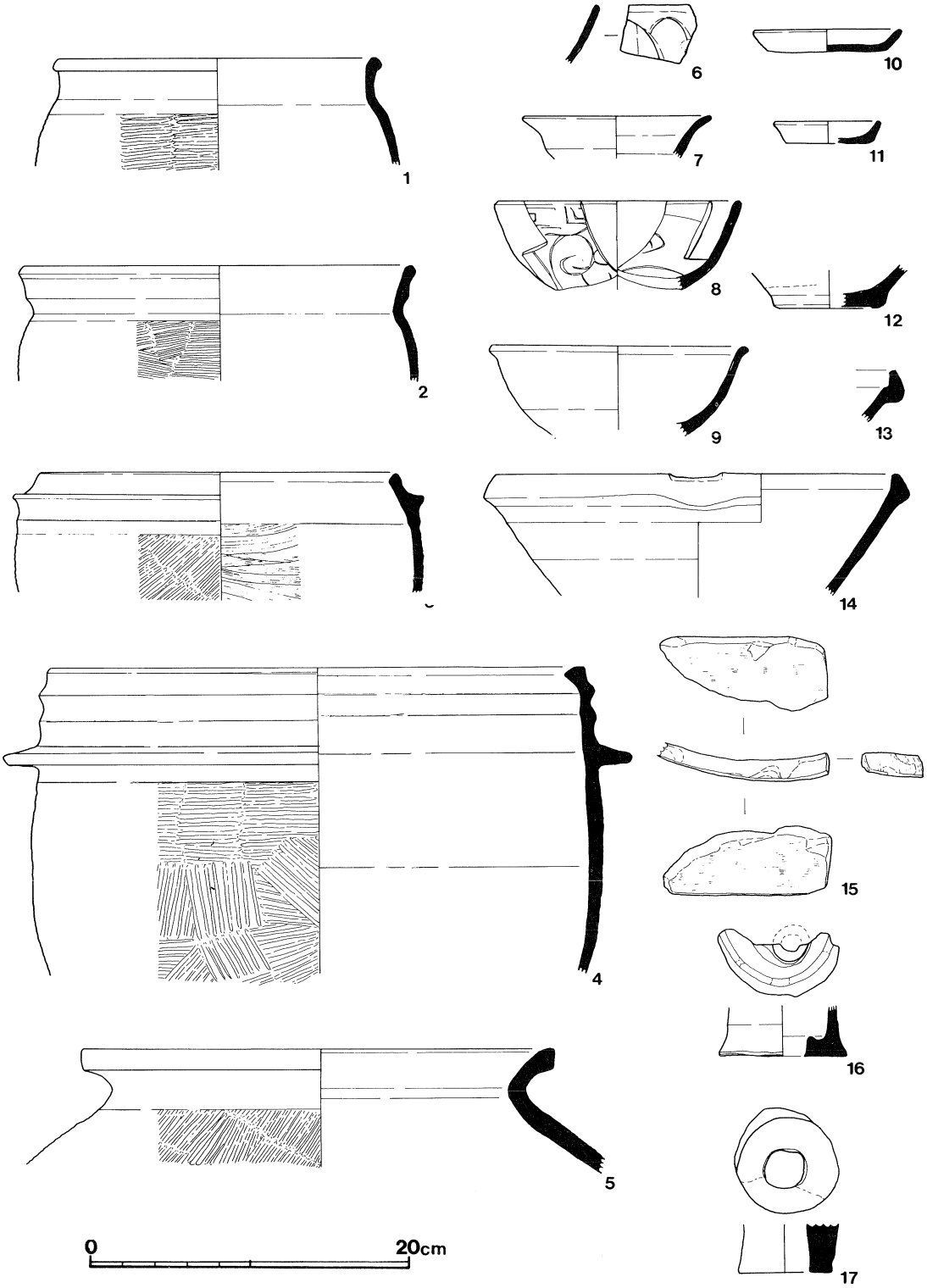


fig.55　第５トレンチＳＫ02・03出土遺物　6～8・10・11:SK03　1～9・12～17:SK02

C区　全長約55m、幅約3.5mの調査区で、北から南に傾斜している。

基本層序　北半部は、耕作土、床土下に、淡灰褐色～暗褐色細砂層、暗褐色砂礫層（遺物包含層）、茶褐色細砂層（遺構面）となる。南半部では、耕作土、床土下に、淡灰褐色細砂層、灰褐色細～中砂層となる。また南端部では約１m下がり、暗灰褐色砂礫層（平安時代の遺物包含層）、淡黒褐色細砂～極細砂層（古墳時代の遺物を若干包含する）、暗褐色砂礫（地山）が堆積している。

遺　構　掘立柱建物址１棟、溝、土坑が検出された。

ＳＢ01　調査区のほぼ中程にある２間×２間以上の建物址で、西側部分は調査範囲の外に出ている。柱間寸法は、1.5～1.6mである。柱穴の掘形の大きさは0.2m前後と小さい。

ＳＤ01　検出長約3.3m、幅約1.2m、深さ約１mの断面形Ｕ字型の溝状遺構で南側は垂直に落ち、北側はやや勾配をもって立ち上がる。堆積土は褐色系の砂礫～細砂が互層になっている。堆積土内からは古墳時代前期初頭の土師器片が出土した。

ＳＫ04　ＳＫ04は直径約0.6m、深さ約0.1mの円形土坑である。埋土からは土師器の小片、小円礫が出土した。

ＳＫ05　ＳＫ05は最大残存長約0.8m、深さ約0.05mの浅い遺構である。これらは古墳時代の遺構と考えられる。

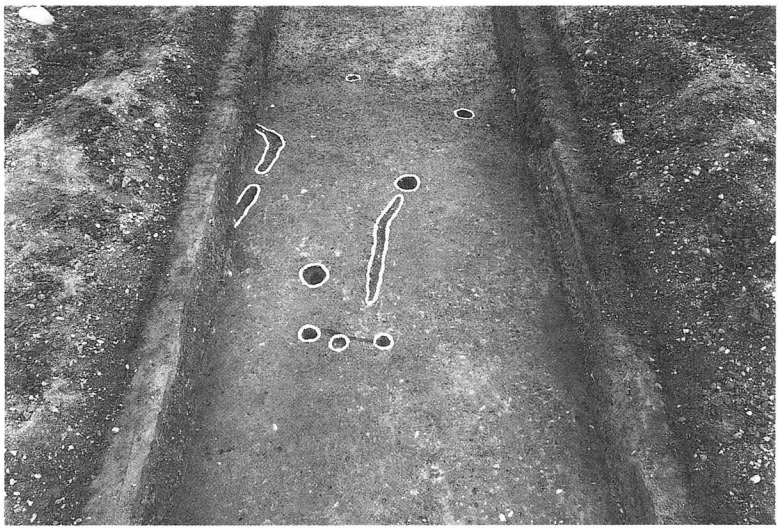


fig.56
第５トレンチ
ＳＢ01全景（南から）

３．まとめ

今回の調査によって、高位の段丘上には、古墳時代～鎌倉・室町時代までの遺跡が広がっていることが判明した。古墳時代については、自然流路、溝状遺構、土坑、ピット等が確認できた。当該時期の住居址は確認できなかったが、当地周辺に集落が存在したと考えられる。なお試掘調査時に試

掘坑１で出土した製塩土器は、現在の段階で明石川の最上流部で発見されたものである。

平安時代～鎌倉・室町時代の遺構は、掘立柱建物址１棟、土坑、ピット溝状遺構等が検出された。この中で注目されるのは、第１地区のＳＫ04・07、第５トレンチのＳＫ02・03のような土器と共に河原石が大量に出土した土坑である。これらの遺構に共通することは、土器と河原石を一時に投棄していること。どの遺構にも焼石が入っていること。しかも石の量が非常に多いことである。しかし第１地区のＳＫ07については、偏平な河原石を敷き詰め、それらがその遺構内で焼けているのに対し、第５トレンチのＳＫ02・03は他の場所で焼いた石を土坑内に投棄している点や、焼けた面が不揃いである点、第５トレンチのＳＫ02、第１地区のＳＫ07では、土坑の底面に石が集中するのに対し、ＳＫ03は河原石が埋土の中層～上層に堆積している点は異なる。また、第１地区のＳＫ04、07の時期は鎌倉時代中頃～後半、第５トレンチのＳＫ02・03は鎌倉時代末期～室町時代の初頭と考えられ、時期幅が大きい。以上のような相違点があげられる。

また、第５トレンチのＳＫ03、第１地区のＳＫ04は石と遺物を廃棄した土坑と考えられるのに対し、第１地区のＳＫ07は一部の石と土器については廃棄されたものと認められるが、大半の石は偏平な河原石であり、火で焼かれた状態で出土していることから、火葬址の可能性もあるが、骨片等は確認できなかった。現在のところ、用途不明の焼成土坑と仮称し、今後さらに考察を行いたい。

fig.57
第５トレンチ
ＳＫ02検出作業
状況

4．養田（ようだ）遺跡

1．はじめに

養田遺跡は昭和45年度に行われた圃場整備事業の工事中に発見されたもので、弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡であることが確認されている。

これまでの調査では、弥生時代後期の竪穴住居址・土坑・ピット、古墳時代の竪穴住居址・ピットや、平安時代から鎌倉時代にかけての遺構などが確認されている。

2．調査の概要

昭和63年12月５日から昭和63年12月17日にかけて実施された試掘調査の結果にもとづき、埋蔵文化財の存在する範囲についてトレンチ調査を行った。

調査対象は、パイプライン部分の幅約１m、長さ約80mであり、調査区は便宜上、現在の各圃場毎に地区番号を付し、東からⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区とした。

なお、第１遺構面より下層は、数ヵ所試掘坑を設定して確認したが、埋蔵文化財は確認できなかった。

fig.58　調査地位置図　S＝1：5000

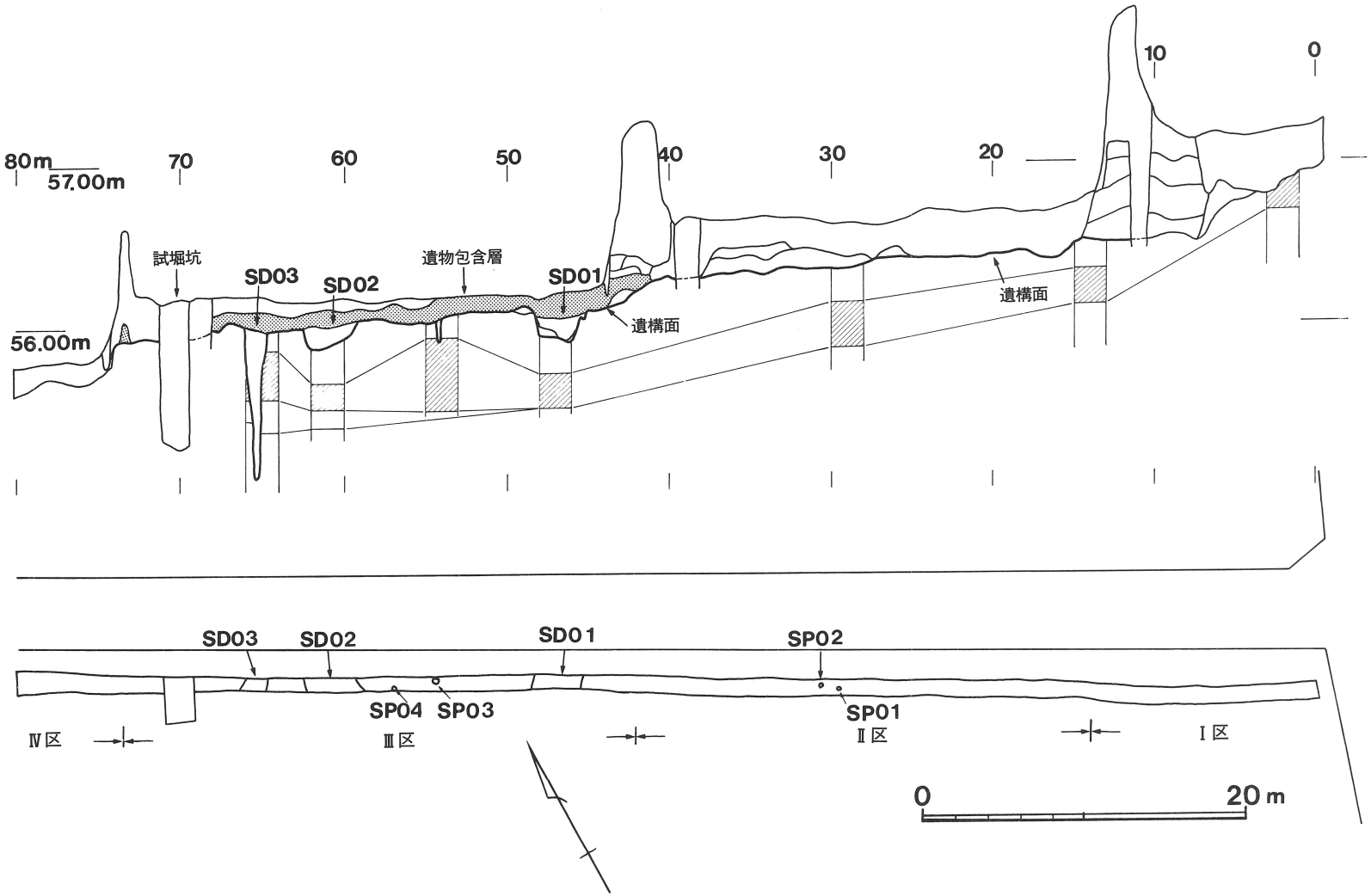


fig.59　調査区平面図および断面模式図

〔Ⅰ区〕　東半は撹乱が著しく、礫を含む暗灰褐色系の粘質土を主体とする埋土である。西半は暗青灰色シルト質土を主として堆積していた。

遺物は、旧耕土と思われる褐灰色粘質土より、須恵器・土師器の小片が出土した。遺構は確認できなかった。

〔Ⅱ区〕　基本層序は、上層より暗青灰色土、混濁灰橙色土(現耕土、盛土)、濁黄灰色土、濁灰黄色土（旧耕土)、淡黄灰色土である。

Ⅲ区からの続きで、４層目の淡黄灰色土上面が遺構面となる。遺構は、ピットを２ヵ所確認した。

〔Ⅲ区〕　厚さ10～15cmの遺物包含層が存在する。遺構は、ＳＤ01～03およびＳＰ03、04を検出した。

ＳＤ01　幅3.17～3.20m、深さ14～15cmの溝で、Ⅲ区東半で検出した。底は平らに近く浅い。堆積土は、暗灰茶色粘性砂質土の１層である。出土遺物は、須恵器・土師器・埴輪の小片がある。

ＳＤ02　幅3.25～3.68m、深さ11～15cmの溝で、Ⅲ区中央やや西よりで検出した。堆積土は１層である。出土遺物には埴輪・須恵器・土師器がある。

ＳＤ03　幅1.35～1.66m、深さ93cmの断面形がＶ字形の溝で、Ⅲ区西半で検出した。遺物は上層から土師器が出土している。

埋土は第１層黒褐色土（炭混じり)、第２層暗灰色土、第３層淡灰色土、第４層暗灰色土（黄灰色土ブロック状にやや多く含む)、第５層黒灰色シルトである。

ＳＤ01，02は出土遺物より、平安時代末から鎌倉時代前半にかけての溝と考えられる。ＳＤ03はＶ字の深い溝であり、遺物も土師器のみで須恵器を含まないため、他の溝とは時期や性格が異なるものと思われる。

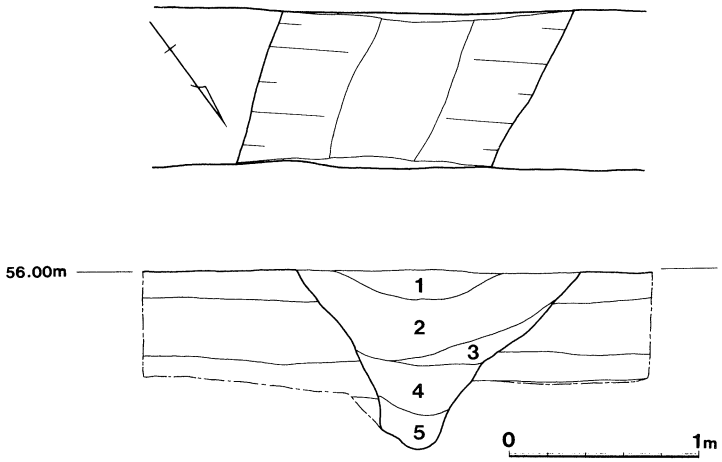


fig.60
Ⅲ区　ＳＤ03
平面・断面図

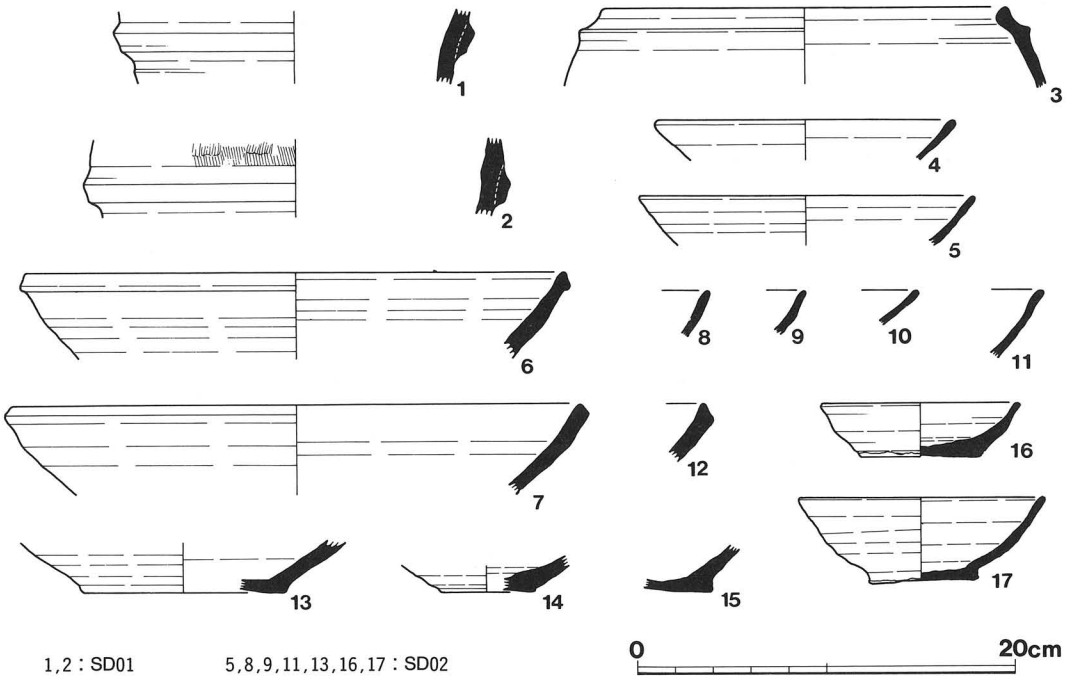
1．黒褐色土
（炭混じり）
2．暗灰色土
3．淡灰色土
4．暗灰色土
5．黒灰色シルト

ＳＰ03　　直径32cm、深さ23cmで、遺物は出土しなかった。

ＳＰ04　　直径28cm、深さ20cmで、遺物は出土しなかった。

〔Ⅳ区〕　　明瞭な遺構面や遺物包含層は存在しない。遺物は、土師器・須恵器が少量出土した。

3．まとめ　　調査区が幅１ｍと狭く、しかも暗渠が縦断していたため、遺構の残りがが悪く、遺跡の性格を明確にすることはできなかった。



1,2：SD01　　5,8,9,11,13,16,17：SD02
3,12：Ⅱ区西半　　7：Ⅱ区中央
4,6,14：Ⅲ区　　10,15：Ⅲ区西半

fig.61　養田遺跡出土土器

fig.62
調査地全景
（北西から）

5．鍋谷池遺跡（なべたにいけ）

1．はじめに

鍋谷池遺跡は、西神墓園造成に伴い昭和61年度から調査を実施している。今回は昨年度調査区の南側一帯が対象地である。（当遺跡は、昭和52年度の分布調査により古墳ないし経塚の可能性のある隆起が認められるようになった。）昭和61年度の試掘調査で鍋谷池と待池にはさまれた丘陵部で弥生時代の土坑、古墳、平安時代の土坑などが確認された。

昭和62年度より北から造成区内の本調査を開始した。昭和62年度の調査では、弥生時代の土坑や地山整形遺構を検出した。昭和63年度の調査では、弥生時代中期の円形の竪穴住居址１棟と甕棺１基、焼土坑などを検出した。今回は、昨年度調査区の南側の比較的広い平坦面と古墳の存在が確認されている平坦面、およびその間の尾根部分の総計約3500m²について発掘調査を行った。

遺跡は、明石川右岸、雄岡山南方の段丘から南にのびる尾根上に立地する。調査地付近の標高は100m前後で、尾根上からは明石平野から瀬戸内海、淡路島を望むことができる。

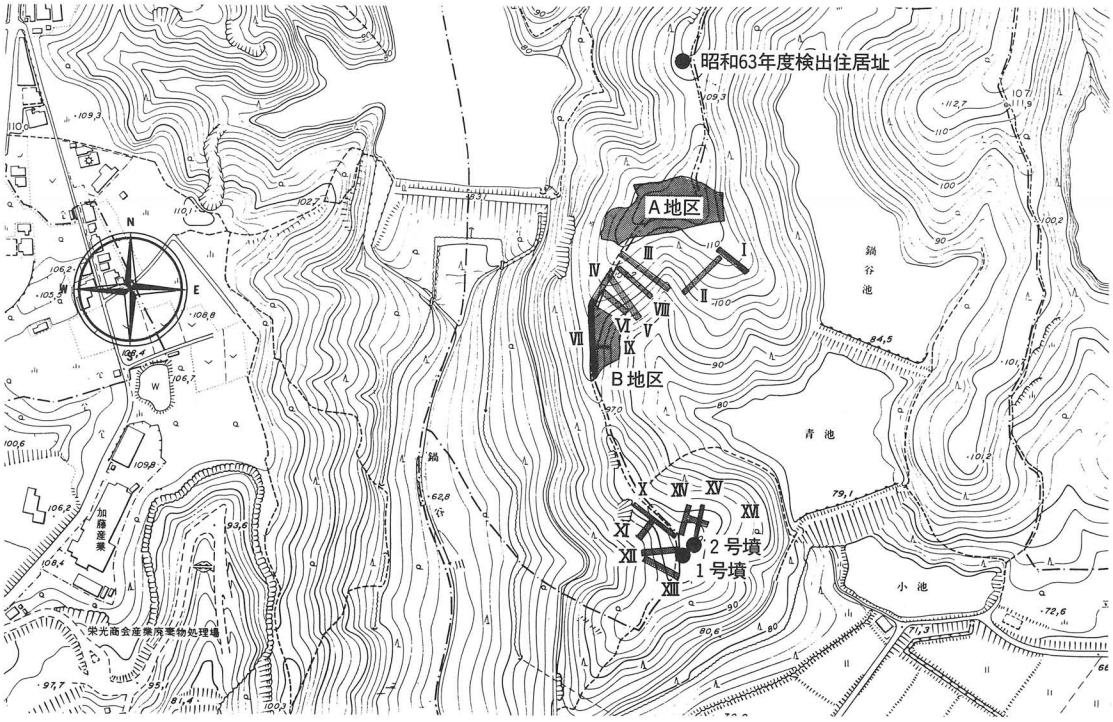


fig.63　調査地位置図　S＝1：5000

2．調査の概要　調査は、昨年度調査区のすぐ南方の約2100m²（A地区）と、そこから延びる尾根上および尾根から谷にむかっての斜面上および古墳と土坑群の存在範囲確認のためのトレンチ調査を行った(fig.63)。

基本的な層序は、表土（腐植土)、流土、地山となっており、尾根部およびその付近の一部では表土、地山となっている。

調査は、人力による伐開後、すべて人力による掘削で行った。

A地区　昨年度（昭和63年度）住居址が検出された平坦面から尾根を通って真南に再び開ける平坦面を中心に調査区を設定した。その結果、焼土坑、土坑、ピットなどが検出された。遺構のうちいくつかのものについては弥生土器片が出土しているが詳細な時期は確定しがたい。遺物は流土中より弥生土器（第Ⅰ様式末、第Ⅳ様式)、須恵器、土師器の破片が出土しているほか、サヌカイト製石鏃4点、サヌカイトチップ若干が出土している(fig.68)。焼土坑、土坑、ピットなど遺構の性格は不明である。

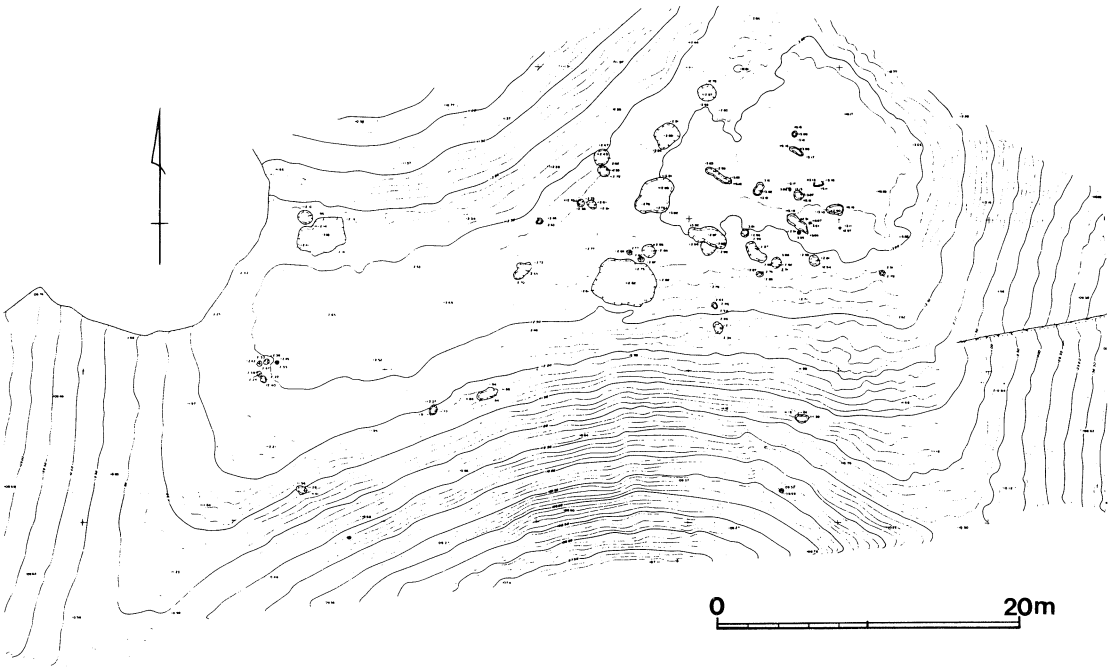


fig.64　A地区平面図

B地区　B地区は、トレンチ調査中Ⅶトレンチにおいて住居址ではないかと予想される遺構の一部を確認したため、Ⅵトレンチ とⅣトレンチ、そしてⅦトレンチをふくむその南10mと、谷の傾斜変換ラインで囲まれた約730m²を拡張して設定した。

その結果、検出された遺構は住居址ではなく地山整形遺構であることが判明した(fig.67)。地山整形遺構は、半円形に地山を掘り込んでおり、長

軸約7.5m、短軸約3.2mを測る。西隅付近の２ヵ所で炭の遺存が確認された（fig.66　アミ目部分）。遺構内からは遺物は出土しなかった。

Ｂ地区ではこの他に遺構は検出されず、遺物も全く出土しなかった。

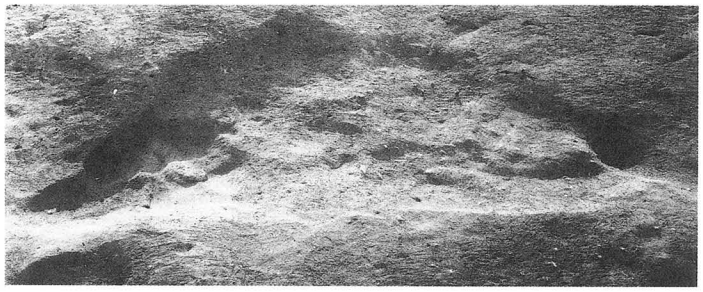


fig.65　地山整形遺構検出状況（東から）

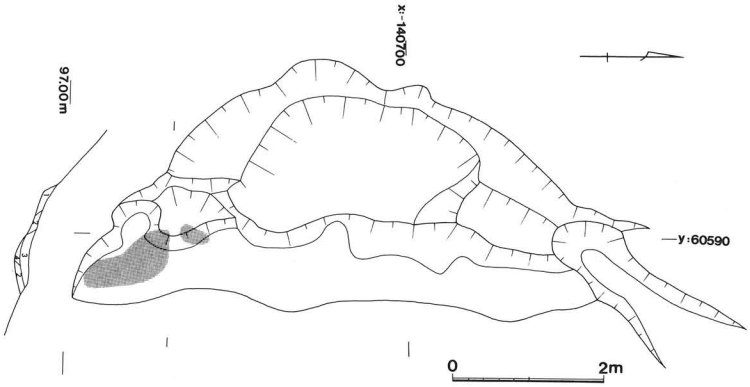


fig.66　地山整形遺構平面・断面図

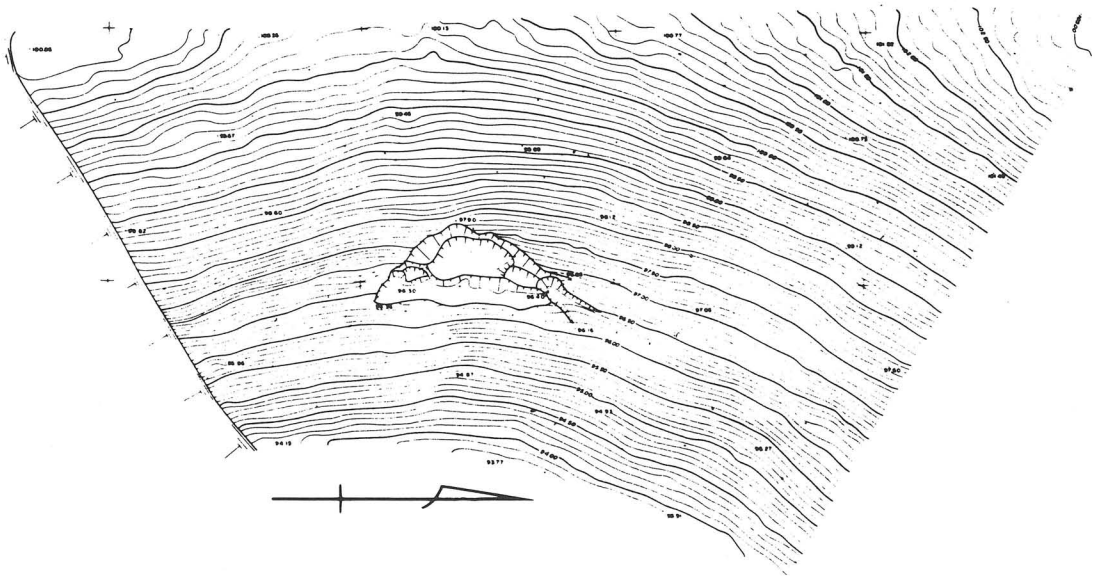
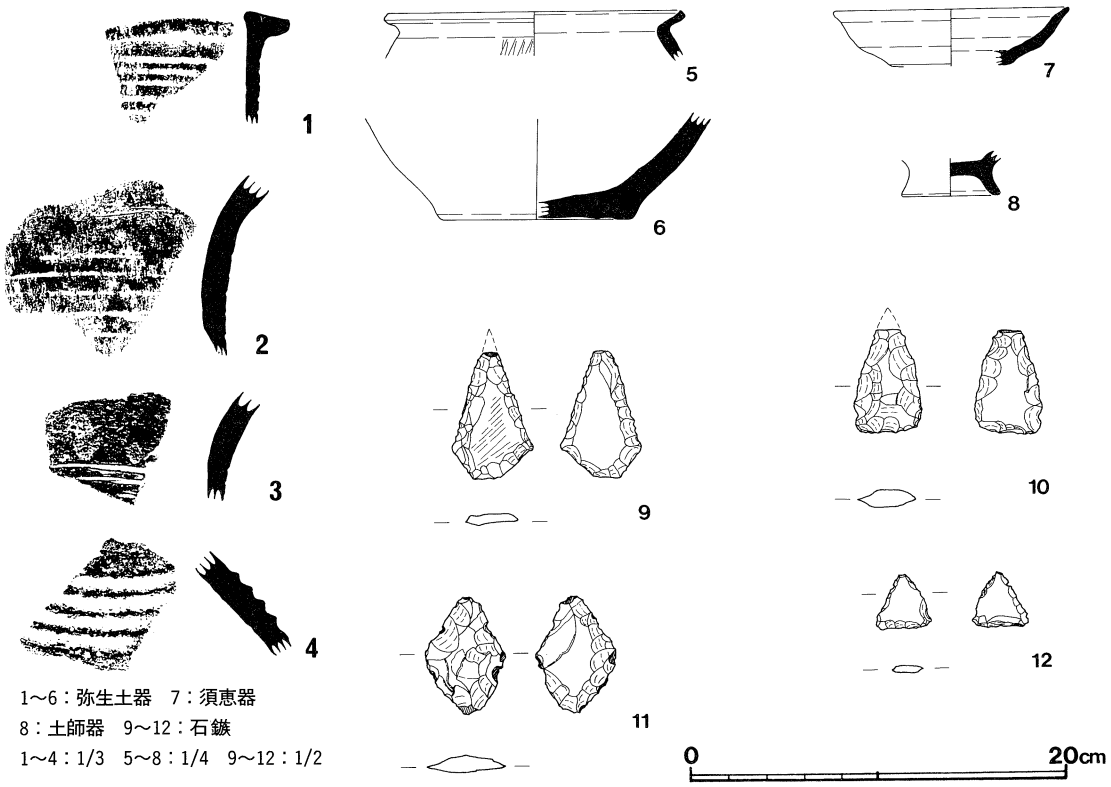


fig.67　Ｂ地区平面図

トレンチ調査　トレンチ調査では、昭和62年度試掘調査地点とA地区との間の尾根上とそれにはさまれた谷に向かって合計９本（Ⅰ～Ⅸ）と、昭和62年度試掘調査の際確認された古墳および土坑群周辺の平坦面と西斜面に7本(Ⅹ～ⅩⅥ)のあわせて16本を設定し行った。トレンチは幅２m、総延長約360mにおよぶ。その結果、Ⅰ～Ⅸの９本の内、Ⅶトレンチで遺構を確認し拡張を行った（fig.63参照）ほかは遺構、遺物は全く検出されなかった。

Ⅹ～ⅩⅥのトレンチは、古墳と土坑群の存在範囲を確認する目的で行われた。その結果、ⅩⅤトレンチの南隅で２号墳の墳丘と思われる僅かな高まりを検出した。遺物は、ⅩⅡトレンチ裾部で弥生土器の底部片１点が出土した。他に遺物は出土していない。

３．まとめ　今回の調査では、焼土坑、土坑、ピット、地山整形遺構などが検出されたが時期や性格の不明なものが多い。昨年度検出の住居址につづき、A地区でも住居址の検出が予想されたが全調査区を含めて住居址は検出されなかった。なお、今回出土した遺物のなかで時期の判明するもののうち弥生時代前期に属するものが比較的多く、すでにこの時期から生活が営まれていたことが考えられるようになった。



1～6：弥生土器　7：須恵器
8：土師器　9～12：石鏃
1～4：1/3　5～8：1/4　9～12：1/2

fig.68　鍋谷池遺跡出土遺物

6．大畑（おおはた）遺跡

1．はじめに　当該地は大畑遺跡の範囲に含まれ、昭和63年度には今回の調査区に隣接した地点で圃場整備事業に伴う発掘調査を実施し、狭い範囲の調査にもかかわらず、中世のピット・土坑・溝などの存在とともに、その下層より弥生時代末期～古墳時代初頭の土器が多数出土している。

今回の調査は、西神22号線自歩道設置事業に伴うもので、工事により埋蔵文化財が影響を受ける部分について調査を実施した。

2．調査の概要　大畑遺跡は、東から西へ流れ、明石川に合流する薬師谷川の扇状地上に立地しており、今回の調査地は薬師谷川の南に位置している。

調査は、歩道が設置される部分についてそれぞれトレンチを設定し、南から1トレンチ・2トレンチ・3トレンチとし、盛土と旧耕土を重機で掘削しそれより下層は人力で掘削を行った。

fig.69　調査地位置図　S＝1：5000

中世

1トレンチ　1トレンチは幅約1.5m、長さ約55mを測る。トレンチ南端では、地表下約60cmで中世の遺構面を検出したが、中央部より北は削平を受け遺構面は残っていなかった。検出遺構は、ピット13基・土坑1基・溝4条である。

ピット　直径20～40cm、深さ20～50cmを測り、柱穴と思われるものも存在するが調査範囲が限られていたため建物としての単位を確認することはできなかった。なお、1基の柱穴の底付近から土師器の小皿が3枚まとまって出土している。

SK07　幅180cm、長さ180cm以上、深さ60cmの不整形の土坑である。

SD01～04　いずれも幅40～50cm、長さ150cm以上、深さ10～20cmを測る。流れの方向は東から西である。

2トレンチ　2トレンチは幅約2.7m、長さ約42mを測る。削平を受け包含層は存在せず盛土を除去すると地表下50cmで遺構面を検出した。検出遺構は、ピット43基・土坑6基である。

ピット　直径20～40cm、深さ15～30cmを測り、柱穴も存在するがここでも建物を確認するに至らなかった。

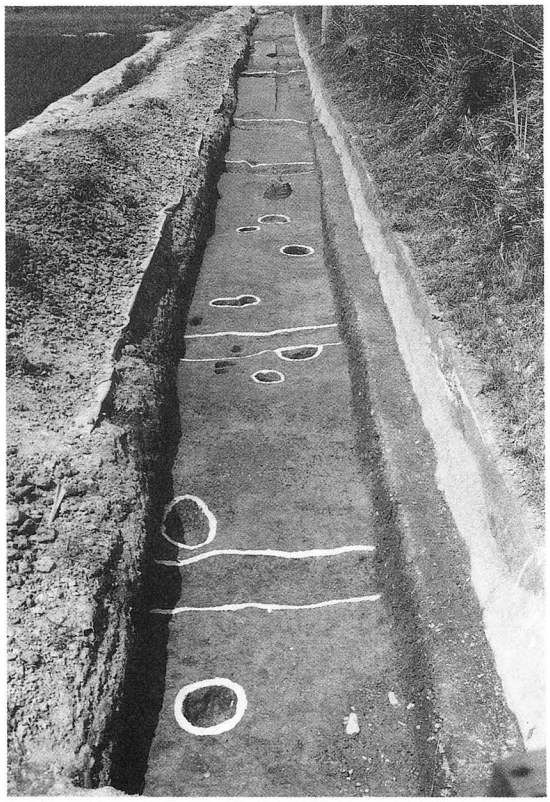


fig.70　1トレンチ中世遺構面（南から）

fig.71　2トレンチ中世遺構面（北から）

ＳＫ01　直径80cm、深さ30cmの不整円形の土坑である。

ＳＫ02　長径110cm、短径60cm、深さ25cmの楕円形土坑である。

ＳＫ03　直径60cm、深さ40cmの円形の土坑である。

ＳＫ04　一辺60cm、深さ10cmの隅丸方形の土坑である。

ＳＫ05　直径60cm、深さ80cmの円形の土坑である。

ＳＫ06　長径80cm、短径50cm、深さ30cmの楕円形の土坑である。

なお、いずれの遺構も埋土は暗褐色粘質土であり、埋土中には土師器・須恵器が含まれているが、細片である。

３トレンチ　３トレンチは幅約2.5m、長さ約50mを測る。中央部より南側は中世の遺構面は削平されていたが、北側については中世の土器を含む層が厚く堆積しており、それを除去したところ薬師谷川に向かって落ち込んでいく地形を検出したが、遺構は確認できなかった。

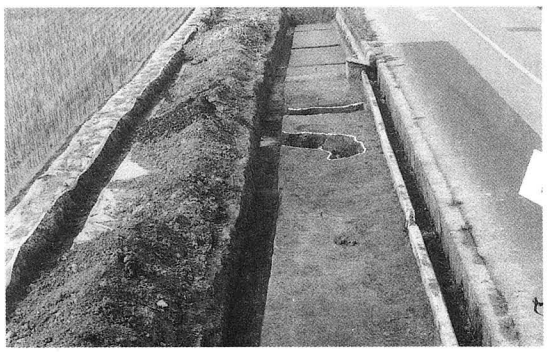


fig.72　３トレンチ中世遺構面（南から）

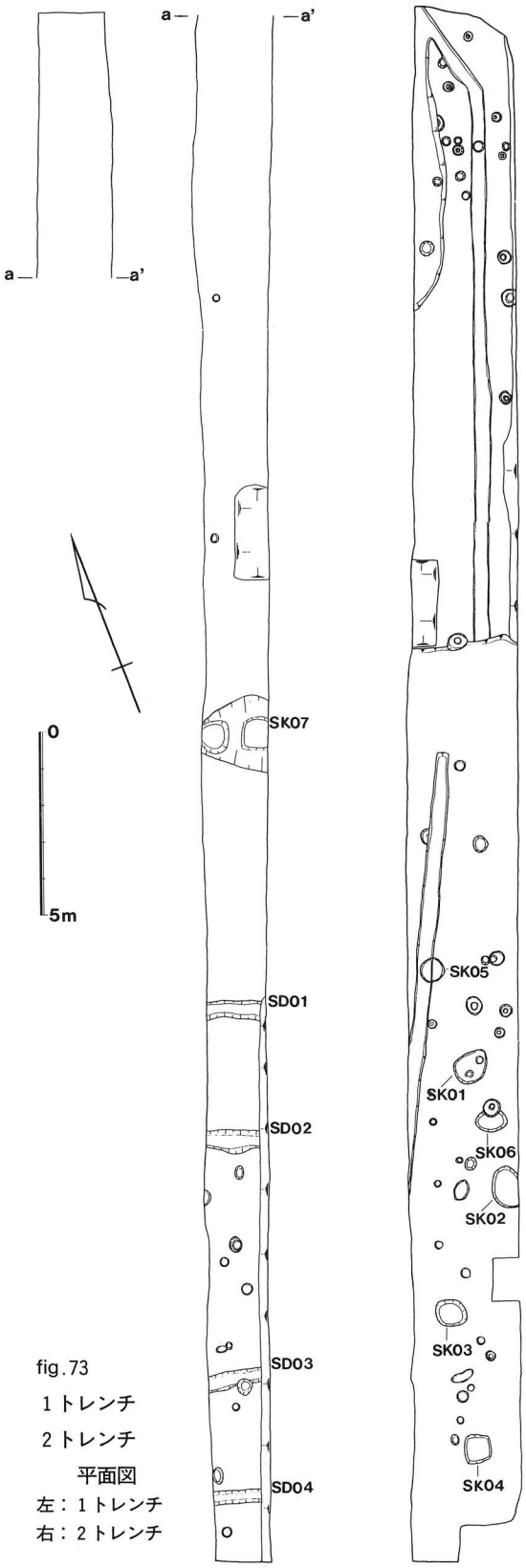


fig.73
１トレンチ
２トレンチ
平面図
左：１トレンチ
右：２トレンチ

弥生時代後期～庄内期

中世の遺構面を形成する灰褐色シルト層とこの層を切り込んでいる砂礫層および下層の褐色砂層中には、多量の土器が含まれていた。これらの層は薬師谷川の洪水によって堆積したもので、厚いところで約180cm,薄いところでも約100cmの厚さがあった。中に含まれていた土器は弥生後期～庄内期のもので堆積層の形成が短期間になされたものと考えられる。

洪水堆積層を除去すると砂礫層があり、所々が起伏しており、さらにその下層には黄褐色の基盤層が存在していた。

なお、どのトレンチにも遺構は存在しなかった。

土器は現在整理中であるが、２トレンチだけでおよそ120個体を数え、調査区全部では最終的に200個体に達するものと推定される。遺存状態も良く、完形品はおよそ70個体を数える。器形は甕が多いが、高坏・長頸壺・短頸壺・台付無頸壺・鉢・器台等も出土している。

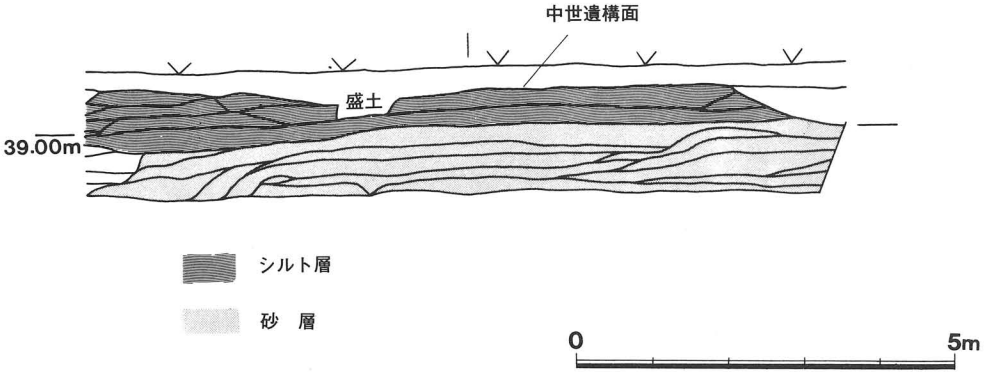


fig.74　２トレンチＨ・Ｉ区断面図

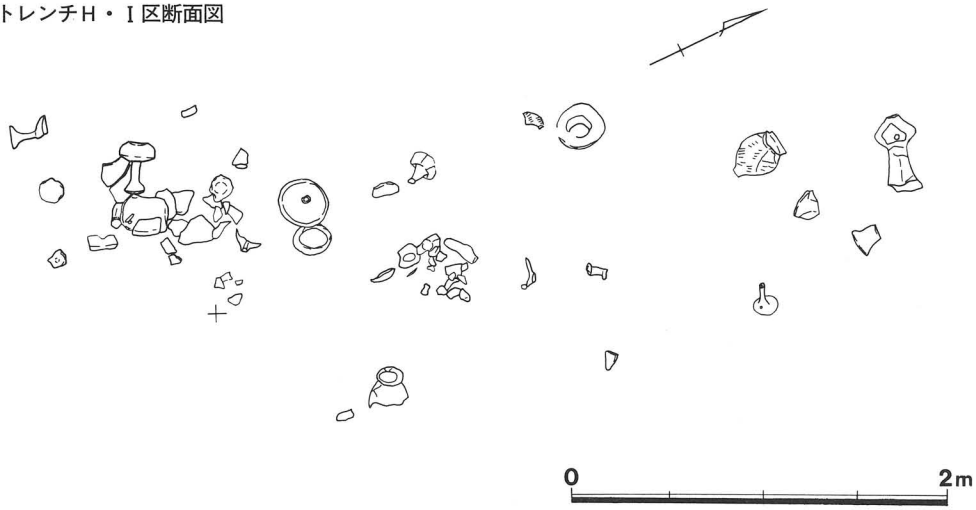


fig.75　２トレンチＨ・Ｉ区土器出土状況図

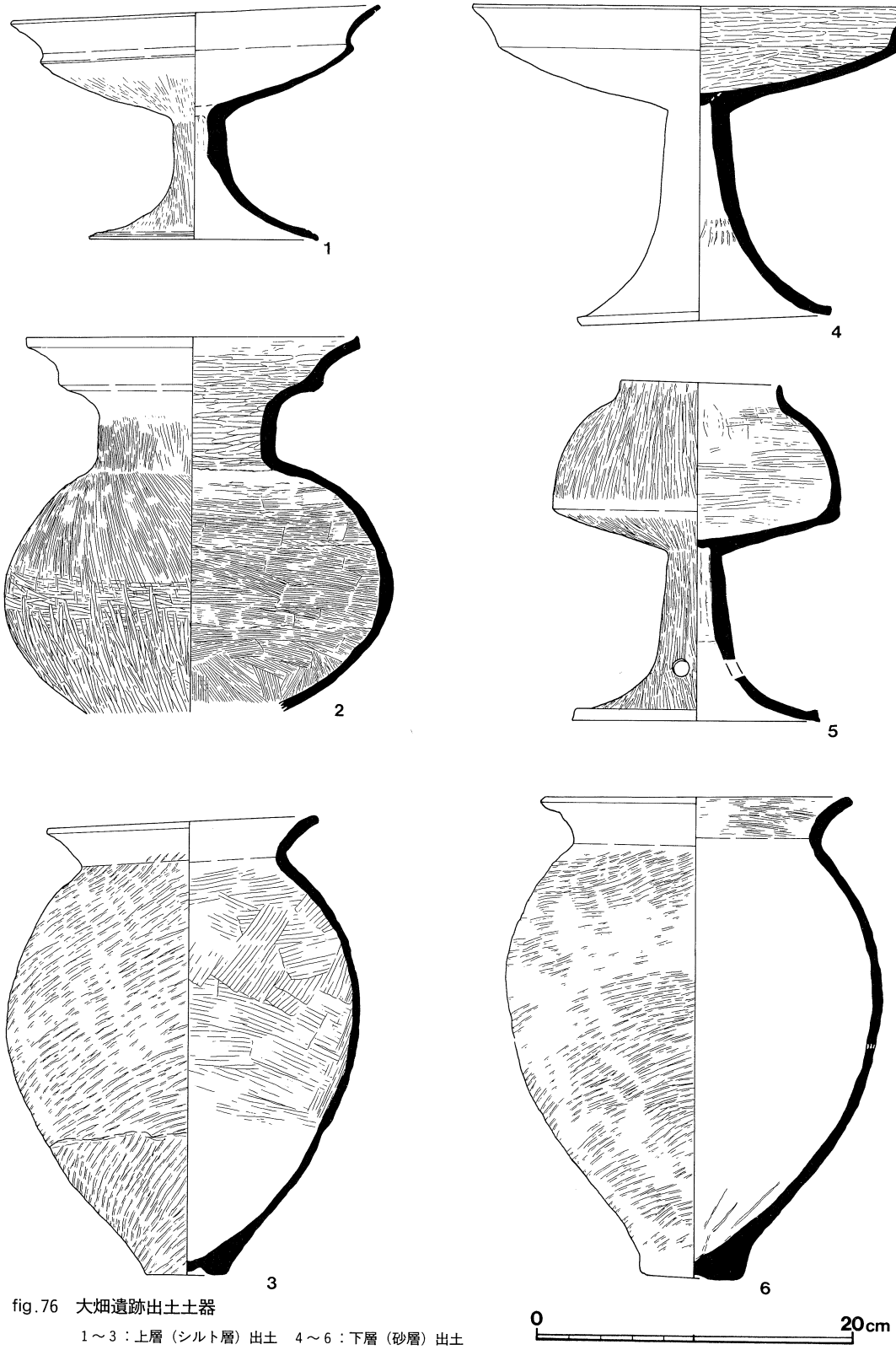


fig.76　大畑遺跡出土土器

1～3：上層（シルト層）出土　4～6：下層（砂層）出土

fig.77
2トレンチB・C区
土器出土状況
（北から）

fig.78
2トレンチE区
土器出土状況
（東から）

なお、今回の上層シルト層と下層の砂層に含まれていた土器に時期差があるかどうかは、現在検討中である。

3．まとめ

今回の調査では、断面観察により薬師谷川による扇状地と自然堤防の形成過程を明らかにすることができた。それは、流れを変えながら基盤層上面を川が流れ、起伏のある砂礫が堆積し、その上を洪水堆積層が覆い、自然堤防が形成されるというものである。

また、弥生後期～庄内期の土器が完形で多量に出土し、資料が少なかった明石川流域のこの時期の土器の様相に、新資料を提供することになった。

調査区内では遺構は検出されなかったが、これだけ多量の土器が出土することから、付近に弥生後期～庄内期の大集落の存在が予想される。中世については遺構は存在するもののその性格は不明である。

7．玉津田中遺跡（平野地区）

1．はじめに

平野地区土地改良事業は、昭和63年度までに西神戸バイパスの計画とあいまって計画が具体化した。これに伴い埋蔵文化財の有無を確認するために、昭和63年度および平成元年度に、分布調査及び当初計画部分の試掘調査を行った。試掘調査の結果、調査範囲のほぼ全域に遺跡の存在することが確認された。

これをうけて平成元年10月から、排水路部分など保存の不可能な箇所について調査を実施した。また事業の計画変更などに伴う試掘調査も調査中にあわせて行った。（平野地区第１次調査）

また、平成２年１月17日～３月16日に４～７トレンチまでの調査を行った。（平野地区第２次調査）

玉津田中遺跡は、明石川の中流域左岸にあり、明石川が形成した河岸段丘及び沖積地に位置する。標高は河岸段丘上で約26m、段丘下沖積地で約24mとなる。なお、東側の段丘上には福中城址（中世）がある。

fig. 79 調査地位置図 S＝1：5000

2．調査の概要　調査は、排水路予定地３本、総延長約400mにおよぶ。南北を１トレンチ、東西を北より３トレンチ、２トレンチとした。

検出された遺物は、弥生時代前期・中期・後期、古墳時代前期・中期・後期、平安時代前半期・後半期、鎌倉時代頃の各時期のものがある。その種類は、土器・石器・木器などである。検出された遺構は、住居址・溝・土坑・柱穴などである。以上のように検出された遺構・遺物は多種多岐におよぶ。

基本層序は、耕土・床土下に中世から近世・近代の遺物をわずかにふくむ黄色泥砂層・褐色もしくは灰褐色の中世遺物包含層・褐色の古墳時代遺物包含層・灰色もしくは青灰色の弥生時代の層となり、ところによっては、礫や砂を含む洪水砂層が存在する。また段丘上では、床土・中世遺物包含層・古墳時代遺物包含層・地山となる。

トレンチを設定した地形は、河岸段丘と沖積地とに分かれる。１トレンチは北３分の１が、３トレンチは東３分の２が河岸段丘上に位置し、そのほかは、沖積地に位置する。

１トレンチ　１トレンチは、南から20mピッチで１～10区に区分して調査をおこなった。１～７区までが沖積地、８～10区が河岸段丘にあたる。１～６区までは、均一に中世遺物包含層が存在する。これからは、少量の弥生土器・古墳時代土師器・須恵器のほかに中世の土師器・須恵器が出土した。中世の遺物では土師器鍋・三足鍋・甕・皿、須恵器鉢・甕・椀・皿がある。しかしながら磁器類は、数片にとどまる。中世遺物包含層を除去すると中世遺

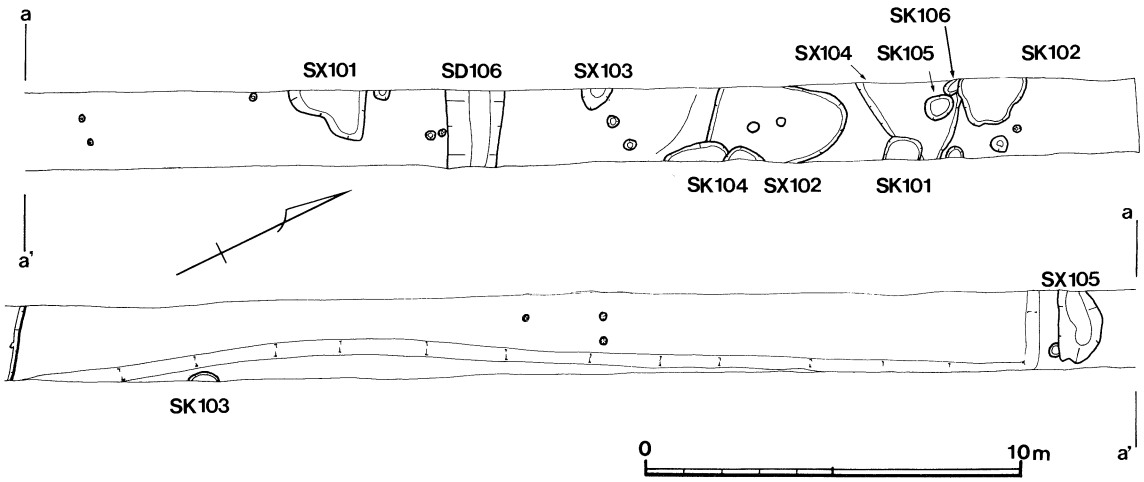


fig.80　１トレンチ遺構配置図

構面となる。1～2区にかけて、溝2条（SD101～103・104）と6区で溝1条（SD105）と落ち込み状遺構（SX106）が検出された。それぞれの遺構からは、少量の土師器片が出土したにとどまる。SD101～103は、流れを三度ほど変えた溝であることが判明した。

中世の遺構

中世遺構面を形成する土層は、黄色から灰色の砂泥層であるが、この層から遺物は出土しなかった。しかしながら1区で検出された中世の溝（SD101）と重なる位置に、古墳時代の流路状遺構（SD101）が検出された。幅約3.6m・深さ0.9mの流路で、北西から南東方向に流れる。この流路は、2トレンチの東端でも検出され、1トレンチに連続するものと思われる。

古墳時代の遺構

流路状遺構 SD101

遺構内より弥生土器・古墳時代土師器甕・高坏・製塩土器・ミニチュア土器、須恵器坏・甕、ホゾを刳った木材・刀形木製品と思われる木器・木片・堅果類の皮などが出土した。1・2トレンチの両方の出土遺物より6世紀後半頃には埋没した溝と考えられる。このほかには、古墳時代の遺構は検出されなかった。

弥生時代の遺構

さらにこの下層に青灰色砂泥層がある。5・6区の比較的高い部分からは、直径0.8m、深さ0.3mの円形の土坑が3基（SK107～109）検出された。土坑内から少量の弥生土器片が出土した。この面では、他に遺構は検出されなかった。この時点で排水路予定掘削深度より深くなるため、1～7区に計4ヵ所の試掘坑を設けてさらに下層の状況をつかむために調査を行った。その結果、2区の試掘坑から弥生時代前期の遺物が出土した。こ

fig.81　1トレンチ北側（北から）

fig.82　1トレンチ全景（南から）

れは、現水田下約1.8〜2.0mで確認されている。

7区は段丘および段丘裾部にあたる。中世遺物包含層は段丘に向かって、徐々に薄くなる。この下層から弥生土器とともに古墳時代前期頃の土師器壺・甕・高坏などが多量に出土した。段丘上の住居址から廃棄された遺物ではないかと考えられる。この下層は、1〜6区の層序と同様であるが、遺構・遺物は検出されなかった。

古墳時代の住居址

8区は、3トレンチと交差する地点である。この交差地点で、計6棟の住居址が検出された。住居址の規模などを確認するために、排水路の予定幅を部分的に拡張して調査をおこなった。

ＳＢ301

ＳＢ301は、中央穴が存在する。残存する周壁の高さは0.2m前後で周壁溝は確認できなかった。中央穴より東側は、削平されており北・南については調査区外で形状規模等については不明である。出土遺物には土師器甕・高坏がある。須恵器は出土していない。時期としては5世紀中頃と思われる。

ＳＢ302

ＳＢ302は、直径約8.0m（復元径）の円形の竪穴住居址である。幅1m程のベッド状の施設をもつ。中央穴をもち、規模は長径1.6m、短径0.9m、深さ0.5mである。中央穴から少量の炭と高坏片などが出土した。住居址の周囲には、周壁溝がめぐっているものと思われる。東側と南側は削平されており、検出できた範囲が狭いため類推の域をでないが、周壁溝が二重に巡っていることも考えられる。また、床面から炭化材が検出され、焼失住居の可能性が考えられる。出土遺物から弥生時代後期頃と考えられる。

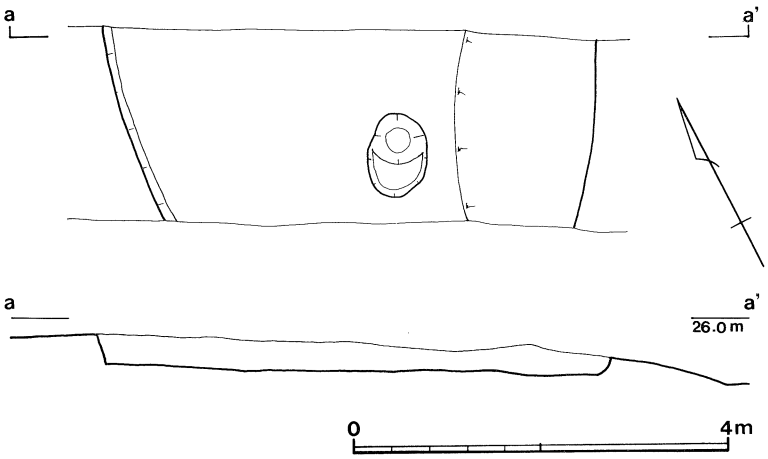


fig.83　ＳＢ301平面・断面図

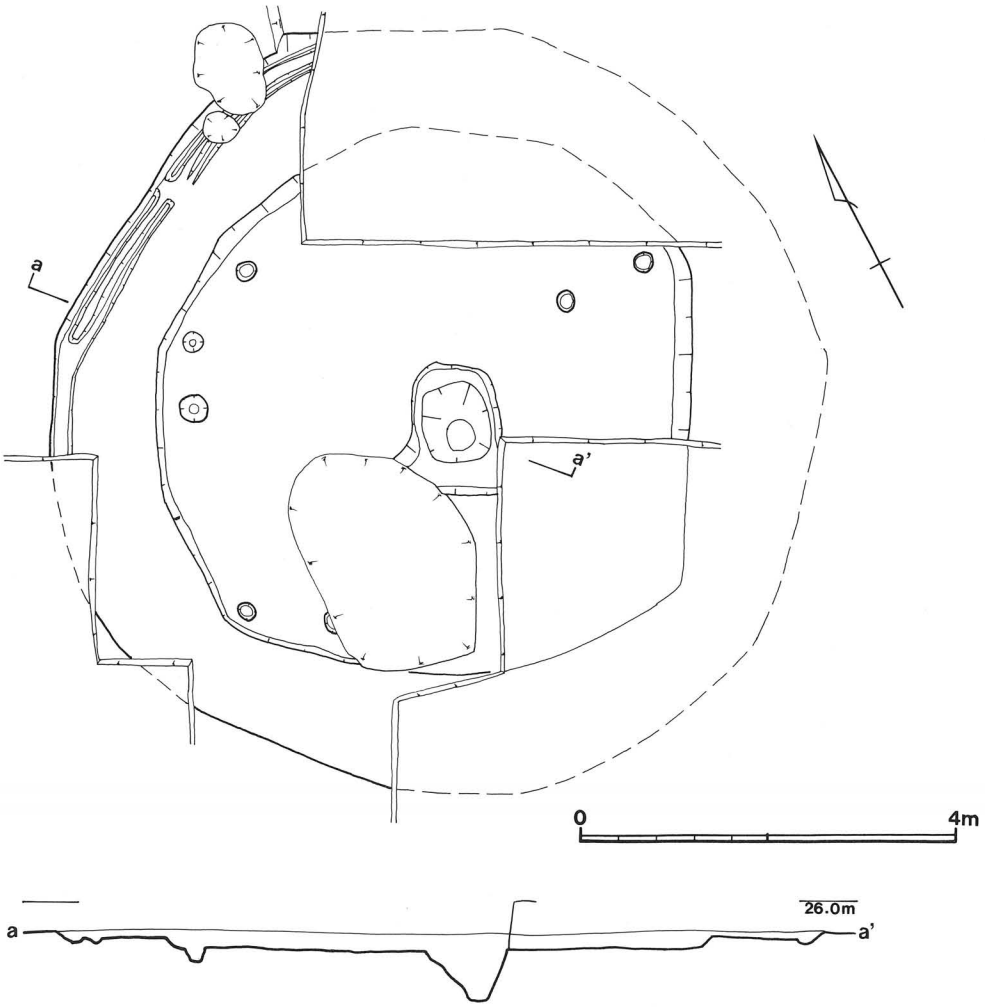


fig.84　ＳＢ302平面・断面図

fig.85　ＳＢ302炭化材出土状況（東から）

fig.86　ＳＢ302完掘状況（東から）

ＳＢ303　　ＳＢ303は、１辺5.0m前後（復元長）の方形の竪穴住居址である。柱間は2.8m前後で４本柱になると思われる。残存する周壁の高さは0.25m前後で幅0.3m程の周壁溝をめぐらす。中央付近に床面が固く焼けている部分がある。出土遺物は土師器があり、須恵器は出土していない。時期としては５世紀中頃と考えられる。

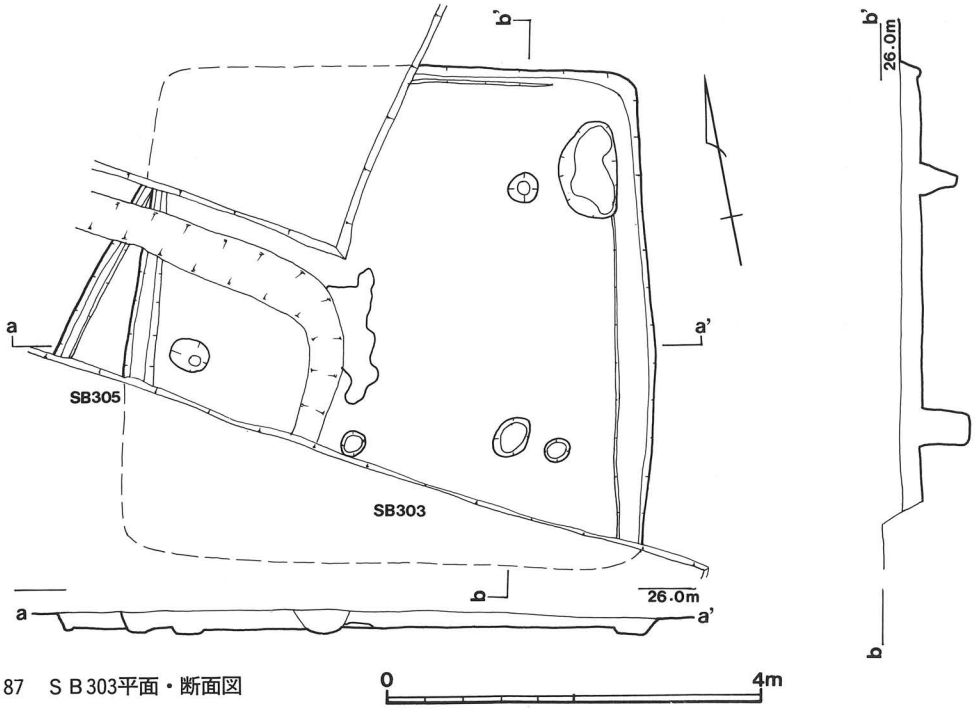


fig.87　ＳＢ303平面・断面図

fig.88
ＳＢ303全景（西から）

ＳＢ304　ＳＢ304は東西5.0m、南北6.0mの方形の竪穴住居址である。柱間は3.0m前後で４本柱であると思われる。残存する周壁の高さは0.2m前後で一部に周壁溝が存在する。出土遺物には土師器壺・甕・高坏・埦、須恵器坏・製塩土器等がある。時期としては５世紀後半頃と思われる。住居址南西部にはＳＫ01が検出された。長径1.6m、短径0.9m、深さ0.2mの楕円形の土坑である。土師器甕・高坏片が出土した。住居址東辺にはＳＫ02が検出された。長径1.0m、短径0.7m、深さ0.15mの楕円形の土坑で、土坑の底よりやや浮いて、甕が倒れた状態で検出された。ほかに土師器片が少量出土した。甕内に残された土からは、臼玉１個が検出された。埋甕土坑の可能性が考えられる。

ＳＢ305　ＳＢ305は、ＳＢ303に切られる竪穴住居址である。周壁溝の存在と南北の両断面の観察から住居址とした。

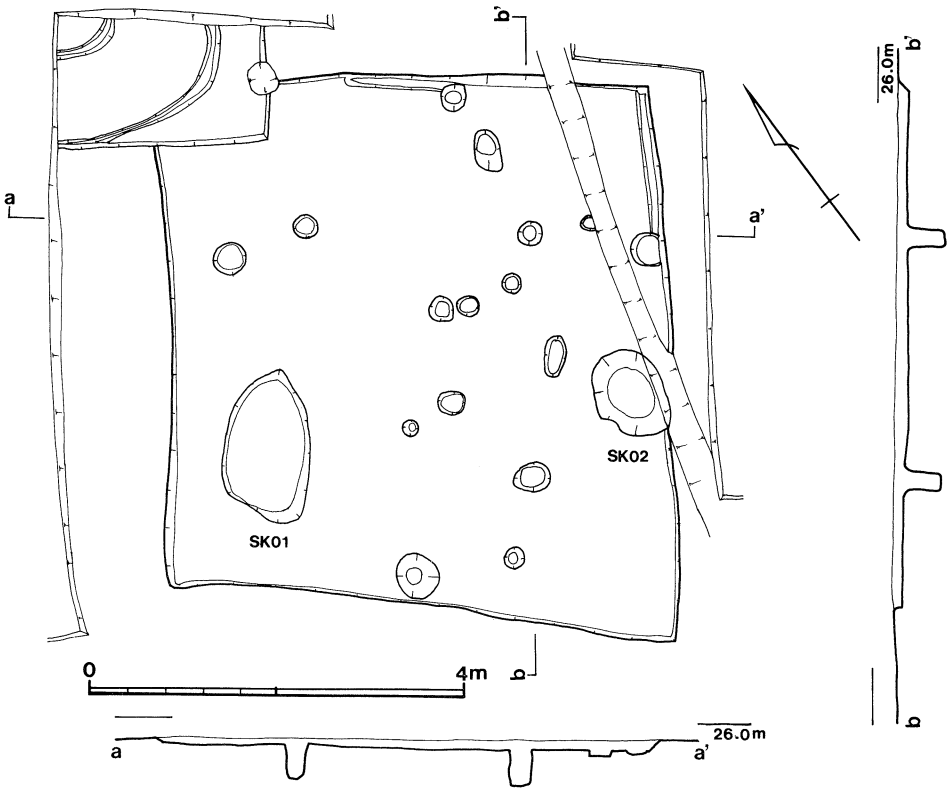


fig.89　ＳＢ304平面・断面図

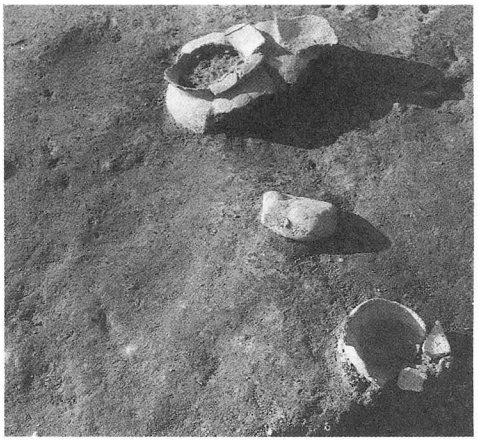


fig.90　ＳＢ304床面土器出土状況

fig.91　ＳＢ304全景（北から）

ＳＤ302　ＳＤ302は、住居址（ＳＢ305）の周壁溝の西側に検出された溝である。遺構内の出土遺物から古墳時代のものと考えられるが、住居址との関係は明確にはならなかった。

ＳＢ306　ＳＢ306は、ＳＢ304を切る竪穴住居址と考えられる。ＳＢ306をさらに中世の遺物を含むＳＸ301が切っている。ＳＢ306の規模等については不明である。

ＳＸ303　ＳＸ303は、ＳＢ302を切る中世の落ち込み状遺構である。南北2.4m、東西1.8m、深さ0.2mの規模である。遺構内より中世の土師器・須恵器が出土した。

８区北から10区の基本層序は、床土・中世遺物包含層・古墳時代遺物包含層・地山となる。ただし古墳時代遺物包含層は、場所によってはまったく存在しないところもある。中世遺物包含層について他の場所と異なることは、12・13世紀頃の遺物とともに、９・10世紀頃の遺物が多く混入している点である。磁器類の出土量は僅かであった。

遺構は10区に集中し９区の遺構は希薄で、中世のピットと土坑ＳＫ103が検出されたにとどまる。

10区では中世の遺構としてはピットを５基検出したが、建物などにまとまるものはなかった。

ＳＫ101　ＳＫ101は、１トレンチの北端に位置する直径１m、深さ0.4mの土坑である。出土遺物としては白磁や須恵器などがある。

10区では古墳時代の遺構としてはピットを４基検出したが、建物などにまとまるものはなかった。

ＳＤ106　ＳＤ106は10区のほぼ中央にあり、東西に走る幅1.5m、深さ0.6mの溝である。出土遺物としては須恵器・土師器などがある。時期としては６世

紀後半から７世紀にかけての間に廃絶したものと思われる。

ＳＫ103　ＳＫ103はＳＢ304の北に位置する。南北幅0.6m、深さ0.１mの土坑である。遺構の形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは少量の土師器が出土している。

ＳＫ104　ＳＫ104はＳＫ101の南に位置する。南北幅0.8m、深さ0.2mの土坑である。遺構の形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは少量の土師器が出土している。ＳＫ104の南にゆるやかなへこみがあり、黒色シルト層の堆積の見られる部分（ＳＸ103）がある。この部分から大量の土師器が出土している。

ＳＸ103

ＳＸ105　ＳＸ105は１トレンチの９区と10区の中間に検出された。幅1.2m、深さ0.4mほどの不整形の落ち込み状遺構である。遺構の形状は調査区外に遺構の大半が延びているために不明である。遺構内からは少量の土師器が出土している。

ＳＸ101　ＳＸ101はＳＤ106の南に位置する南北幅2.0m、深さ0.1mほどの遺構である。その形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。

ＳＸ102　ＳＸ102はＳＫ101の南に位置する幅2.0m以上、深さ0.7mほどの遺構である。その形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。

ＳＸ104　ＳＸ104はＳＫ101の西に位置し、ＳＫ101に切られている。幅2.6m以上、深さ0.7mほどの遺構である。その形状は、調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。

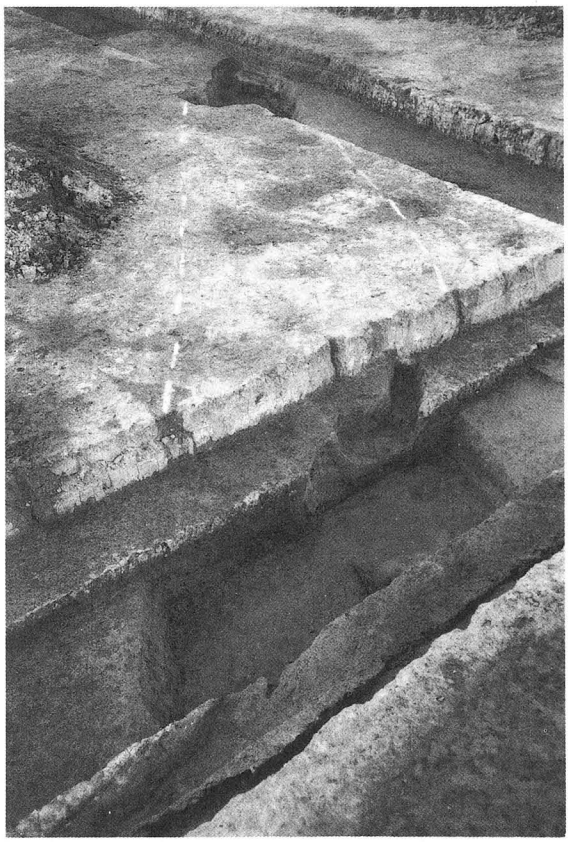


fig.92　ＳＤ101全景（東から）

ＳＫ102　ＳＫ102はＳＸ104の北に隣接して位置する幅1.6m以上、深さ0.7mほどの土坑である。その形状は調査区外に遺構が延びているために不明である。遺構内からは弥生土器が出土している。

ＳＫ105　ＳＫ105はＳＫ102の南に隣接して位置する幅0.65m、深さ0.2mほどの楕円形の土坑である。土坑内から弥生時代の完形の甕が横倒しの状態で出土している。墓もしくは祭祀的な遺構の可能性が考えられるが、確証となるものはない。

ＳＫ106　ＳＫ106はＳＫ102の南に隣接して位置する幅0.35m、深さ0.2mほどの楕円形の土坑である。遺構内からは弥生土器が出土している。

上記の弥生土器は、すべて後期に属するものである。

２トレンチ　２トレンチは、１トレンチ１区から西に伸びる東西約80mの調査区である。約25mピッチで、東より３区に分けた。基本層序は、１トレンチとほぼ同様で遺構面は３面検出された。

ＳＤ201　中世遺物包含層は、西に薄く東に厚く堆積している。１区では、ＳＤ201が検出された。前述したが１トレンチで検出されたＳＤ101と連続するものであろう。この他に遺構は３区まで検出されなかった。３区では、幅0.6m、深さ0.1mの溝（ＳＤ203）と二股に分岐する幅0.3～0.6m、深さ0.1mの溝（ＳＤ204）が検出された。ともに浅い溝で微量の土師器片が出土した。このほかにピット３基が検出されたが、掘立柱建物としてまとまるものではなかった。

ＳＤ203
ＳＤ204

中世遺構面を削除すると、古墳時代遺構面となる。古墳時代遺構面に至るまでの堆積土は薄く、遺物包含層とは認めがたい。

この遺構面では、住居址２棟・溝６条・土坑２基・落ち込み状遺構１基・ピット３基が検出された。この遺構面は先に触れたが、３区付近が高く、２区ＳＤ202の東肩から下がりはじめ、１区で１トレンチの古墳時代遺構面につながる。その比高差は、約0.5mである。

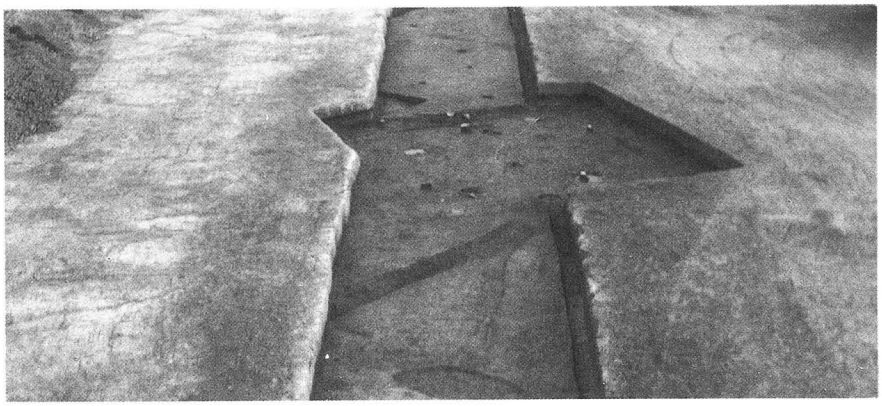


fig.93
２トレンチ
第２遺構面全景
（西から）

ＳＤ208　１区では東端でＳＤ208が検出された。幅0.7m、深さ0.2mの溝状遺構で少量の土師器が出土した。ＳＤ201は、方向からみて１トレンチのＳＤ101の北に伸びる続きであると考えられる。

ＳＫ202　ＳＫ202は、ＳＤ201の西側に検出された土坑である。ＳＤ201の埋まった後の堆積した面に検出された。深さは0.15mと浅く、出土遺物はない。中世以降、古墳時代中期までの時期の遺構である。

ＳＤ207　ＳＤ207は、幅0.7m、深さ0.2mの流路状遺構である。古墳時代の土師器甕・高坏などが出土した。須恵器を含まないことから、古墳時代前期頃と考えられる。

ＳＤ202　ＳＤ202は、約幅1.6m、深さ0.2mの流路状遺構である。古墳時代の土師器甕・高坏などが出土した。出土遺物からＳＤ207と同じ時期と考えられる。

ＳＤ205　ＳＤ205は、約幅0.8m、深さ0.2mの溝状遺構である。古墳時代の土師器甕・高坏・小型丸底壺などが出土した。出土遺物から古墳時代前期頃と考えられる。

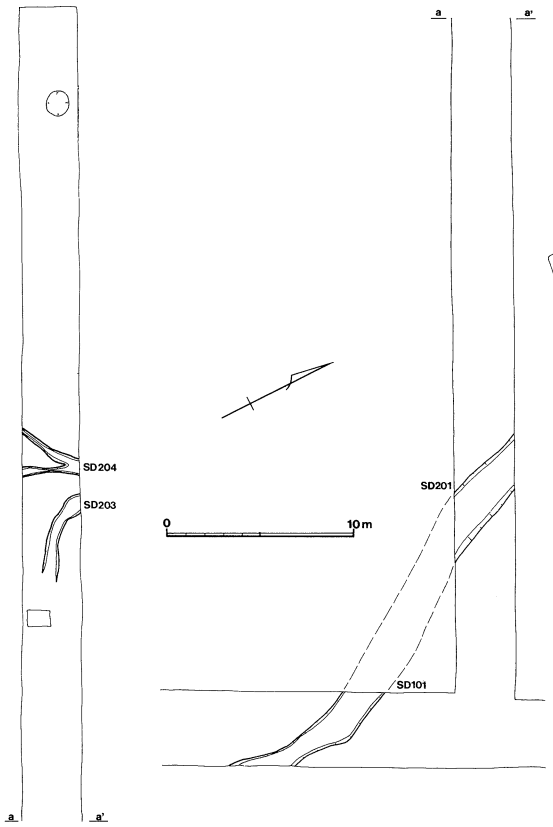


fig.94　２トレンチ第１遺構面遺構配置図

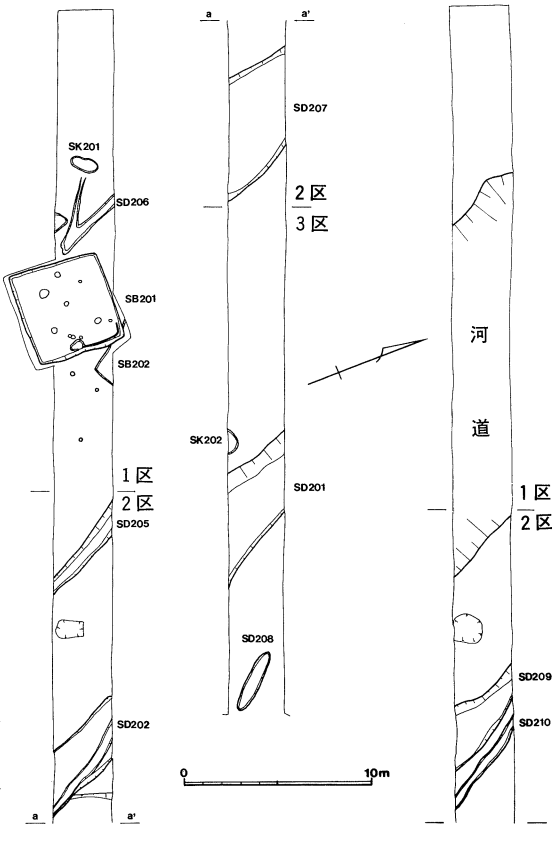


fig.95　２トレンチ第２・第３遺構面遺構配置図

ＳＢ201　ＳＢ201は、１辺4.8mの方形竪穴住居址である。支柱穴は、４ヵ所で、柱間は、2.0m前後である。残存する周壁の高さは0.2m前後で、東辺から北辺の一部に周壁溝が存在する。また東辺中央には、炭を少量含む長径0.8m、短径0.5m、深さ0.1mの土坑が検出されている。出土遺物には土師器壺・埦・高坏、砥石・叩石などがある。時期としては５世紀後半頃と考えられる。

ＳＢ202　ＳＢ202は、ＳＢ201で切られた方形竪穴住居址である。西南部を検出したにとどまり、規模は不明である。古墳時代の土師器が、出土している。ＳＢ201と大差ない時期の遺構と考えられる。

ＳＢ201とＳＤ205との間に、ピットが３基検出された。層序より古墳時代のピットと考えられるが、その性格は不明である。

ＳＢ201の西側では、落ち込み状遺構、二股に分岐する溝状遺構、長径1.4m、短径0.6m、深さ0.05mの長円形の土坑が検出されている。いずれも浅く出土遺物も微量であった。層序と遺構内堆積土から古墳時代のものと考えられる。

第３面の遺構は、ＳＢ201からＳＤ202にかけての遺構面の高い部分に存在する。ＳＤ202以東は、第２面の遺構面の断ち割りの結果、１トレンチと同様の層序となる。なお、ＳＤ202以東では、出土遺物はなかった。

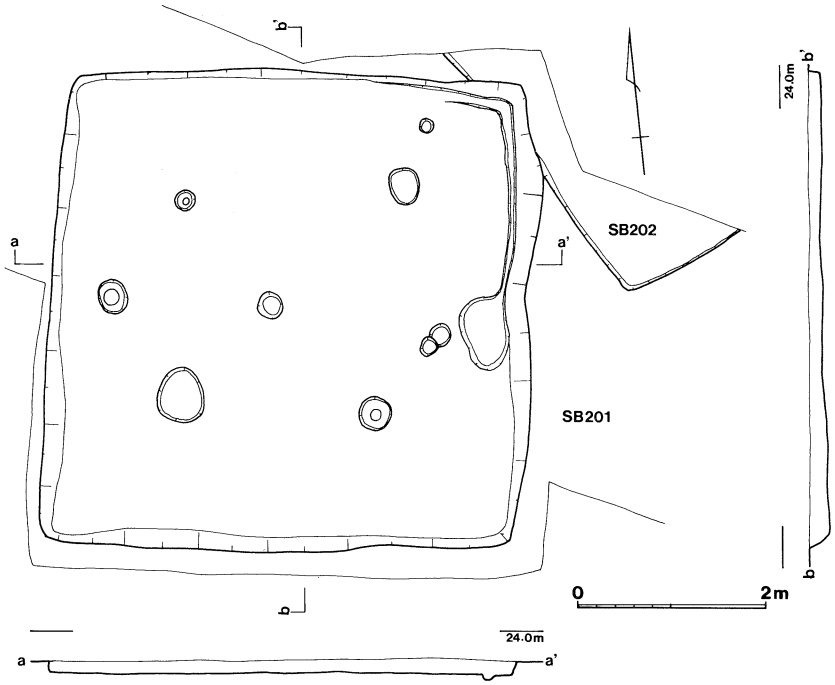


fig.96　２トレンチＳＢ201・202平面・断面図

fig.97　2トレンチＳＢ201全景（西から）

fig.98　ＳＤ209遺物出土状況図

ＳＤ209

ＳＤ209・210は、ＳＤ202の下層で検出された遺構である。ＳＤ209は、幅2.1m、深さ0.5mの溝状遺構である。遺構内堆積土は、大きく２層に分けられる。最上層の薄く堆積した土を除去すると、１層目の遺物があらわれる。古墳時代土師器壺・甕・埦・高坏・ミニチュア土器などとともに、双孔円板が出土した。１層目の遺物を取り除くと２層目の遺物があらわれる。２層目の遺物も１層目の遺物と大差ない時期と思われる。ほかの器種として甑が出土した。また1.3mほどの杭状の木・刀杼と考えられる木器・炭化した木など多くの木片と炭が出土した。

ＳＤ210

ＳＤ210は、幅2.1m、深さ0.5m、ＳＤ209と平行して流れる溝状遺構である。少量の古墳時代の土師器が出土した。

fig.99　ＳＤ209上層遺物出土状況

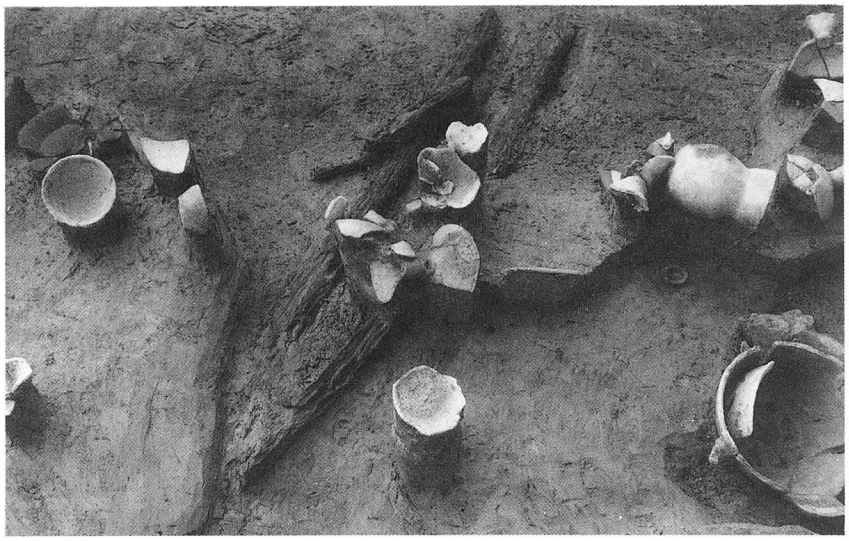


fig.100
ＳＤ209下層遺物
出土状況（南から）

住居址の下層には、幅約20mほどの河道が検出された。出土遺物の量は、それほど多くはないが、弥生時代前期の土器が出土した。

以上、検出された10条の溝は、２条程を除いてすべて北西方向から南東方向に流れている。住居址の検出されたあたりを中心として微高地が存在しているが、溝の方向から微高地は、北西方向から南東方向に伸び、その上に集落が営まれ、東辺部に溝が流れていたことが想定される。微高地の南北の規模は明らかではない。しかし東西の規模は、現地形からの推定ではあるが200m前後と考えられる。そして１トレンチの１～７区は、湿潤な地形であったことが窺われる。

３トレンチ
ＳＸ305

１トレンチを挟んでＳＢ301・302より東側（１・２区）では、中世遺物包含層下に、東西の幅約14m、深さ1.3mの落ち込み状遺構（ＳＸ305)が検出された。堆積土は大きく３層に分けられ、上層は中世の遺物を含み、中・下層は古墳時代の遺物を含む層となる。中・下層に時期差は認められなかった。弥生時代後期の土器と古墳時代の土師器・須恵器が多量に出土した。下層からは中層より多くの木器・木片が出土した。木器は、整形した板材に三角形の切込みをいれた用途不明木器・復元すると角盥もしくは舟形の容器と考えられる木器・農具と考えられる木器（鍬）が出土した。この遺構の時期は、遺物より古墳時代後期である。

ＳＸ305は、旧地形から段丘崖にあたるものと考えられる。１トレンチ７区の土器の多く堆積した部分や後述するＳＸ306も同様に段丘崖下に、段丘上から土器が投棄されたか、流されて堆積したものと考えられる。

１・２区では、ＳＸ305以外の遺構は検出されなかった。

１トレンチを挟んで西側は、約20mピッチで、区画割りを行った。段丘

上が4・5区、段丘下が6・7区となる。4・5区は、中世と古墳時代の遺構面が、それぞれ1面ずつ存在する。

ＳＤ301　住居址群の西側3区から4区にかけて、Ｌ字形のＳＤ301が検出された。幅約0.6m・深さ0.15mの溝状遺構である。出土遺物は、少量の中世土師器片である。

ＳＤ303　ＳＤ303は、幅0.3m・深さ0.1mの溝状遺構である。時期を決めうる出土遺物がなかった。層序より中世から近世と考えられる。

ほかに3区から4区にかけて、ピット7基が検出された。散在しており、掘立柱建物などにはまとまらなかった。

ＳＤ304　古墳時代の遺構面では、4区で二股に分岐する幅0.2～0.4m・深さ0.1mの溝（ＳＤ304）が検出された。層序と遺構内堆積土より古墳時代と考えられる。

ＳＸ304　ＳＸ304は、5区で検出された東西の幅約6.4m・深さ0.7mの落ち込み状遺構である。遺構は二段に落ちる。東側の肩と一段目の落ちた面に、ピットがそれぞれ1基存在する。遺構内堆積土から時期などを決めうる明確な遺物は出土しなかった、ほかに炭片が出土した。

ＳＤ304とＳＸ304の間では、ほかにピットが7基検出された。層序と遺構内堆積土より古墳時代と考えられる。

6・7区では、中世遺物包含層下に落ち込み状遺構が2基検出された。

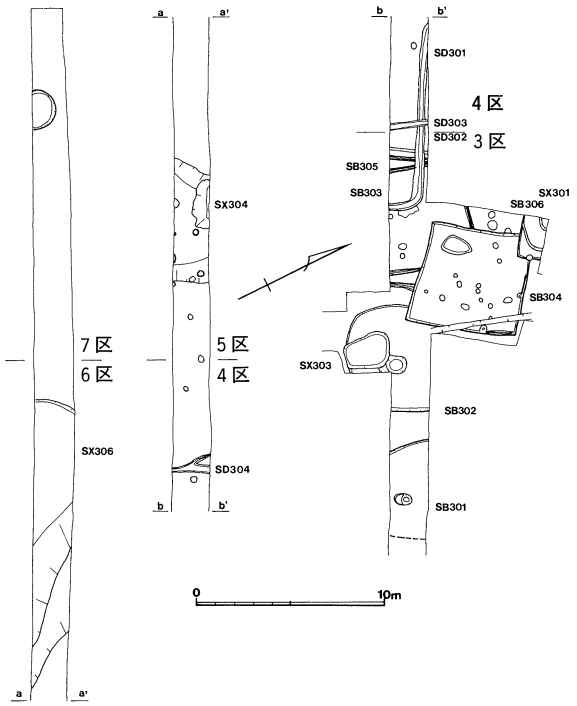


fig.101　3トレンチ遺構配置図

ＳＸ306

ＳＸ306の東側は段丘崖の地山面となる。東西の幅は段丘上から約15m、深さは中世遺物包含層を削除した面から約0.5mである。上層は、中世の遺物が出土し、下層は弥生土器と古墳時代の土師器・須恵器が出土した。

ＳＸ302

7区では、長径2.0m、深さ0.1mのＳＸ302が検出された。遺構内より弥生時代後期の土器が出土した。

下層の状況を確認するために、東西2カ所で断割調査をおこなった。下層は1トレンチ1～6区と同様の堆積状況で、遺構・遺物は検出されなかった。

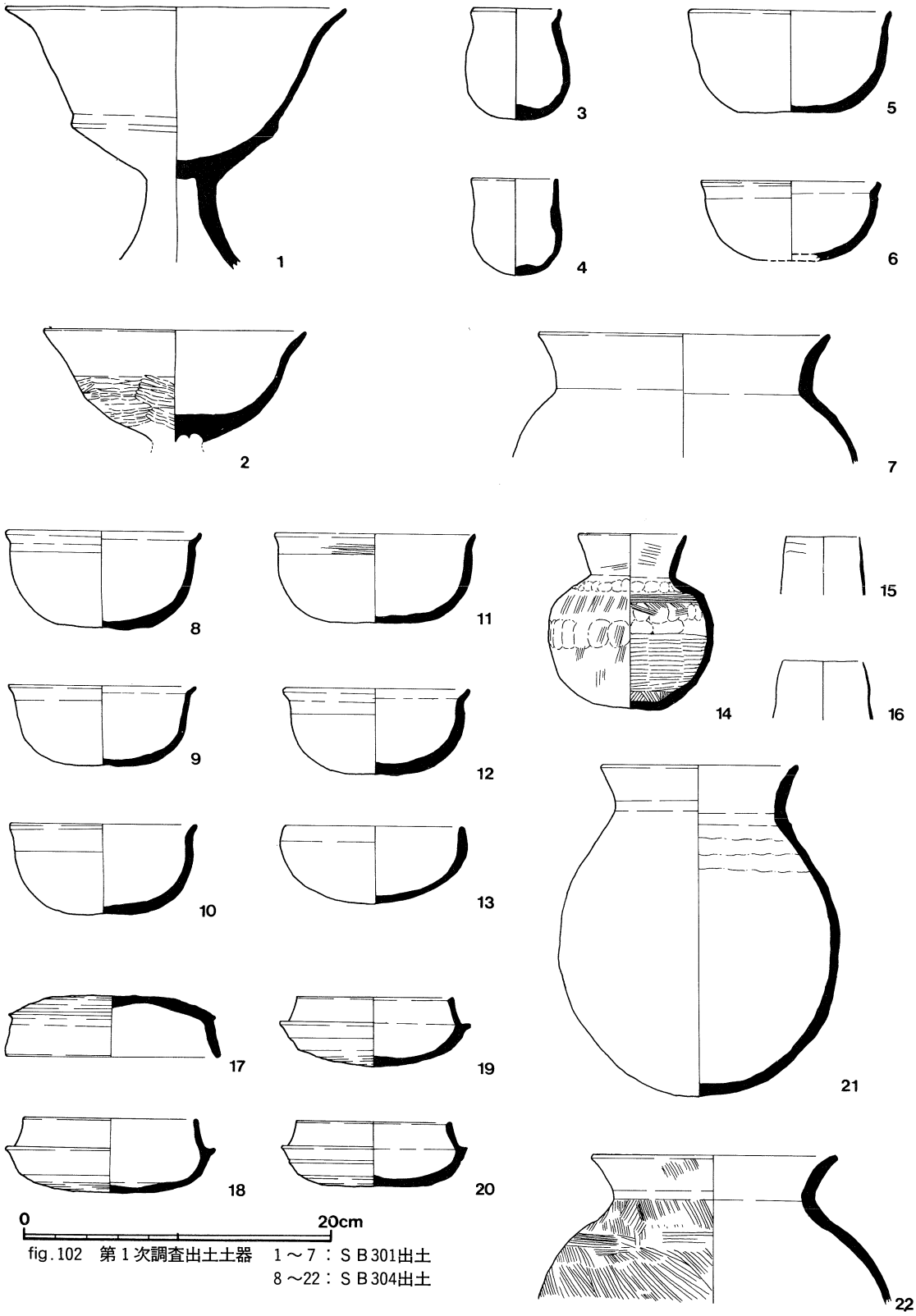


fig.102　第１次調査出土土器　１～７：ＳＢ301出土
８～22：ＳＢ304出土

第２次調査
４トレンチ

基本層序は、現耕作土、旧耕作土、灰色粘質土、灰色粘土（包含層）、黄灰色粘土（地山）である。

灰色粘土は、調査区全域に存在し、弥生時代後期～中世の遺物を包含する。また、検出された遺構は、第１次調査において検出された溝（ＳＤ101・201）につながるＳＤ401のみである。

ＳＤ401

３区で検出された溝で、北西から南西に流れていたと考えられる。検出状況から第１次調査と同様、二時期に分けられる。上面は平安～鎌倉時代、下面は古墳時代中期である。

上面で検出された溝は、平安～鎌倉時代の遺物を包含する。幅1.5m、深さ0.3mを測る。

上面の溝とほぼ同一の場所で古墳時代前期の溝を検出した。幅2.0m、深さ0.7mを測る。

遺物は、小型丸底壺、甕、壺、杭等が出土した。出土状況は第１次調査時と類似しており、溝底直上の灰色粗砂から出土した。小型丸底壺は、内面に穀類を煮焚きにした痕跡が残っている。

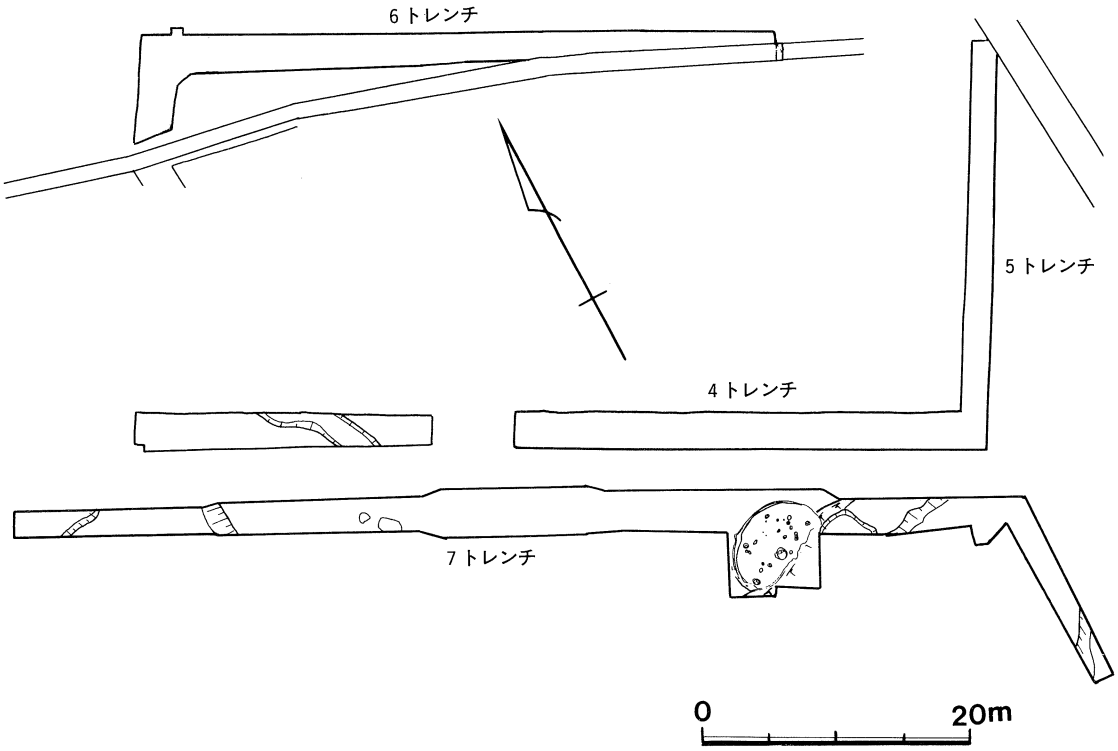


fig.103　４～７トレンチ遺構配置図

fig.104
ＳＤ401
遺物出土状況（西から）

木製品　杭状の木製品が５本出土した。いずれも火熱を受けた痕跡がある。

	残存長(m)	最大径(m)	調整	表皮	炭化状況	その他
Ｗ１	63.0	4.8	片側尖	なし	上部	片側焼失
Ｗ２	50.5	2.5	なし	1/2	全面	両端欠損
Ｗ３	18.0	3.8	片側尖	なし	なし	片側欠損
Ｗ４	55.0	4.0	なし	なし	一方	両端欠損
Ｗ５	142.5	8.5	片側尖	1/2	全面	片側欠損

墨書土器　５区において、平安時代前半の墨書土器片が２点検出された。須恵器坏蓋に「夲」と印されているものと、判読不可能な須恵器坏身である。

５トレンチ　基本層序は、４トレンチと同一である。遺構は検出されなかった。

６トレンチ　基本層序は、現耕作土、旧耕作土、灰色粘質土、暗灰色粘土（遺物包含層）、黄褐色粘質土、黄色砂礫（地山）である。調査区は、東側から西側にかけて緩やかに傾斜しており、東側半分は耕作土直下で地山が検出された。暗灰色粘土層は調査区西側部分で検出された遺物包含層である。完形品に近い甕２点以外は細片の土器が多く、遺構は検出できなかった。

７トレンチ　福中城址の北西方向に隣接する地点である。基本層序は、現耕作土、旧耕作土、灰色粘質土、暗灰色粘土（遺物包含層）、黄褐色粘質土、黄色粘土（地山）である。現地表は東から西に傾斜しているが、現水田土を除去すると、２区のレベルが低く、３区で急に高くなり、西側に向かって緩やかに傾斜している。

１区では、奈良～平安時代の遺物包含層を検出した。工事影響レベル下に約20～40cmの厚さで堆積している。立地条件などから復元すると、東側の谷又は東から伸びる尾根上に当時期の遺構が存在する可能性が高い。

遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居址１棟を検

出した。

遺物包含層からは、弥生時代後期から中世の遺物が混在して出土した。

馬形土製品　住居址を覆う洪水層と考えられる礫層の上面より、馬型土製品が出土した。頭部から勁部にかけての破片で、竹管による刺突で目と手綱を表現し、たてがみはつまみあげている。胴部は中空である。

礫層を除去すると、南西方向に傾斜する黄色粘土層が検出された。当層より下は遺物を包含しない。この面で竪穴住居址、土坑１基が検出された。

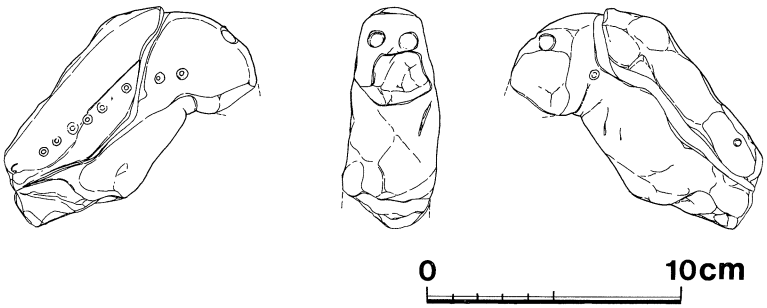


fig.105　7トレンチ出土馬形土製品

ＳＢ701　３区で検出された弥生時代後期の円形竪穴住居址である。東南部分は現水田造成時に削られて失われているが、調査区内で最もレベルの高い場所に立地している。復元径約7.2mと推定される。焼土、炭化材が多く遺存している。焼土は北側に特に多く、炭化材はほぼ全面から検出され、放射状に残存している。

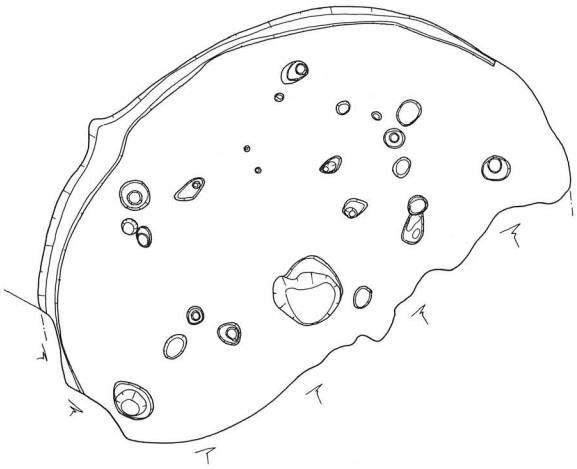
周壁溝は、北側を除く床面残存部で検出され、北側から南側に排水していたと考えられる。

主柱穴は、ほぼ等間隔で、４基検出された。掘形径約40cm、柱痕径約15cmを測り、復元すると６本柱の建物となる。柱穴１（SP01）では、柱材の痕跡がわずかに認められた。これらの主柱穴以外に、掘形径約20cm以下の柱穴が数基検出されたが、規則性は認められない。床面北側で検出された焼土は、炭化材上より検出されており、屋根上に置かれていたか、住居が火災中または直後に置かれた土が熱を受けたものである。

中央土坑は、長径95cm、短径90cm、深さ30cmを測る。埋土上層で土器片と炭化材が出土した。

遺物は、すべて炭化材の検出レベルより低い位置で検出されており、完形に復元できる土器は、すべて床面直上で出土した。

炭化材出土状況



床面完掘状況

fig.106　ＳＢ701平面図

fig.107　ＳＢ701炭化材出土状況（南東から）

fig.108　ＳＢ701床面完掘状況（南東から）

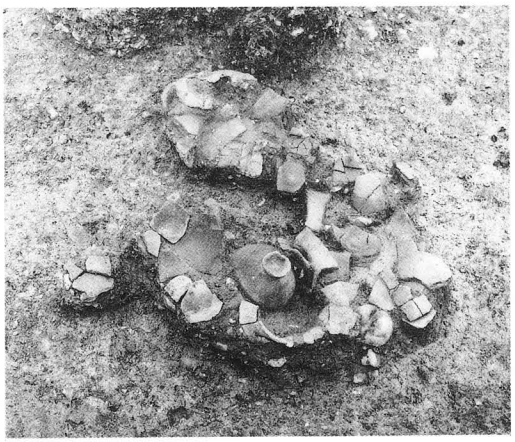


fig.109　ＳＢ701上面土器出土状況（南から）

ＳＫ701　　長辺90cm、短辺60cmの隅円方形の土坑である。埋土は礫の単純層で、遺物は出土しなかた。

fig.110
7トレンチ全景（東から）

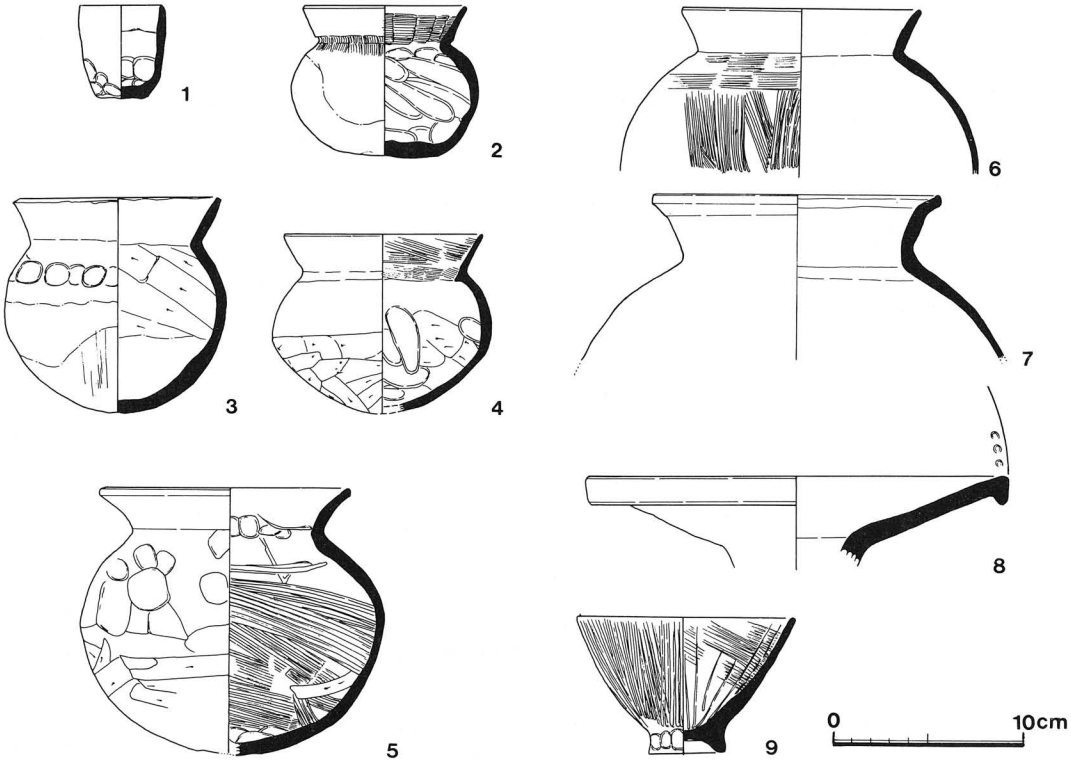


fig.111　第2次調査出土土器　1～5：SD401　6・7：6トレンチ　8・9：SB701

3．まとめ

第1次調査

まず1点目として、弥生時代から中世にかけての各時期の遺構・遺物が検出されたことがあげられる。

2点目として、段丘上と沖積地という立地の条件の異なる地点で、古墳時代のほぼ同時期の集落が存在したことである。

3点目として、沖積地における微高地の存在が、限定された条件ながら明らかになった点である。

4点目として、弥生時代前期の遺物が出土したことにより、この時期の遺構が付近に存在することが予想される。また同時期の遺跡が、印路遺跡・西戸田遺跡・常本遺跡・鍋谷池遺跡と連なることから、明石川中流域で稲作文化が面的に広がっていたことが指摘できる。

以上調査の成果をあげたが、今後の課題として、条里遺構の復元があげられる。今回の調査でも畦畔確認のための精査をおこなったが、時期の限定できる良好な畦畔が発見されなかった。また字名と福中城址との関連の追求なども課題としてのこる。

さらに2トレンチの溝内から出土した祭祀的な遺物と製塩土器の関連も今後の検討課題となろう。

第2次調査

ＳＤ401出土の遺物は、今回及び前回の調査での検出状況から、祭祀に使用された可能性が高い。植物遺体が内面に付着していた小型丸底壺や、焦げた木材等、当時の祭祀の内容を復元できる可能性がある。

ＳＢ701は、段丘上の微高地に立地しており、当地域の弥生時代後期の居住区が、低位段丘から高位段丘まで広がっていることを示している。

7トレンチで福中城址関連の遺物遺構を検出することはできなかった。岡久雄氏の復元図では、当トレンチの位置には、堀割等の城址関連の施設は記されていない。しかし、2区で検出された東側に落ちる落ち込みは、人為的な施設ではなくとも、自然地形を利用した堀割的な施設である可能性は指摘することができる。

fig.112
調査地遠景

8．印路（いんじ）遺跡

1．はじめに

印路遺跡は明石川の西岸に位置しており、昭和63年度の発掘調査では古墳時代前期の集落の一部などが確認され、以前は遺物散布地程度の認識しかなかった当遺跡の実態が次第に明らかになってきた。

今回の調査は平成元年度の印路地区土地改良事業に伴うもので、本調査に先立ち平成元年４月に試掘調査が行われ、弥生時代前期～中世の遺構・遺物が確認された。そして、今回の調査では旧石器時代～近世に至るまでの遺構・遺物が確認され、長い時期にまたがる複合遺跡であることが明らかになった。

2．調査の概要

試掘調査により埋蔵文化財の存在を確認した箇所のうち、排水路・パイプラインなどの設置により埋蔵文化財が破壊される箇所について調査を行った。

調査地区は便宜上、Ⅰトレンチ～Ⅹトレンチの10ヵ所のトレンチを設定し、順次調査を進めていった。

fig.113　調査地位置図　S＝1：5000

Ｉトレンチ　Ｉトレンチでは、４面の遺構面が確認された。

層序はトレンチの東半部と西半部とで若干異なり、東半部では上層より耕土、床土、淡黄灰色粘質土、灰色砂質土、暗灰色粘質土、茶灰色砂質土、灰茶色砂質土、黄灰色細砂、黒茶色粘質土、青灰色シルトの順で、灰色砂質土は中世の遺物、暗灰色粘質土は古墳時代前・中期の遺物、黒茶色粘質土は縄文時代後期～弥生時代中期の遺物をそれぞれ包含する層である。

西半部の層序は灰色砂質土と茶灰色砂質土との間に暗灰色粘質土ではなく、黄灰色粘砂土が存在し、また、灰茶色砂質土の下層の黄灰色細砂が存在しない他は東半部とほぼ同じである。

第１遺構面　中世包含層である灰色砂質土を除去した時点で検出された遺構面で、時期・性格が不明の土坑状遺構（ＳＫ01）が確認された程度である。

第２遺構面　暗灰色粘質土、黄灰色粘砂土を除去した時点で検出された遺構面で、溝状遺構５条、土坑状遺構（ＳＫ11）の他に、数基のピットなどが確認された。

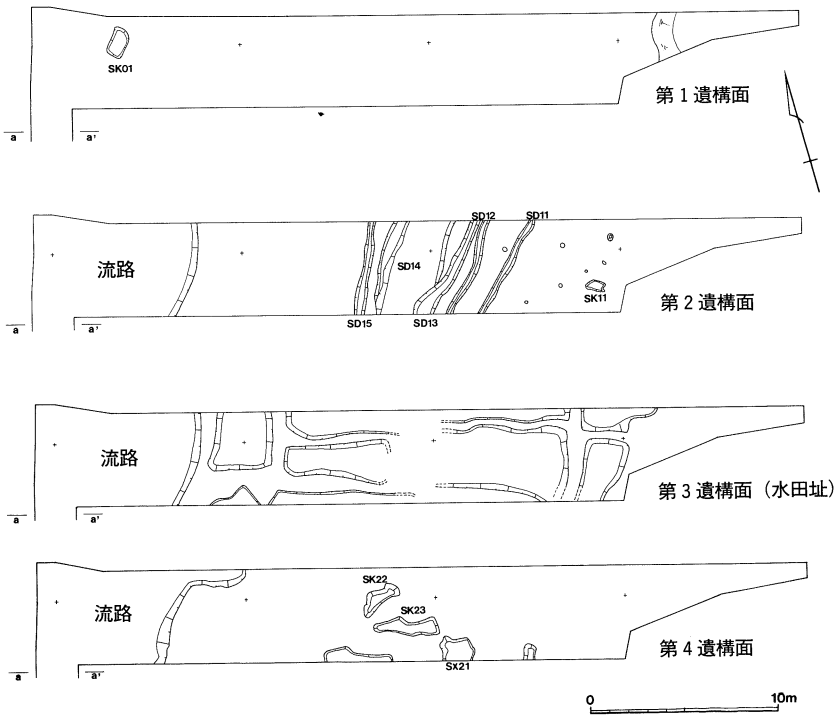


fig.114　Ｉトレンチ平面図

溝状遺構　いずれもその出土遺物から古墳時代前～中期頃の遺構と考えられる。それぞれの溝のおおよその規模は下記の通りである。

- ＳＤ11　30×15　（幅×深さcm）
- ＳＤ12　25×15
- ＳＤ13　80×40
- ＳＤ14　330×50
- ＳＤ15　50×30

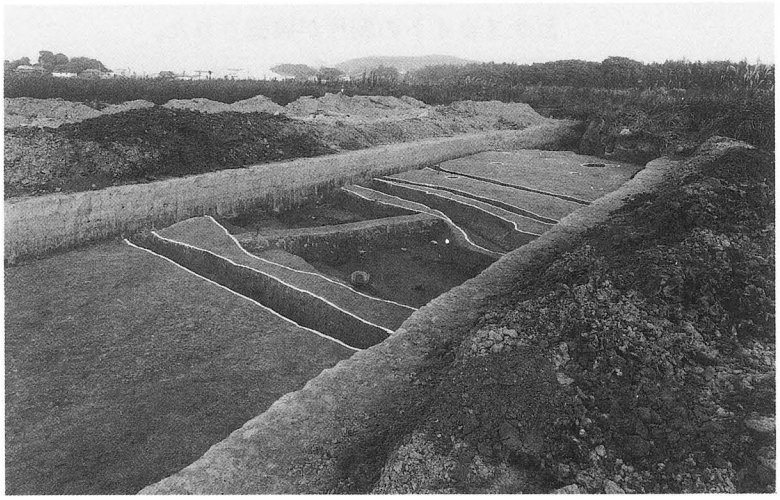
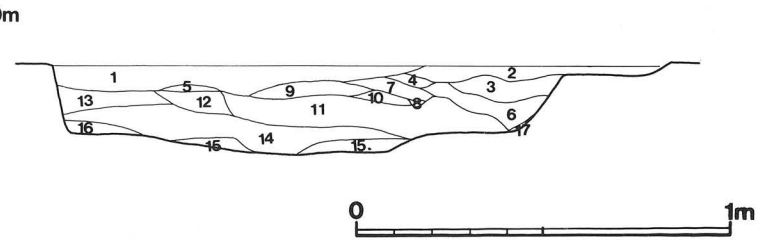


fig.115
Ｉトレンチ
第２遺構面全景（西から）



1．暗灰茶色粘質土
2．暗灰色シルト
3．灰色シルト
4．淡灰色砂質土
5．淡灰茶色砂質土
6．暗灰色細礫混りシルト
7．灰茶色砂質土
8．茶色粘砂土
9．濃灰色粘質土
10．暗黄灰色シルト
11．濃灰色シルト
12．濃灰茶色粘砂土
13．濃灰茶色シルト
14．濃灰茶色細砂混りシルト
15．灰茶色中砂
16．淡茶色粘質土
17．淡灰色シルト

fig.116　ＳＤ14上層断面図

第３遺構面　水田址と考えられる遺構面で、第２遺構面のベースとなっている茶灰色砂質土が水田土壌と考えられる。小畦畔による一区画がかなり小規模で、詳細な時期は不明であるが、弥生時代後期～古墳時代前期頃の遺構と考えられる。

第４遺構面　黒茶色粘質土を除去した時点で検出された遺構面で、土坑状遺構２基（ＳＫ22・23）、不定形落ち込み状遺構３基（ＳＸ21他）が確認された。

また、ＳＫ22・23、ＳＸ21より縄文時代後期のものと考えられる遺物が確認された。

ＳＫ22　深さ約40cmの不整形土坑状遺構で、縄文時代後期の土器片とサヌカイトの剝片が確認された。

ＳＫ23　深さ約15cmの不整形土坑状遺構で、ＳＫ22と同様に縄文時代後期の土器片とサヌカイトの剝片が確認された。

ＳＸ21　深さ約10cmの不定形遺構で、土坑状遺構と同様に縄文時代後期の土器片とサヌカイトの剝片が確認された。

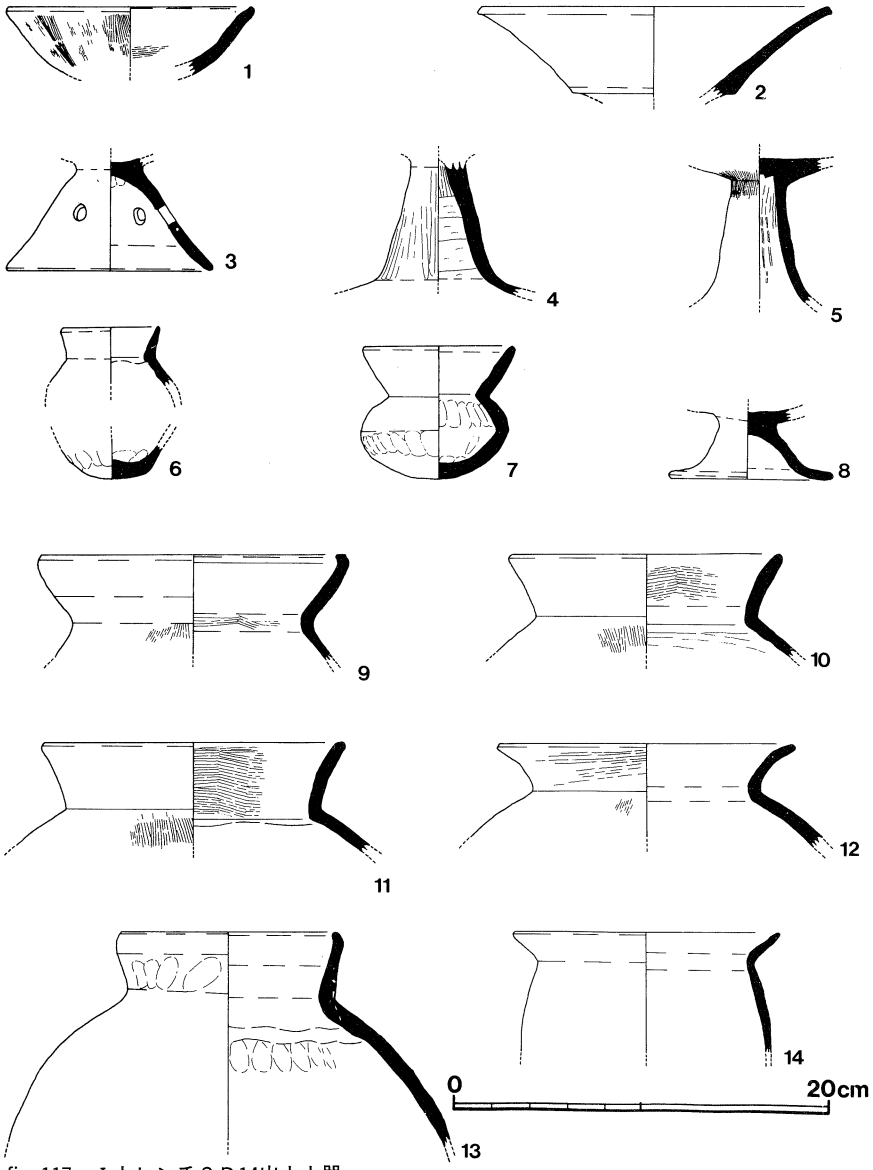


fig.117　Ｉトレンチ ＳＤ14出土土器

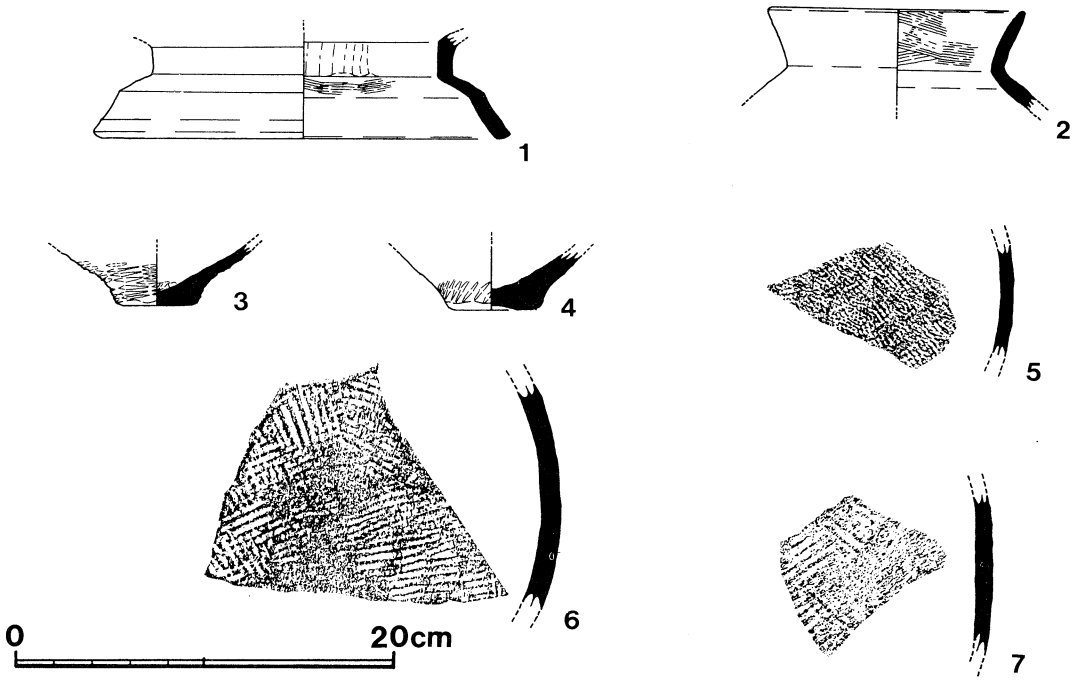


fig.118　Ⅰトレンチ出土土器　1・6・7:ＳＤ14　5:ＳＤ13　2～4:暗灰色粘質土

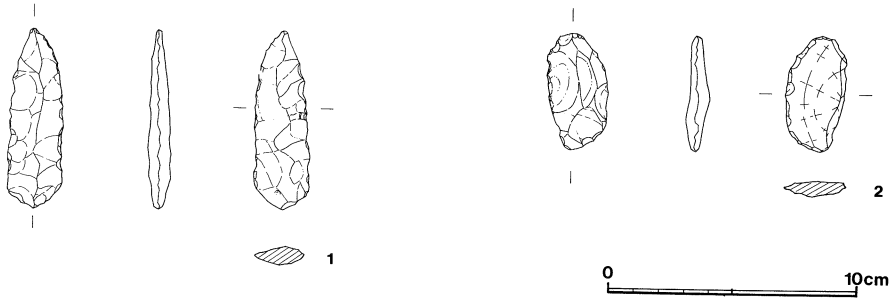


fig.119　Ⅰトレンチ出土石器　1:黒茶色粘質土　2:灰色粘質土

Ⅱトレンチ　Ⅰトレンチの西端部に直交するトレンチで、Ⅰトレンチの第２遺構面に相当する面が存在せず、３面の遺構面のみ確認した。

層序は北端部ではⅠトレンチの西半部と同様であるが、それ以南では少し異なり、また、トレンチの北半部と南半部でも若干異なる。北半部は上層より耕土、床土、淡黄灰色粘砂土、黄灰色砂質土、茶灰色粘砂土、茶灰色砂質土、黒茶色粘質土、淡茶色シルトの順で、南半部では茶灰色砂質土と淡茶色シルトとの間に黒茶色粘質土ではなく、黄灰色細砂が存在する。黄灰色砂質土が中世包含層に相当する層で、他はⅠトレンチと同様である。

第１遺構面　黄灰色砂質土を除去した時点で検出された遺構面で、Ｉトレンチの第１遺構面と同一の面である。

検出された遺構は小規模な溝状遺構（ＳＤ01～03)、不定形落ち込み状遺構（ＳＸ01・02）などで、ＳＤ01より土師器の細片が出土した程度である。

第２遺構面　Ｉトレンチの第３遺構面に相当する面で、Ｉトレンチと同様に茶灰色粘砂土を除去した時点で検出された遺構面である。

Ｉトレンチと同様、水田址と考えられる遺構面で、茶灰色砂質土が水田土壌であると考えられる。

第３遺構面　Ｉトレンチの第４遺構面に相当する面で、黒茶色粘質土・黄灰色細砂を除去した時点で検出された遺構面である。

土坑１基（ＳＫ21)、溝状遺構３条（ＳＤ21・22・24）などが検出され、縄文時代後期に属すると考えられる遺物が確認された。

ＳＫ21　長径約150cm、短径約90cm、深さ約40cmの土坑で、縄文時代後期の粗製深鉢土器片が確認された。

fig.120　Ⅱトレンチ第３遺構面（北から）

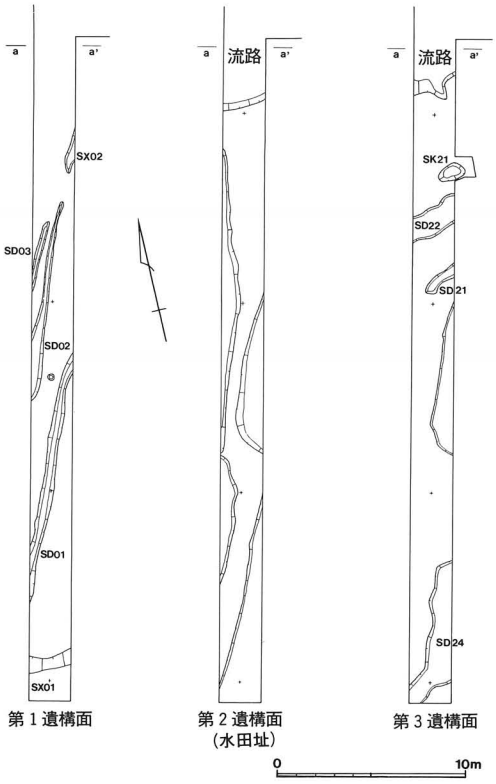


fig.121　Ⅱトレンチ平面図